

Parallels[®] Panel

カスタマガイド

Parallels Plesk Panel 11.0

著作権表示

Parallels IP Holdings GmbH

Vordergasse 59

CH-Schaffhausen

Switzerland

電話番号 : +41-526320-411

FAX : +41-52672-2010

Copyright © 1999-2012 Parallels IP Holdings GmbH. All rights reserved.

この製品はアメリカ合衆国著作権法および国際著作権法によって保護されています。本製品のテクノロジー、特許、および商標について詳細は、<http://www.parallels.com/jp/about/legal/> を参照してください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、Windows Vista、およびMS-DOSは、Microsoft Corporationの登録商標です。

LinuxはLinus Torvalds氏の登録商標です。

MacはApple, Inc.の登録商標です。

その他のマークおよび名称は、それぞれの権利保有者の商標です。

目次

はじめに 6

| | |
|---------------|---|
| フォント規則 | 6 |
| フィードバック | 7 |

Panel 11 へのアップグレード後に最初にやるべきこと 8

Plesk Panel クイックスタート 11

| | |
|--------------------------|----|
| 最初のウェブサイトをセットアップする | 12 |
| 1. サイトを作成する | 12 |
| 2. サイトをプレビューする | 15 |
| 3. サイトを検索エンジンに登録する | 16 |
| メールアカウントをセットアップする | 17 |
| 1. ユーザーアカウントを作成する | 17 |
| 2. メールボックスにアクセスする | 18 |
| サイト訪問統計を表示する | 35 |

顧客アカウント管理 36

| | |
|-------------------------------------|----|
| パスワードと連絡先情報を変更する | 39 |
| 契約の概要を確認する | 40 |
| 割り当て済みリソースおよび使用済みリソース | 42 |
| ウェブサイトで使用できるホスティング機能: | 44 |
| アカウント残高と請求書を管理する | 48 |
| 従量課金料金を計算する | 50 |
| プロバイダのプランをプロモーションしてクレジットを獲得する | 50 |
| 追加のリソースを注文する | 52 |
| 統計を表示する | 54 |
| ログファイル | 55 |
| (高度) 補助ユーザーアカウントを管理する | 56 |
| ユーザー役割 | 57 |
| 補助ユーザーアカウント | 59 |
| カスタムリンク | 61 |

ウェブサイトとドメイン 63

| | |
|----------------------------------|----|
| ドメインと DNS | 64 |
| ドメインを追加する | 65 |
| サブドメインを追加する | 67 |
| ドメインエイリアスを追加する | 69 |
| (Linux) ワイルドカードサブドメインを追加する | 71 |
| (高度) ドメイン用に DNS を構成する | 72 |
| ホスティング設定を変更する | 83 |

| | |
|-------------------------------------------------|------------|
| ウェブスクリプト設定 | 85 |
| ウェブサイトを一時停止または起動する | 93 |
| ウェブサイトをメンテナンスのために一時停止する | 94 |
| ウェブサイトコンテンツを管理する | 96 |
| ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する | 99 |
| (高度) コンテンツへのアクセスを制限する | 102 |
| ウェブサイトをプレビューする | 105 |
| ウェブサイトアプリケーションを使用する | 106 |
| アプリケーションを構成する | 107 |
| 補助ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する | 108 |
| アプリケーションと補助ユーザアカウントを関連付ける | 109 |
| インストール済みアプリケーションを更新する | 110 |
| 商用アプリケーションのライセンスを管理する | 110 |
| (高度) ウェブサイトのセキュリティを強化する | 114 |
| 接続を SSL 証明書で保護する | 114 |
| ホットリンクからサイトを保護する (Windows) | 120 |
| (高度) 拡張ウェブサイト管理 | 121 |
| ステージングサイトを使用する | 121 |
| モバイルサイトをセットアップする | 124 |
| カスタムエラーページをセットアップする | 125 |
| ドメインフォワーダを追加する | 128 |
| Google サービスを使用する | 131 |
| ドメイン下で個人ウェブページをホスティングする | 133 |
| ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限する | 135 |
| Microsoft Frontpage ウェブサイトを使用する (Windows) | 136 |
| 仮想ディレクトリを使用する (Windows) | 141 |
| IIS アプリケーションプールをセットアップする (Windows) | 155 |
| Web Deploy によるウェブパブリッシング (Windows) | 157 |
| Web Presence Builder でウェブサイトを作成する | 159 |
| Web Presence Builder に慣れる | 161 |
| ウェブサイトを作成する | 163 |
| SiteBuilder 4.5 からサイトをインポートする | 164 |
| ウェブサイトを編集する | 166 |
| 構造: ページおよびナビゲーション | 166 |
| デザイン: レイアウト、スタイル、カラースキーム、ヘッダ | 169 |
| コンテンツ: テキスト、表、画像、動画、フォーム、およびスクリプト | 175 |
| ウェブマスター用の設定とツール | 193 |
| ウェブサイトのコピーの保存および読み込み | 197 |
| インターネット上にウェブサイトを公開する | 199 |
| Facebook にウェブサイトのコピーを公開する | 200 |
| ダッシュボードでサイトの訪問統計、コメント、新規注文を確認する | 202 |
| ウェブサイトを削除する | 204 |
| ウェブサイトへの FTP アクセス | 205 |
| FTP アクセスクレデンシャルを変更する | 205 |
| FTP アカウントを追加する | 206 |
| 匿名 FTP アクセスをセットアップする | 208 |

| | |
|-----------------------------------------------|------------|
| メール | 210 |
| メールアカウントを追加する..... | 210 |
| メールを構成する..... | 211 |
| メールアカウントを構成する..... | 212 |
| (高度)メールのグローバル設定を構成する..... | 219 |
| メーリングリストを使用する..... | 220 |
| | |
| タスクをスケジューリングする | 221 |
| タスクをスケジューリングする (Linux ホスティング) | 222 |
| タスクをスケジューリングする (Windows) | 225 |
| | |
| (高度) データベースを使用する | 228 |
| データベースを管理する..... | 228 |
| データベースを作成する..... | 228 |
| データベースをインポートする..... | 230 |
| データベースユーザアカウントを作成する..... | 231 |
| 外部データベースにアクセスする (Windows) | 233 |
| | |
| (高度) データをバックアップおよび復元する | 235 |
| データをバックアップする..... | 236 |
| アカウントとウェブサイトをバックアップする..... | 238 |
| データベースをバックアップおよび復元する (Windows) | 240 |
| バックアップをスケジューリングする..... | 241 |
| バックアップファイルを管理する..... | 243 |
| バックアップファイルをアップロード/ダウンロードする..... | 243 |
| データベースバックアップファイルをアップロード/ダウンロードする (Windows) .. | 244 |
| データを復元する..... | 246 |
| バックアップを復元する..... | 246 |
| データベースを復元する (Windows) | 247 |

はじめに

フォント規則

当ガイドをご使用いただく前に、文書内の表記上の規則をご理解くださいますようお願い致します。

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

| 表記 | 意味 | 例 |
|------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 特殊太字 | メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、ユーザが選択する必要のある項目。 | [システム] タブに進みます。 |
| | 章、セクション、サブセクションのタイトル。 | 「 基本管理 」の章を参照してください。 |
| 斜体 | 初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダの指定などの、重要な箇所を強調するために使用されます。 | システムはいわゆる <i>ワイルドカード</i> 文字検索に対応しています。 |
| 固定幅フォント | コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。 | ライセンスファイルは <code>http://docs/common/licenses</code> ディレクトリにあります。 |
| 書式設定済みフォント | コマンドラインセッションでの画面出力、XML、C++、その他のプログラミング言語のソースコード。 | <pre># ls -al /files total 14470</pre> |
| 書式設定済み太字 | 入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。 | <pre># cd /root/rpms/php</pre> |
| アルファベット大文字 | キーボード上のキーの名前 | SHIFT、CTRL、ALT |
| KEY+KEY | ユーザがあるキーを押しながら他のキーを押す必要があるキーの組み合わせ。 | CTRL+P、ALT+F4 |

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@parallels.co.jp 宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしてくださいようお願い致します。

第 1 章

Panel 11 へのアップグレード後に最初にやるべきこと

本章では、Parallels Plesk Panel バージョン 9 またはそれ以前のバージョンを使用していたホスティングサービスの顧客を対象に、Panel の重要な変更点や、Panel のアップグレード中にアカウントやサイトを Parallels Plesk Panel 11 に移行した後でユーザに発生する可能性がある問題を説明します。

重要なコンセプト

- 「ドメイン」が「契約」に変更されました。
「ドメイン」の概念に代わるものとして「契約」が導入されました。「契約」とは、特定のリソースとサービスを使用して複数のサイト（ドメインとサブドメイン）を実行できるホスティング単位です。1つの契約でマルチドメインホスティングを行う場合、IP アドレスは1つに限定されます。IP アドレスを複数使用してサイトをホスティングする必要がある場合は、契約を追加購入してください。
- クライアントのリソースは、契約のリソースとなりました。
ドメインや契約に対して顧客がリソースを再割り当てする必要はなくなりました。それぞれの契約には、ホスティングプランごとに決められたリソースセットが割り当てられます。
- 一般に、SSL 証明書は契約のすべてのドメインに共有されます。
一般に、契約内のすべてのサイトが1つの SSL 証明書を共有します。契約内のすべてのサイトを保護したい場合は、マルチドメイン用（ワイルドカード）SSL 証明書の購入をお勧めします。Panel が SNI をサポートする場合は、ドメインごとに証明書を持たせることもできます。

SiteBuilder のアップグレードに関する注記

- Panel 11 には Web Presence Builder (旧 SiteBuilder) が付属しませんが、SiteBuilder 4.5 を使用することもできます。
Parallels Web Presence Builder は、ウェブサイトを迅速かつ効率的に作成することを可能にする Panel コンポーネントです。SiteBuilder 付きで Plesk を Parallels Plesk Panel 11 にアップグレードしても、SiteBuilder コンポーネントはアップグレードされず、代わりに Web Presence Builder がサーバにインストールされます。SiteBuilder 4.5 も引き続き使用できますが、SiteBuilder 4.5 で作成したウェブサイトに対して実行できる操作は、編集と公開に限られます。
- ウェブサイトを SiteBuilder 4.5 から Web Presence Builder に移管することはできませんが、いくつかの制限事項があります。

SiteBuilder 4.5 で作成したウェブサイトを Web Presence Builder にインポートすることはできますが、この機能には、いくつかの制限事項があります。インポート後のウェブサイトで、一部の要素が損失または破損している場合があります。インポート前のサイトとインポート後のサイトを比較して、不足しているコンテンツがあれば手動で追加することをお勧めします。

SiteBuilder 4.5 サイトの Web Presence Builder へのインポートについては、「SiteBuilder 4.5 からサイトをインポートする (164 ページ)」を参照してください。

セキュリティの高いコンテンツの保存に関する変更

- *httpdocs* は、セキュア SSL 経由でアクセスするウェブコンテンツの保存に唯一使用できるディレクトリです。

これらのウェブコンテンツを別ディレクトリに保存するオプションは廃止されました。1 つのディレクトリ (*httpdocs*) にすべてのウェブコンテンツが保存されます。

Parallels Plesk Panel 11 へのアップグレード後も *httpsdocs* ディレクトリはウェブスペースに残りますが、FTP 経由でウェブスペースにファイルをアップロードするときは、すべてのコンテンツを *httpdocs* ディレクトリに保存することをお勧めします。

これまで、SSL 保護されたコンテンツを他のコンテンツとは別のディレクトリに分けるオプションを使用しており、APS パッケージされたアプリケーションをウェブサイトの *httpsdocs* ディレクトリにインストールしていた場合、Panel をアップグレードすると、このウェブサイトに対して互換モードがオンになります。したがって、インターネットユーザは以前に *httpsdocs* ディレクトリにインストールしたアプリケーションに今後も引き続きアクセスできますが、Panel でこのアプリケーションを管理することや、*httpsdocs* ディレクトリに新しいアプリケーションをインストールすることはできなくなります。

このような作業を行う必要がある場合、上級ユーザは次のような手順で実施できます。

1. *httpsdocs* ディレクトリからすべてのコンテンツをバックアップし、他の場所に保存します。まだ *httpdocs* にはファイルを移動しないでください。
2. *httpsdocs* ディレクトリにインストールされているアプリケーションで使用されるデータベースをバックアップします。これには、*mysqldump* ユーティリティを使用します。
3. *httpsdocs* ディレクトリからアプリケーションを削除します。
4. Panel で互換モードをオフにします（[ウェブサイトとドメイン] タブで **ドメイン名** をクリックします）。
5. 必要なアプリケーションを再インストールします。
6. ステップ 1 でバックアップしたデータを *httpdocs* ディレクトリにアップロードします。
7. アプリケーションのデータベースを MySQL データベースサーバにインポートして、データベースを復元します。

上級ユーザ以外は、以前にインストールしたアプリケーションとアップロードしたコンテンツを `httpsdocs` ディレクトリに残しておき、他のウェブサイトで新たにアプリケーションをホスティングすることをお勧めします。互換モードで稼働しているサイトにアプリケーションをインストールする必要がある場合は、このサイトの `httpdocs` (`http://`) ロケーションにアプリケーションをインストールします。

第 2 章

Plesk Panel クイックスタート

最新調査によると、インターネットはテレビや新聞といった旧来のメディアを遥かに凌ぎ、人々にとって重要な情報源となっています。今や、サービスを探す人が真っ先に調べるのは、ウェブ上の情報です。そのため、適切なウェブサイトを構築することはあらゆる企業にとって必要不可欠です。そのためには、様々な手法があります。たとえば、問い合わせページのみシンプルなものから、ERP システムへのアクセスを提供する大企業の複雑なウェブサイトまで、様々なウェブサイトがあります。いずれの場合でも、ビジネスをオンライン化するには、同様の手順に従う必要があります。

先に進む前に、まず、次の 2 つの重要な手順を行う必要があります。

- **ホスティングプロバイダから顧客アカウントを購入する。**
顧客アカウントとは、ウェブサイトの構築に不可欠なサービス（インターネット接続、ウェブコンテンツを格納するためのディスク領域など）を利用するためのアカウントです。Panel の顧客アカウントについて詳しくは、「**顧客アカウントの管理**（36 ページ）」の章を参照してください。
- **ドメイン名を登録する。**
ドメイン名とは、ユーザがウェブサイトにアクセスするためにブラウザに入力する名前です（例： `www.example.com`）。

これら 2 つの要素（ウェブホスティング管理用のアカウントとドメイン名）がウェブサイトの基盤となります。

この章では、最初のウェブサイトを構築し、コンテンツを挿入し、サイトのユーザ用にメールボックスを作成し、サイト訪問統計を確認する方法を説明します。

高度なホスティング機能

Panel の基本機能に慣れたところで、高度なホスティング機能を試してみましょう。たとえば、ウェブアプリケーションをインストールして（106 ページ）ウェブサイトの機能を拡張する、SSL 証明書を使用してサイトのセキュリティを高める（114 ページ）、データベースを導入する（228 ページ）といった作業が可能です。ホスティングプロバイダが、顧客のコントロールパネルをよりシンプルで使いやすくするために、一部の高度な機能を無効化している場合もあります。「**（高度）**」とマーキングされているセクションで説明する機能は、無効化されている場合があります。これらのオプションの使用を希望する場合は、ホスティングプロバイダにご相談ください。

最初のウェブサイトをセットアップする

顧客アカウントとドメイン名の用意ができれば、次の作業はウェブサイトの作成です。ウェブサイト作成方法については、「1. サイトを作成する（12ページ）」のセクションで説明します。

サイトの準備ができれば、ブラウザでサイトの外観を確認できます。ブラウザでの確認方法は、「2. サイトをプレビューする（15ページ）」のセクションで説明します。

完璧なサイトが完成しても、見る人がいなければ効果はありません。デザイン作業がすべて完了したら、サイトを主要な検索エンジンに登録する必要があります。検索エンジンへの登録方法は、「3. サイトを検索エンジンに登録する（16ページ）」のセクションで説明します。

1. サイトを作成する

ウェブサイトの作成には、主に次の3つの方法があります。

- ウェブデザイン会社にサイトの作成を依頼し、コンテンツのみを自社管理する。
- *Web Presence Builder* を利用してサイトを自力で作成する。これにより、プロが作成したようなウェブサイトをわずか数クリックで簡単に作成できます。詳しくは、「*Web Presence Builder*（13ページ）」のセクションを参照してください。
- サードパーティのコンテンツ管理システム（ページ、スクリプト、アプリケーションなどのウェブサイトコンテンツを簡単に作成および編集できるエディタ）でウェブサイトを作成する。サードパーティ製コンテンツ管理システムでのサイト作成について詳しくは、「*コンテンツ管理システム*（13ページ）」を参照してください。

既製のサイトを購入した場合やサイトを自力で作成した場合、サイトをウェブ上で閲覧可能にするためには、アカウントにサイトのコンテンツをアップロードする必要があります。コンテンツのアップロードには2つの方法があります。

- *FTP* を使用： 詳しくは、「*FTP* 経由でコンテンツをアップロードする（15ページ）」のセクションを参照してください。
- 統合されたファイルマネージャを使用： 詳しくは、「*ファイルマネージャでコンテンツをアップロードする*（15ページ）」のセクションを参照してください。

Web Presence Builder

Web Presence Builder は、HTML マークアップやグラフィックデザインのスキルがないユーザでもプロが作成したようなサイトを作成できる便利なツールです。このツールは、シンプルなビジュアルエディタと多種多様なウェブサイト用のテンプレートを提供します。このエディタを使用して、ウェブページの作成、各種コンテンツ（テキスト、画像、動画、スクリプト）の追加、およびウェブサイト名、キーワード、アイコンなどのウェブサイト設定の編集といった作業を実行できます。

Web Presence Builder でウェブサイトを作成するには、ホスティング契約にこのオプションが含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、他の方法を選択するか、契約をアップグレードしてください。

➤ *Web Presence Builder* でウェブサイトを作成するには：

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、 [Web Presence Builderを起動する] リンクをクリックします。
2. ウェブサイトに最も適したトピックを選択します。
3. ウェブサイトを編集します。
 - a. **構造**： ページを追加したり、不要な事前定義ページを削除します。
 - b. **コンテンツ**： 事前定義コンテンツを自社に合わせて変更したり、必要な要素（テキスト、画像、動画、スクリプトなど）を追加します。
 - c. **デザイン**： レイアウトやカラースキームを変更します。
4. ウェブサイトを公開します。

Web Presence Builder によるウェブサイト作成について詳しくは、「Web Presence Builder でウェブサイトを構築する」のセクションを参照してください。

コンテンツ管理システム

コンテンツ管理システム（CMS）とは、ページ、スクリプト、ファイル、マルチメディアコンテンツといったウェブサイトコンテンツの追加や編集のための GUI を提供するアプリケーションです。

サードパーティ CMS でウェブサイトを作成するためには、自社のホスティングアカウントに CMS をインストールする必要があります。CMS をインストールできるのは、ホスティング契約でそれが許可されている場合に限られます。

➤ *CMS* を使用してウェブサイトを作成するには：

1. [アプリケーション] タブに進みます。

2. 利用可能なアプリケーションのリストで、必要なCMSを探し、「**ウェブサイトアプリケーションを使用する**（106ページ）」のセクションに従ってインストールします。
3. CMSでウェブサイトを作成します。CMSによるウェブサイトの作成方法について詳しくは、該当CMSのマニュアルを参照してください。

コンテンツをアップロードする

ウェブサイトを自力で作成済みか、ウェブデザイン会社に依頼して作成済みの場合は、ウェブサイトファイルとフォルダをプロバイダのサーバにアップロードするだけです。アップロードは、次のいずれかの方法で実行できます。

- **FTPを使用**：この方法は、顧客アカウントにアクセスする必要がないことから、複数のユーザがウェブサイトのコンテンツを管理する必要がある場合に有益です。これらのユーザ用にFTPユーザを作成するだけで準備完了です。この方法について詳しくは、「**FTP経由でコンテンツをアップロードする**（15ページ）」のセクションを参照してください。
- **コントロールパネルのファイルマネージャを使用**：この方法は、コントロールパネルのGUIを使用するため、HTMLエディタやファイルパーミッションマネージャといった便利な機能の数々を利用することができ、より有益です。ファイルマネージャの機能について詳しくは、「**ファイルマネージャでコンテンツをアップロードする**（15ページ）」のセクションを参照してください。

FTP 経由でコンテンツをアップロードする

➤ FTP 経由でウェブサイトを公開するには：

1. 自社のFTPアカウントのユーザ名とパスワードを使用して、FTPクライアントプログラムでサーバのウェブスペースに接続します。

Panel でユーザ名とパスワードを変更するには、**【ウェブサイトとドメイン】** タブで **【ウェブホスティング設定】** を選択します。

FTP アドレスは `ftp://your-domain-name.com` という形式（`your-domain-name.com` はサイトのインターネットアドレス）にします。

ファイアウォールを使用している場合は、パッシブモードを有効にします。

2. サイトのファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリにアップロードします。CGIスクリプトを使用する場合、`cgi-bin` ディレクトリにスクリプトを置きます。
3. FTPセッションを終了します。

また、ウェブサイトコンテンツに関して他のユーザとコラボレーションする必要がある場合は、追加のFTPアカウントをセットアップすることもできます。詳しくは、「**FTP アカウントを追加する**（206ページ）」のセクションを参照してください。

でコンテンツをアップロードする

自分のコンピュータから Panel サーバにファイルマネージャを使用してウェブサイトをアップロードするには、コントロールパネルの **【ファイル】** タブを開き、このタブの中央部分にウェブサイトフォルダをドラッグしてください。また、圧縮 ZIP ファイルとしてウェブサイトをアップロード後、に統合されたアーカイバを使用してコンテンツを展開することもできます。

では、以下の作業も実行できます。


- ビジュアルエディタで HTML ファイルを編集します。
- ウェブサイトページをプレビューします。
- テキストエディタでファイルを編集します。
- ファイルのアクセスパーミッションを管理します。

ウェブサイトファイルとフォルダをファイルマネージャでアップロードおよび編集する方法について詳しくは、「**ウェブサイトコンテンツを管理する**（96ページ）」のセクションを参照してください。

2. サイトをプレビューする

ウェブサイトファイルをウェブスペースにアップロードすると、新しいサイトに関する情報がドメインネームシステムにまだ反映されていなくても、ウェブブラウザでどのように表示されるのか確認することができます。

➤ サイトをプレビューするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある【契約】メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. 【ウェブサイトとドメイン】タブをクリックします。
3. 画面下にあるドメイン名のリストで、プレビュー対象のウェブサイトを探し、対応するアイコン  をクリックします。
新しいブラウザウィンドウにサイトが表示されます。

注： Web Presence Builder で作成したサイトの場合、プレビューモードではサイトページへの保護アクセスが正しく機能しない場合があります。

ドメイン名が未登録であっても、他のユーザにサイトを見せる必要がある場合があります。自社のホスティングアカウントへのアクセス権限を付与することなくこれを実現する方法はいくつかあります。詳しくは、「ウェブサイトプレビューする (105ページ)」のセクションを参照してください。

3. サイトを検索エンジンに登録する

サイト訪問者を増やし、サイトへのトラフィックを拡大するためには、サイトをインターネットで公開した後で検索エンジンに登録する必要があります。サイトを検索エンジンに登録する前に、以下のようにコンテンツを最適化することによって、検索結果でサイトのランキングを上げることが可能です。

- ウェブページ内のテキストに、検索によく用いられる、サイトトピックに関連するキーワードフレーズを含める。たとえば、ウェブページのテキストで、自社の製品名や興味のあるトピックを何度も繰り返し記述します。
- <title> タグと <meta> タグに関連キーワードを追加する。一部の検索エンジンは、ウェブページのメタタグに含まれるキーワードや説明を検索し、これらのキーワードを検索結果に含めます。

たとえば、ホスティング自動化ソフトウェアの販売会社は、ウェブサイトの HTML ページに次のようなタグを使用すると効果的です。

```
<HEAD>
<TITLE>ホスティング自動化ソフトウェアの注文
</TITLE>
<META name="keywords" content="注文,ホスティング,ソフトウェア">
<META name="description" content="ホスティング自動化ソフトウェアの注文">
</HEAD>
```

キーワードは、スペースを入れずコンマで区切ります。

ウェブサイトを最適化し、顧客アカウントで公開してから、Google、Yahoo、Bing、あるいはその他の人気検索エンジンに登録します。

- Googleにサイトを登録するには：<http://www.google.com/addurl/>
- Yahooにサイトを登録するには：<https://siteexplorer.search.yahoo.com/submit>
- Bingにサイトを登録するには：<https://ssl.bing.com/webmaster/SubmitSitePage.aspx>

メールアカウントをセットアップする

ウェブサイトの準備が完了したら、メールアカウントの作成を開始できます。たとえば、社内の全ユーザーのためにメールアカウントを作成することができます。メールボックスの数やサイズは、契約したホスティングプランに応じて制限されます。

1. ユーザアカウントを作成する

➤ **メールアドレスを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[メール]** タブをクリックします。
3. **[メールアドレスの作成]** をクリックします。
4. メールアドレスの @ 記号の左側部分を入力し、（アカウントに複数のドメイン名がある場合は）メールアドレスを作成するドメイン名を選択します。
5. **[メールボックス]** チェックボックスはオンにしておきます。
このチェックボックスは、受信メールを他のアドレスに転送するメールフォワーダとしてこのアドレスを使用する場合に限ってオフにしてください。
6. メールボックスのサイズを指定するか、プロバイダのポリシーまたはサービスプランに定義されているデフォルトサイズを使用します。
7. 半角アルファベット5文字以上から成るパスワードを入力します。
8. **[OK]** をクリックします。

2. メールボックスにアクセスする


メールを送受信するためにメールボックスにアクセスするには、以下の2つの方法があります。

- コンピュータにメールクライアントプログラムをセットアップして使用する。通常、このようなプログラムでは、以下の設定を指定する必要があります。
 - **ユーザ名**：このフィールドには、メールアドレスを完全に入力します（例：johndoe@example.com）。
 - **パスワード**：通常は、メールアカウントのパスワードです。
 - **メールサーバのプロトコル**：このプロパティは、メッセージのコピーをサーバに残すかどうかを決定します。コピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバに残さない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効化されていれば、受信したメールメッセージを SpamAssassin スпамフィルタに学習させることもできます。
 - **受信用メールサーバ (POP3/IMAP)**：ドメイン名を入力します。例えば「example.com」のように入力します。POP3 ポートは 110、IMAP ポートは 143 です。
 - **送信メールサーバ (SMTP)**：ドメイン名を入力します。例えば「example.com」のように入力します。SMTP ポートは 25 です。このサーバでは認証が必要です。

メールボックスを利用できるように主要メールクライアントを構成する方法について詳しくは、このセクションのサブセクションを参照してください。

- ウェブブラウザを使用してウェブメールインターフェースに接続します。ウェブメールのインターフェースは、デフォルトでインストールされている Horde IMP ウェブメールソフトウェアです。デフォルトの Horde IMP ウェブメールを使用することも、Atmail Webmail Lite ソフトウェアをインストールすることもできます。

ウェブメールからのアクセス

- **ウェブメール経由でメールボックスにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**
 - ウェブブラウザで「webmail.example.com」という URL にアクセスします（「example.com」はウェブサイトのインターネットアドレス）。プロンプトが表示されたら、ユーザ名として完全なメールアドレスを入力して（「mail@example.com」など）、Panel へのログインに使用するパスワードを入力します。
 - Panel にログインしたら [メール] タブをクリックして、メールアドレスのリストから該当のメールアドレスに対応する  アイコンをクリックします。

Microsoft Office Outlook からのアクセス

➤ *Microsoft Office Outlook 2010 をセットアップするには :*

1. Microsoft Office Outlookを開きます。
2. [ファイル] > [情報] > [アカウントの追加] に進みます。
3. [サーバー設定または追加のサーバーの種類を手動で構成する] チェックボックスをオンにします。 [次へ] をクリックします。

Add New Account

Auto Account Setup
Connect to other server types.

E-mail Account

Your Name:
Example: Ellen Adams

E-mail Address:
Example: ellen@contoso.com

Password:

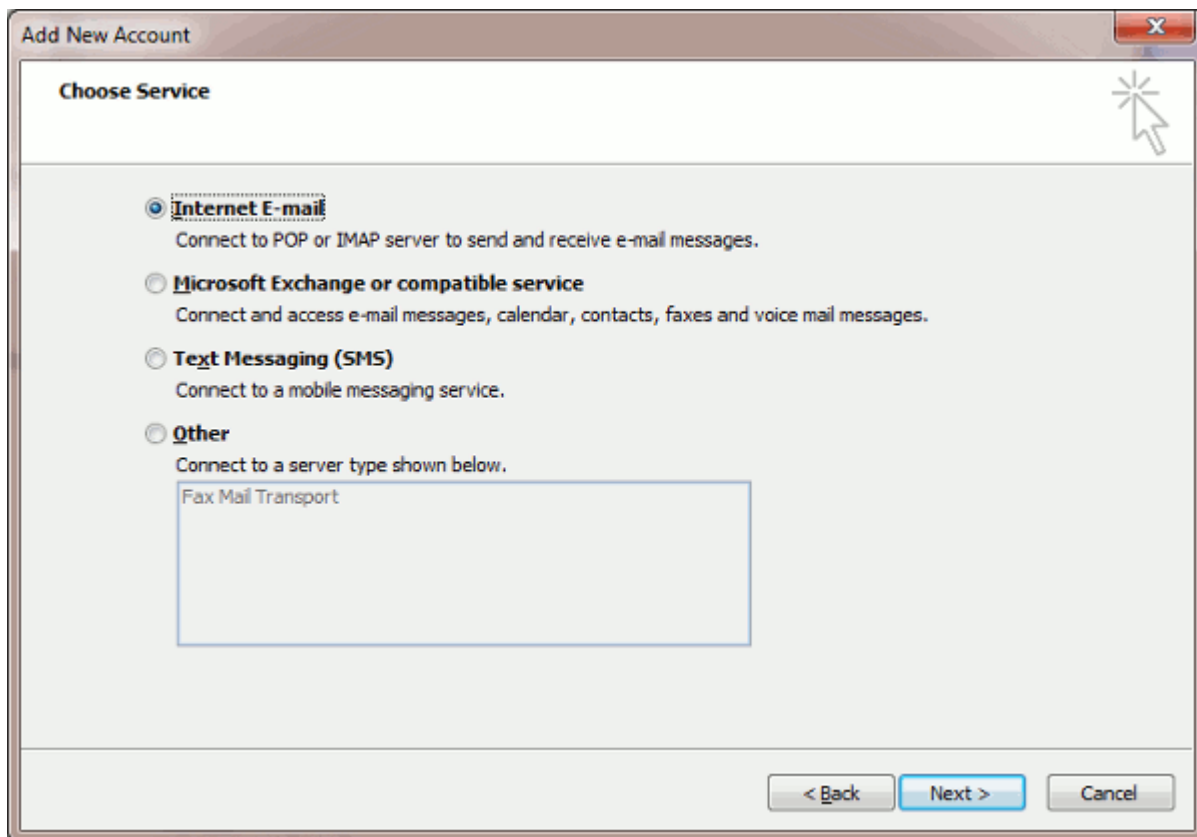
Retype Password:
Type the password your Internet service provider has given you.

Text Messaging (SMS)

Manually configure server settings or additional server types

< Back Next > Cancel

4. [インターネット電子メール] オプションを選択して [次へ] をクリックします。

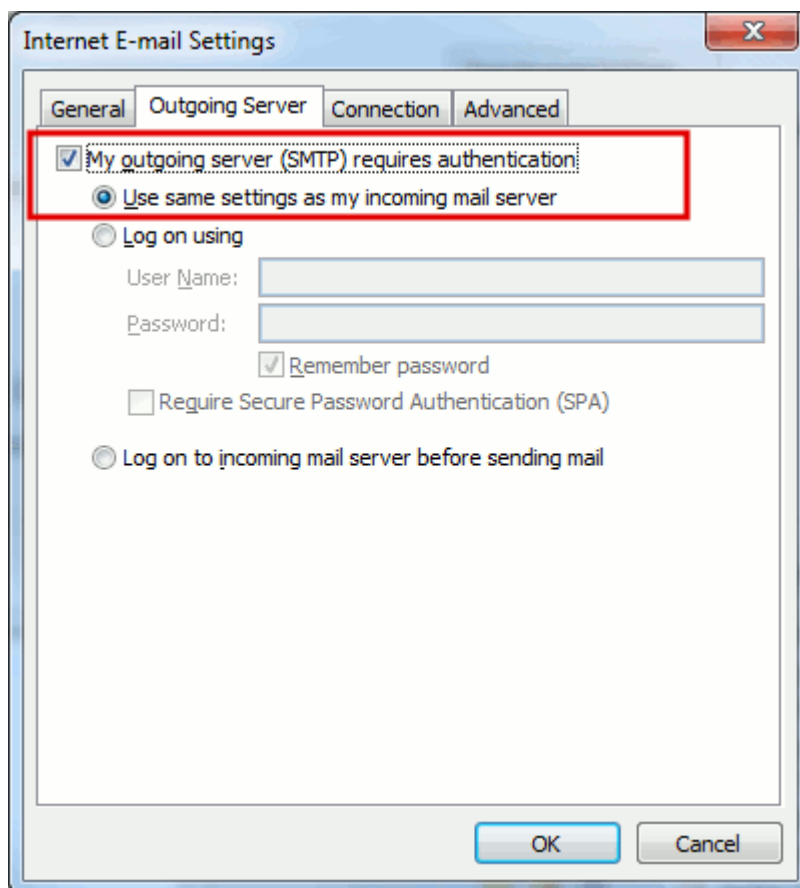


5. 以下を指定します。

- 名前：
- メールアドレス。
- **アカウントの種類**：メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効化されていれば、受信したメールメッセージを SpamAssassin スпамフィルタに学習させることもできます。
- **受信メール サーバー**：ドメイン名を入力します。例えば「example.com」のように入力します。
- **送信メール サーバー (SMTP)**：ドメイン名を入力します。例えば「example.com」のように入力します。
- **ユーザー名**：完全なメールアドレスを指定してください。例えば「johndoe@example.com」のように入力します。
- **パスワード**：通常、このパスワードは Panel にログインするときのパスワードと同じです。
- **メール サーバーがセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) に対応している場合には、チェック ボックスをオンにしてください**：このオプションはオフにしておきます。

The screenshot shows a window titled "Add New Account" with a close button in the top right corner. Below the title bar is a header section "Internet E-mail Settings" with a sub-header "Each of these settings are required to get your e-mail account working." and a help icon. The main area is divided into two columns. The left column contains sections for "User Information" (Your Name: John Doe, E-mail Address: mail@example.com), "Server Information" (Account Type: POP3, Incoming mail server: example.com, Outgoing mail server (SMTP): example.com), and "Logon Information" (User Name: mail@example.com, Password: ****, Remember password checked, Require logon using SPA unchecked). The right column contains "Test Account Settings" (Test Account Settings button, Test Account Settings by clicking the Next button checked) and "Deliver new messages to:" (New Outlook Data File selected, Existing Outlook Data File unselected, Browse button, More Settings button). At the bottom are navigation buttons: < Back, Next >, and Cancel.

6. [詳細設定] をクリックし、[送信サーバー] タブを開いて、[送信サーバー (SMTP) は認証が必要] をオンにします。



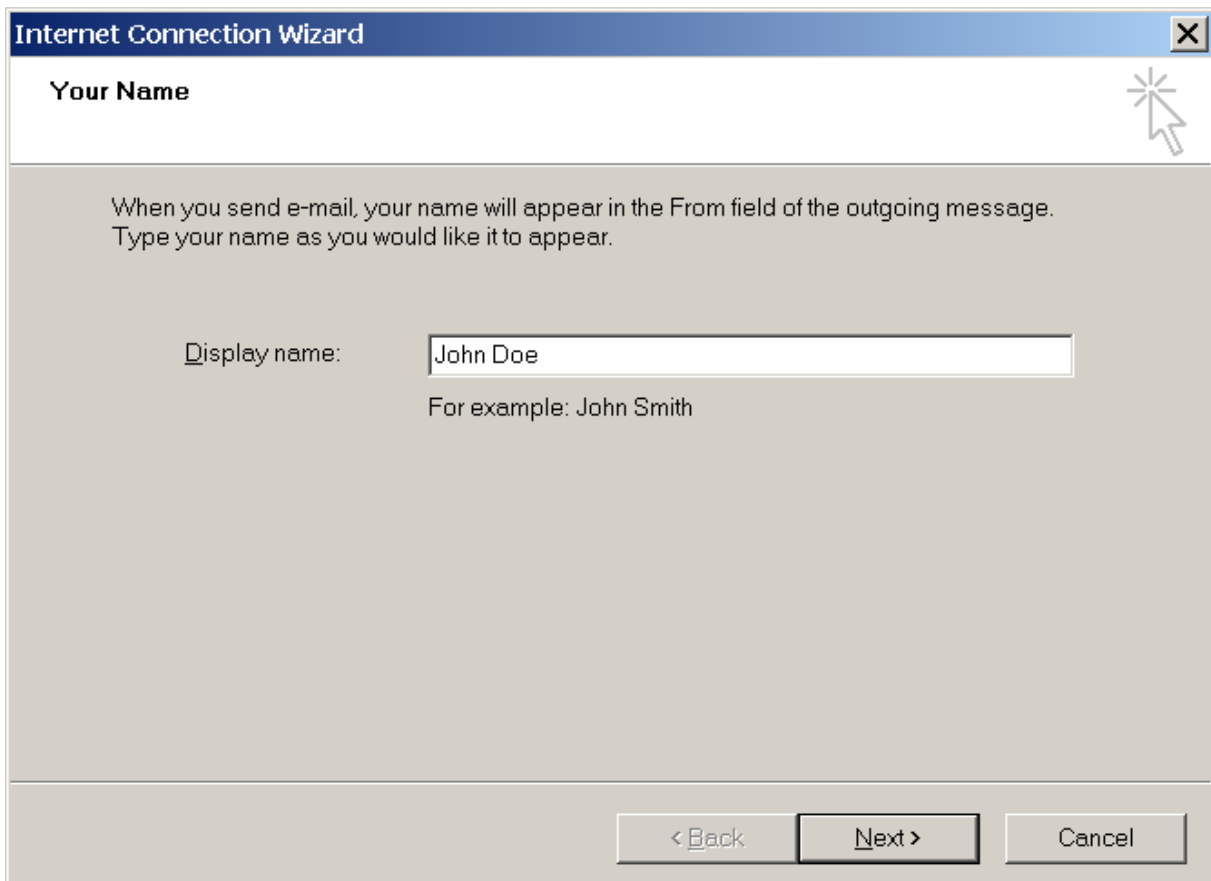
7. [次へ] をクリックします。
8. [終了] をクリックします。

Microsoft Outlook Express からのアクセス

このセクションの内容は、Microsoft Outlook Express 6 に対して検証されており、これより前または後のバージョンの Microsoft Outlook Express では該当しない場合があります。

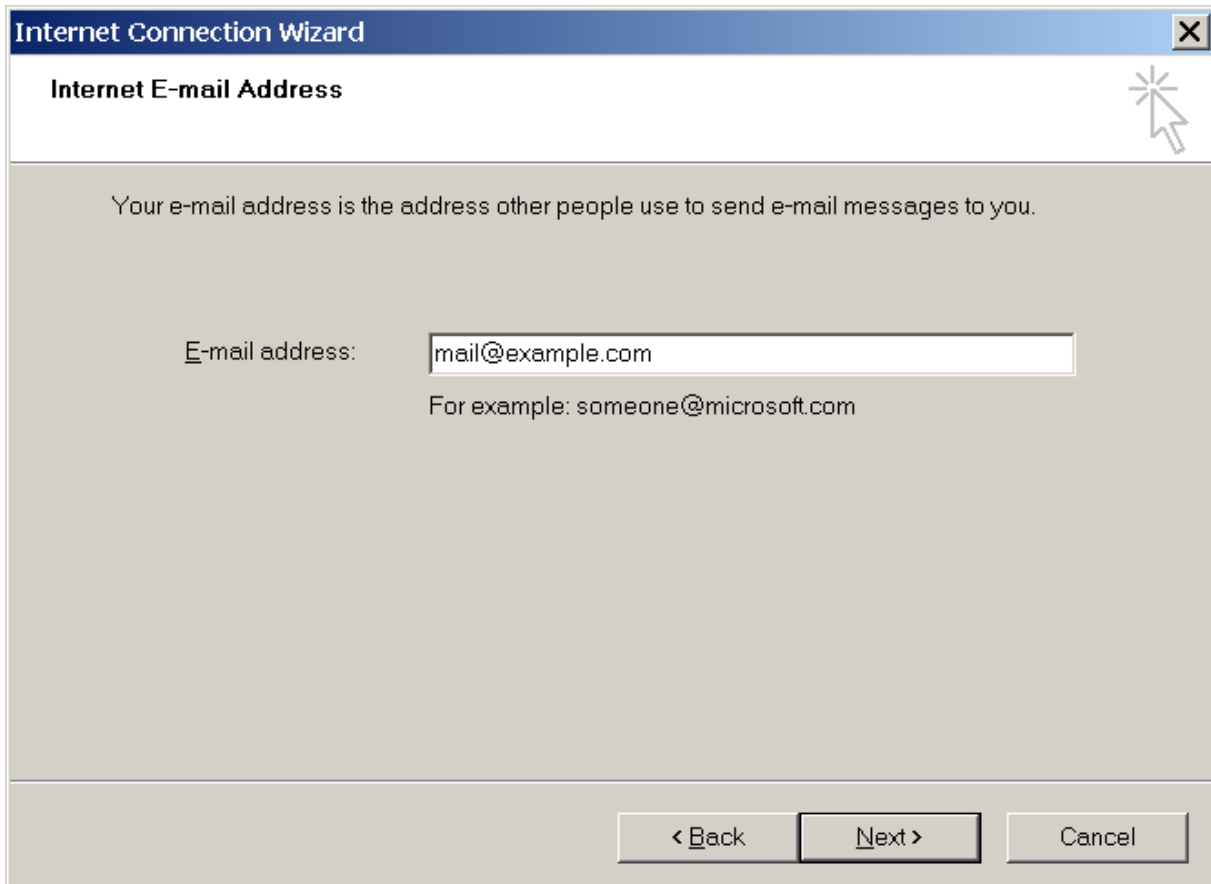
➤ **Microsoft Outlook Express をセットアップするには :**

1. Microsoft Outlook Expressを開きます。
2. [ツール] > [アカウント]に進みます。
3. [追加] ボタンをクリックし、[メール] 項目を選択します。
4. 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ] をクリックします。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main heading is "Your Name". Below the heading, there is a mouse cursor icon. The text reads: "When you send e-mail, your name will appear in the From field of the outgoing message. Type your name as you would like it to appear." Below this text, there is a label "Display name:" followed by a text input field containing "John Doe". Underneath the input field, it says "For example: John Smith". At the bottom of the window, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

5. メールアドレスを入力して [次へ] をクリックします。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The window has a title bar and a main content area. The title bar is blue with the text "Internet Connection Wizard" and a close button (X) in the top right corner. Below the title bar is a white header area with the text "Internet E-mail Address" and a mouse cursor icon pointing to a star symbol. The main content area is light gray and contains the following text: "Your e-mail address is the address other people use to send e-mail messages to you." Below this text is a label "E-mail address:" followed by a text input field containing "mail@example.com". Below the input field is the text "For example: someone@microsoft.com". At the bottom of the window are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

Internet Connection Wizard

Internet E-mail Address

Your e-mail address is the address other people use to send e-mail messages to you.

E-mail address:

For example: someone@microsoft.com

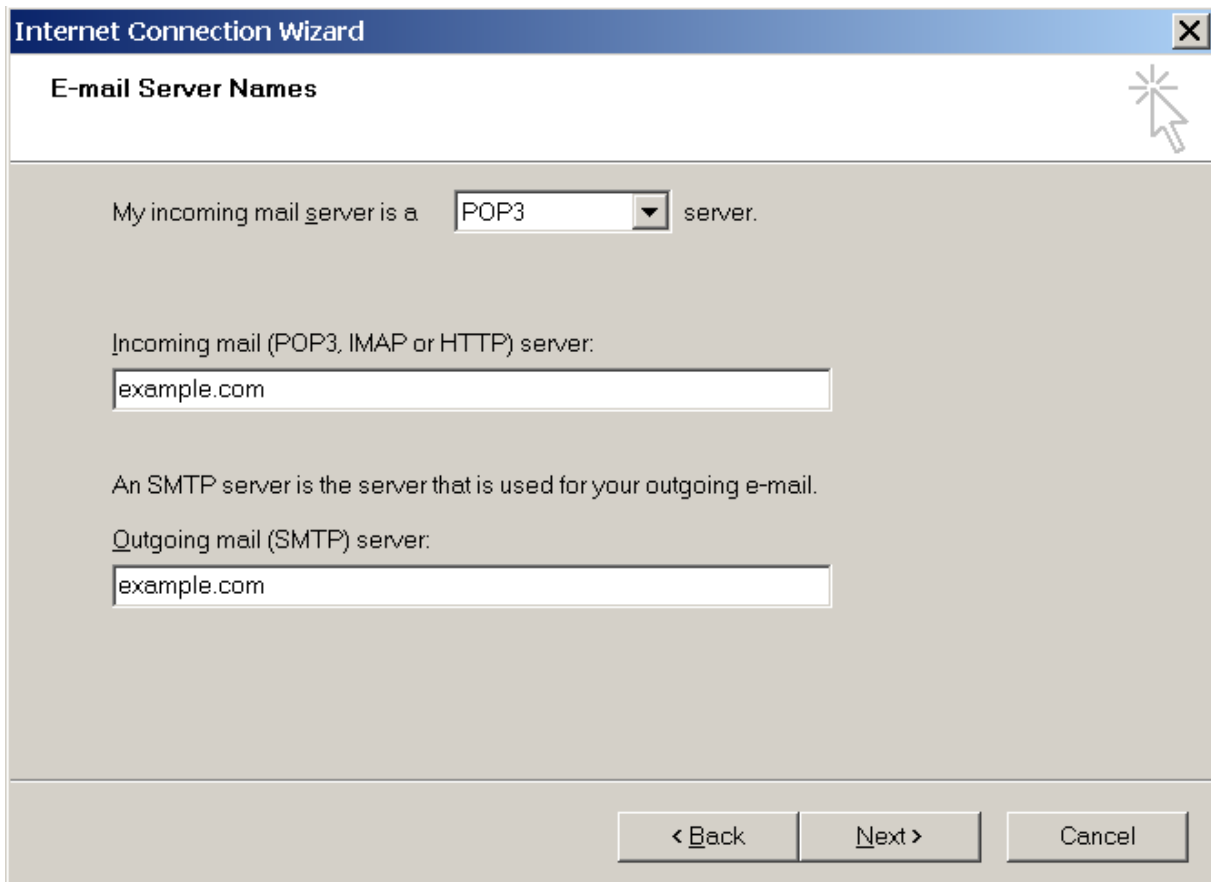
< Back Next > Cancel

6. 以下の設定を指定します。

- 受信メールサーバのプロトコル。

メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効であれば、受信メールメッセージの SpamAssassin スпамフィルタに学習させることもできます。

- 受信メールサーバ。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
- 送信メールサーバ。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main title of the window is "E-mail Server Names".

The window contains the following text and input fields:

- "My incoming mail server is a server." (The dropdown menu is currently set to "POP3").
- "Incoming mail (POP3, IMAP or HTTP) server:" followed by a text input field containing "example.com".
- "An SMTP server is the server that is used for your outgoing e-mail."
- "Outgoing mail (SMTP) server:" followed by a text input field containing "example.com".

At the bottom of the window, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

7. [次へ] をクリックします。

8. 以下を指定します。

- アカウント名。[アカウント名] ボックスにメールアドレスを入力します。
- パスワード。通常、このパスワードは Panel にログインするときのパスワードと同じです。
- [パスワードを保存する] チェックボックス。メールプログラムがメールサーバに接続して到着メールをチェックするたびにパスワードの入力が要求されないようにするには、このチェックボックスをオンにして [次へ] をクリックします。

Internet Connection Wizard

Internet Mail Logon

Type the account name and password your Internet service provider has given you.

Account name: mail@example.com

Password: ●●●●●●●●●●

Remember password

If your Internet service provider requires you to use Secure Password Authentication (SPA) to access your mail account, select the 'Log On Using Secure Password Authentication (SPA)' check box.

Log on using Secure Password Authentication (SPA)

< Back Next > Cancel

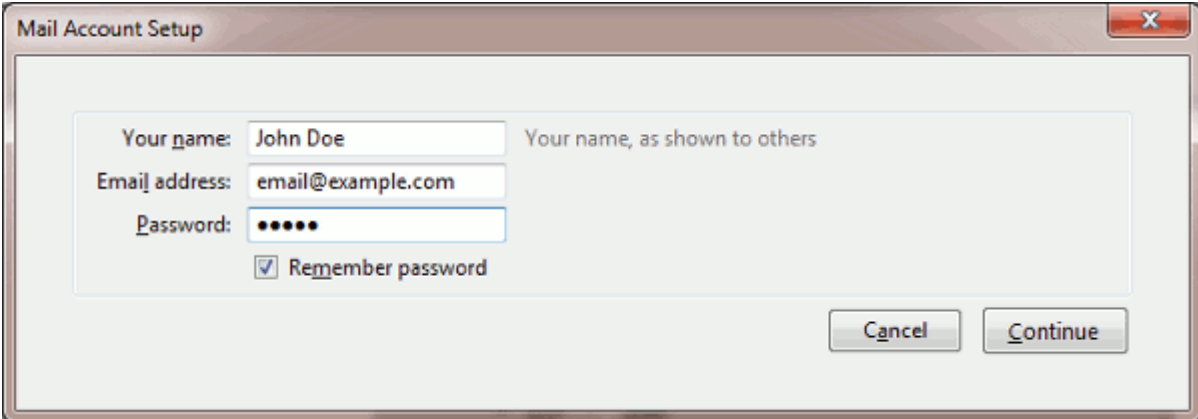
9. メールプログラムのセットアップを終了する場合は、[完了] をクリックします。

Mozilla Thunderbird からのアクセス

このセクションの内容は、Mozilla Thunderbird 12 に対して検証されており、これより前または後のバージョンの Mozilla Thunderbird では該当しない場合があります。

➤ *Mozilla Thunderbird* をセットアップするには :

1. Mozilla Thunderbirdを開きます。
2. [Tools (ツール)] > [Account Settings (アカウント設定)] > [Account Actions (アカウントアクション)] > [Add Mail Account (メールアカウントの追加)] の順に選択します。
3. 以下を指定します。
 - 名前 (送信するすべてのメッセージに表示されます)。
 - メールアドレスとパスワード。



Mail Account Setup

Your name: John Doe Your name, as shown to others

Email address: email@example.com

Password: ●●●●●

Remember password

Cancel Continue

4. [Continue (続行)] をクリックします。
5. Thunderbirdが設定を自動検索できなかった場合、以下を指定してください。
 - アカウントの種類：メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効化されていれば、受信したメールメッセージを SpamAssassin スパムフィルタに学習させることもできます。

Mail Account Setup

Your name: John Doe Your name, as shown to others

Email address: email@example.com

Password: ●●●●

Remember password [Start over](#)

Thunderbird failed to find the settings for your email account.

Username: email@example.com [Re-test Configuration](#)

Incoming: example.com POP 110 None

Outgoing: example.com SMTP 25 None

[Manual Setup...](#) [Cancel](#) [Create Account](#)

6. [Create Account (アカウントの作成)] をクリックします。

メールアカウントを手動でセットアップする場合、接続セキュリティと認証方法の設定を以下のように組み合わせて使用してください。これらの設定が機能しない場合、ホスティングプロバイダに正しい組み合わせを問い合わせてください。

Linux の場合 :

- **接続セキュリティ** : STARTTLS
- **認証方法** : 暗号化されたパスワード

Windows (IMAP) の場合 :

- **接続セキュリティ** : なし
- **認証方法** : 暗号化されたパスワード

Windows (POP3) の場合 :

- **接続セキュリティ** : なし
- **認証方法** : パスワード (セキュリティなしで送信)

アカウントを手動で構成する場合に指定可能なその他のパラメータ :

- **POP3 ポート** : 110
- **IMAP ポート** : 143
- **SMTP ポート** : 25
- **ユーザ名** : 完全なメールアドレス (例 : johndoe@example.com) 。
- **受信用メールサーバ (POP3/IMAP)** : ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。例えば、「example.com」のように入力します。
- **送信サーバアドレス** : ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。例えば、「example.com」のように入力します。

Apple Mail からのアクセス

このセクションでは、Apple Mail 3.6 (Leopard) について説明します。他のバージョンの Apple Mail には該当しない場合があります。

➤ *Apple Mail* をセットアップするには :

1. Apple Mail を実行します。

これが初めての実行で、まだメールアカウントを設定していない場合は、次のステップはスキップします。代わりに、メールアカウントの新規作成用の画面が表示されます。

2. メールアカウントの追加ウィザードを開きます。

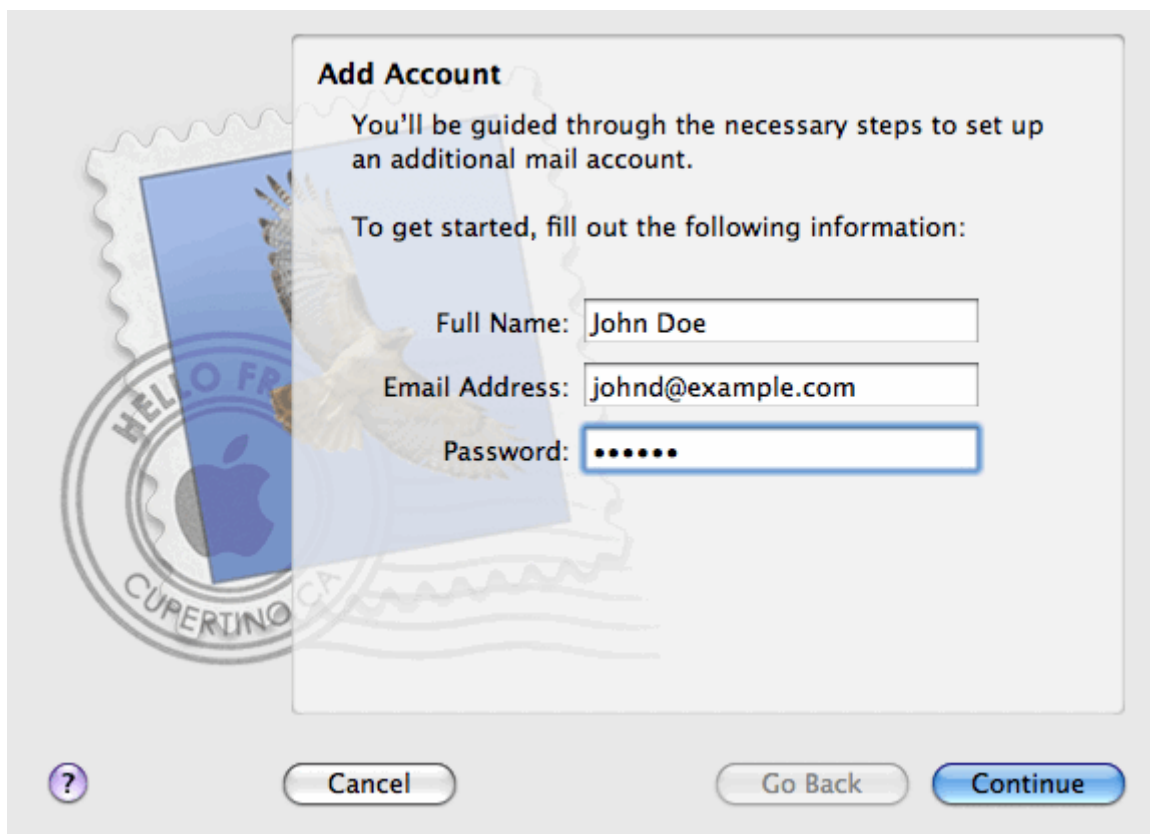
a. [Mail] > [環境設定...] をクリックします。

b. [アカウント] タブを選択します。

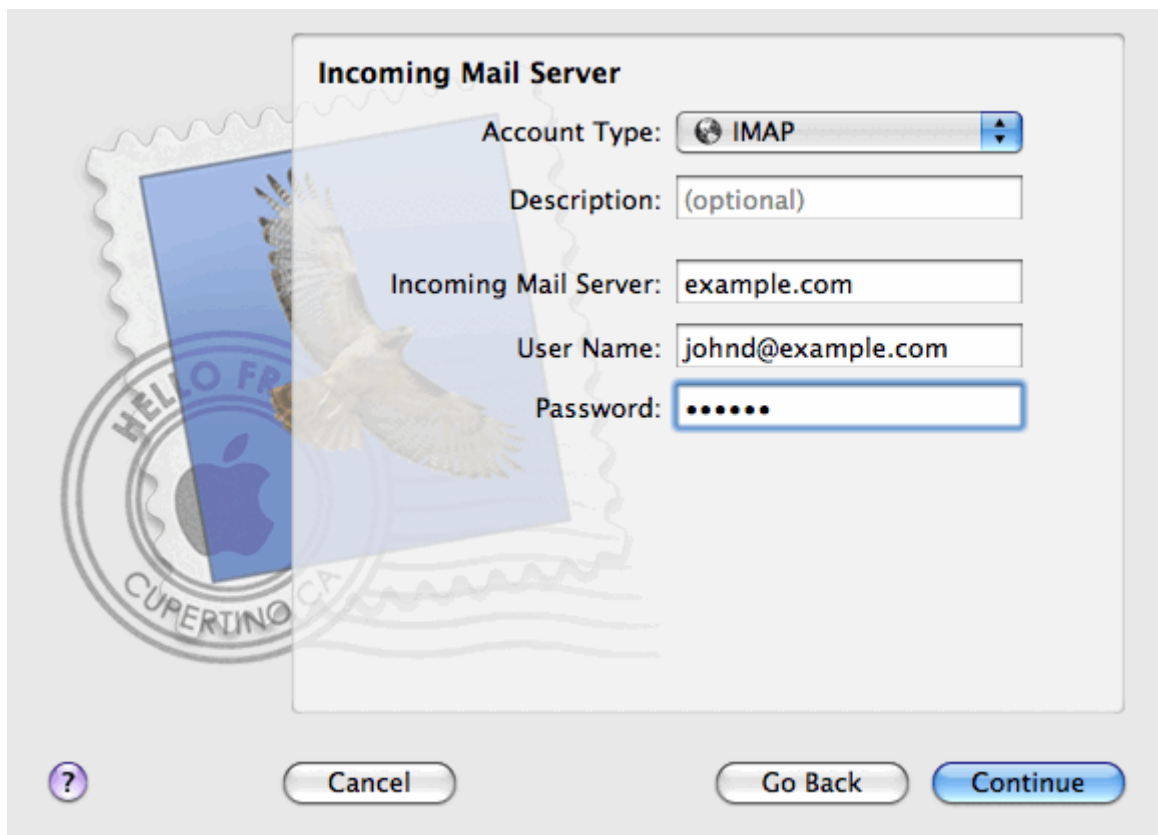
c. 左下隅の [+] ボタンをクリックします。

3. 以下のアカウント情報を入力します。

- 氏名
- メールアドレス
- Panel にログインするときのパスワード



4. [続ける] をクリックします。
5. 以下の受信用メールサーバ情報を入力します。
 - **アカウントの種類**：使用するプロトコルを選択します（IMAP または POP）。
スパムフィルタリングのソリューションに SpamAssassin を使用する場合は、IMAP を選択することをお勧めします。IMAP アカウントは、SpamAssassin がスパムメッセージと通常メッセージを学習するために必要です。
 - **受信用メールサーバ**：メールサービスを提供するドメインの名前を入力します（メールアドレスの @ 記号の右側）。
 - **ユーザ名**：メールアドレス全体を入力します。
 - **パスワード**：そのままにします（Apple Mail が前のステップから取得します）。



Incoming Mail Server

Account Type:

Description:

Incoming Mail Server:

User Name:

Password:

? Cancel Go Back Continue

6. **【続ける】** をクリックします。
7. (オプション) 受信メールのセキュリティオプションを指定します。
 - a. **【SSL (Secure Sockets Layer) を使用】** チェックボックスをオンにします。
 - b. 認証方法を選択します。

どれを選択すべきか分からない場合は、デフォルトのままにしてください。

Parallels Small Business Panel に組み込まれているメールサーバが、選択した種類のアカウント (POP または IMAP) に対して SSL をサポートする場合にのみ、この設定画面が表示されます。



8. [続ける] をクリックします。

9. 以下の送信用メールサーバ情報を入力します。

- 送信用メールサーバ：メールサービスを提供するドメインの名前を入力します（メールアドレスの @ 記号の右側）。
- このサーバのみを使用：オンにします。
- 認証を使用：オンにします。
- ユーザ名：メールアドレス全体を入力します。
- パスワード：そのままにします（Apple Mail が前のステップから取得します）。

Outgoing Mail Server

Description: (optional)

Outgoing Mail Server: example.com

Use only this server

Use Authentication

User Name: johnd@example.com

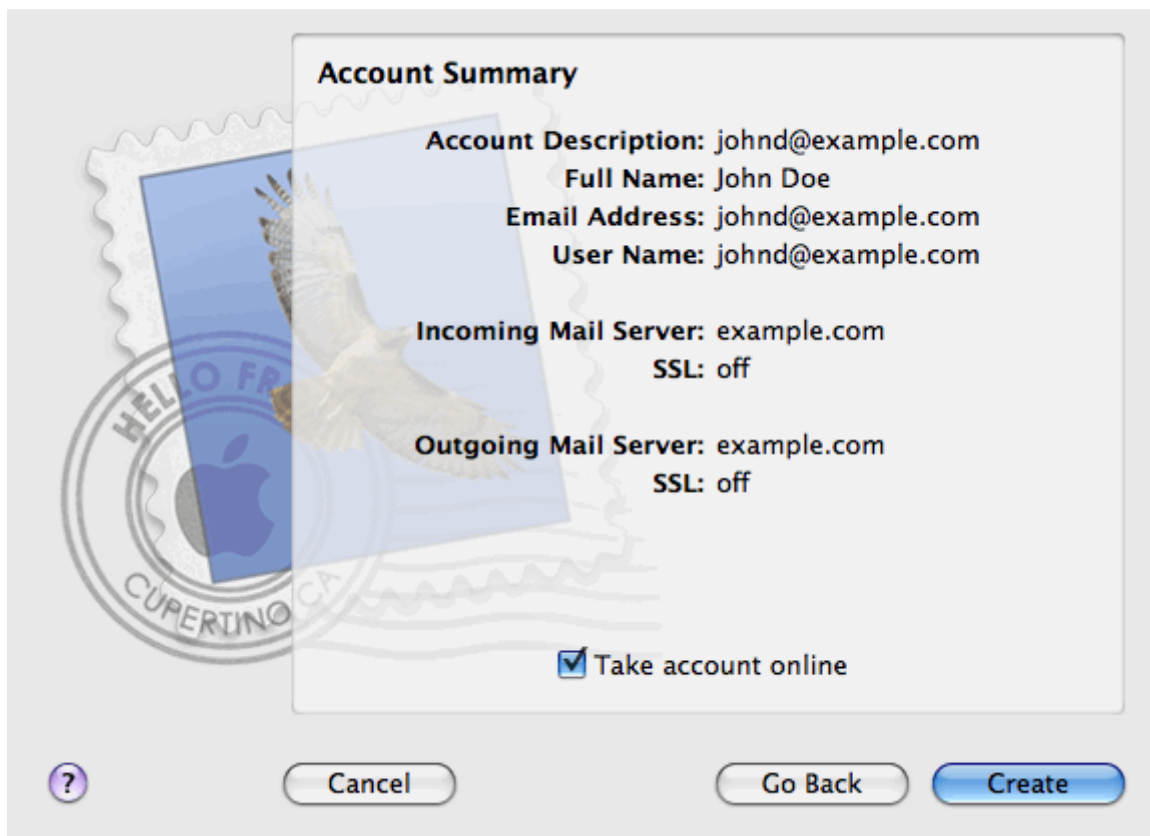
Password:

? Cancel Go Back Continue

10. [続ける] をクリックします。

作成されるメールアカウントの概要が表示されます。

11. [アカウントをオンラインにする] チェックボックスをオンにして、[作成] をクリックします。



サイト訪問統計を表示する

サイトが正しく機能するようになり、検索エンジンの検索結果にサイトが表示されるようになったら、訪問統計を確認してサイトの効率を確認しましょう。

➤ **サイトの訪問者数、訪問者の国、および訪問者の閲覧ページを確認するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[ウェブ統計]** に進みます。
新しいブラウザウィンドウが開き、サイト訪問の統計が表示されます。
3. サイト内のSSLで保護されたエリアで閲覧されたウェブページの統計を表示するには、メニューの **[SSLウェブ統計]** を選択します。
4. FTP経由でダウンロードしたファイルの統計を表示するには、メニューの **[FTP統計]** を選択します。

あるいは、「<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat>」のような URL を使用して、サイトの訪問統計を確認できます。ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTP アカウントのユーザ名とパスワードを指定します。

これで、「クイックスタート」の章が完了しました。コントロールパネルで実行できるその他の機能について、必要に応じて確認してください。

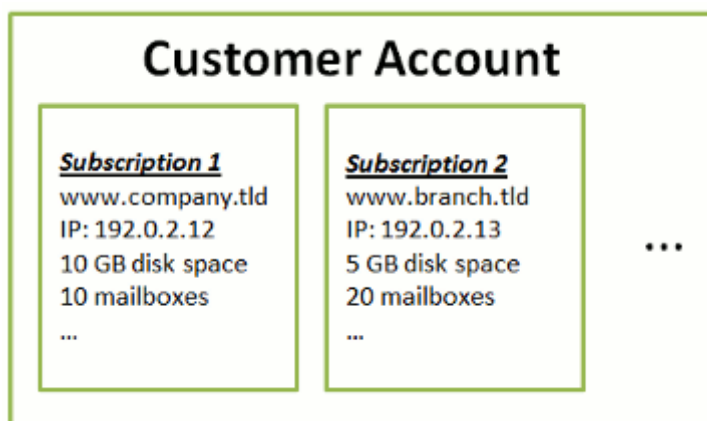
第 3 章

顧客アカウント管理

「Parallels Panel クイックスタート (11ページ)」の章で説明したように、会社のウェブサイトを構築する第一歩は、ホスティング事業者（ホスティングプロバイダ）が提供するサービスへのサインアップです。ホスティングプランを契約すると、Panelに顧客アカウントが作成され、これを利用して Panel にログインしてホスティングサービスやリソース（メールボックス、ディスク領域、帯域幅など）を利用できるようになります。

顧客アカウントと複数の契約

Panel では、必要に応じて好きな数のホスティングプランを契約することが可能です。例えば、メインサイトと支店のサイトでホスティングリソースを共用したくない場合、同じ顧客アカウントで別のホスティングプランを契約することができます。つまり、顧客アカウントでは、すべての契約へのアクセスが個別に設定されています(下図を参照)。



複数の契約が必要になるもう1つの理由として、契約では IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを1つずつしか利用できないということが挙げられます。つまり、1つの契約内のすべてのドメインでは、同じ IP アドレス (IPv4 または IPv6) が共用されます。異なる IP アドレスでサイトをホストする必要がある場合は、必要な IP アドレスの数と同じだけプランを追加注文する必要があります。これは、各サイトへの接続のセキュリティを別々の SSL 証明書で保護する場合などに便利です。契約の追加購入方法について詳しくは、「リソースを追加注文する (52ページ)」のセクションを参照してください。

単一の顧客アカウント下に複数の契約がある場合、[アカウント] タブで簡単に契約を切り替えることができます。より詳細には、[アカウント] タブから、すべての契約に適用されるオペレーションにアクセスできます。一方、他のすべてのタブ ([メール]、[ユーザ]、[ドメインとウェブサイト]) は、1つの契約が対象となります。つまり、特定の契約のメール設定を変更する場合、まず当該の契約に切り替えてから、[メール] をクリックします。

契約にリソースを追加する

ホスティングリソースを拡張するために、必ずしも新しい契約を購入する必要はありません。複数の契約から1つだけ選んで拡張することが可能です (ディスク領域の拡張や SSL サポートの追加など)。これには、他のホスティングプランに切り替えるか、ホスティングプランのアドオンを購入します。詳しくは、「追加のリソースを注文する (52ページ)」のセクションを参照してください。

顧客アカウントを管理する

Panel では、顧客アカウントに対して様々な管理作業を実行できます。

- パスワードや個人情報を変更する。詳しくは、「パスワードと連絡先情報を変更する (39ページ)」セクションを参照してください。
- 契約で提供されているサービスとリソースのリストを [アカウント] タブで確認する。契約に関するすべての機能について詳しくは、「契約の概要を確認する (40ページ)」のセクションを参照してください。
- 契約の更新料金を支払う。詳しくは「アカウント残高と請求書を管理する (48ページ)」のセクションを参照してください。
- アカウントの統計を参照する。ディスク領域やトラフィック使用量などについての統計を提供します。詳しくは、「統計を確認する (54ページ)」のセクションを参照してください。

他のユーザに対して自分のアカウントへのアクセスを許可する

ホスティングのメンテナンス作業が多く、1人で行うのが困難であれば、一部を他のユーザに委託することができます。このために、補助ユーザアカウントを作成し、ユーザの役割ごとにグループ分けすることができます。例えば、1つのグループを作成し、このグループに対してはウェブサイトへのコンテンツのアップロードのみを許可します。このグループ内のユーザは、ウェブサイトコンテンツの管理を除き、いかなるオペレーションも実行できません。補助ユーザについて詳しくは、「**(高度) 補助ユーザアカウントを管理する** (56ページ)」のセクションを参照してください。

パスワードと連絡先情報を変更する

➤ **コントロールパネルへのアクセス用のパスワードを変更するには：**

1. 画面上部で、自分の名前のリンクをクリックします。
2. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

➤ **ウェブスペースへの接続に使用するユーザ名またはパスワードを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [ウェブホスティング設定] をクリックします。
4. 新しいユーザ名またはパスワードを入力し、 [OK] をクリックします。

➤ **連絡先情報を変更するには：**

1. 画面上部で、自分の名前のリンクをクリックします。
2. [連絡先の詳細] タブをクリックします。
3. 連絡先情報を更新し、 [OK] をクリックします。

契約の概要を確認する

ホスティングサービスの契約をすると、Panelにユーザアカウントが作成され、自分のウェブサイトとメールボックスを管理できるようになります。

閲覧可能なアカウント情報は以下のとおりです。

- サービスプランに対する現在の契約。
一度に複数のサービスプランを契約できるため、自分のアカウントに複数の契約が関連付けられている場合もあります。Panelに課金システムが統合されている場合、このシステムを使用して、契約の追加購入、契約のアップグレード/ダウングレード、および請求額の支払いが可能です。
- 割り当て済みリソースおよび使用済みリソース。
- ウェブサイトで使用できるホスティング機能。
- Panelで実行可能な操作。
- 勘定残高、未払い請求書、ホスティングパッケージの月額使用料。

➤ アカウントと現在の契約に関する情報を表示するには：

1. [アカウント] タブをクリックします。

現在の契約のリストが表示されます。

2. Panelに課金システムを統合している場合、次の情報が表示されます。

- **アカウント残高**：課金アカウントの利用可能残高です。
- **未払い請求書の残高**：プロバイダに支払う必要がある金額です。ここで、**[すべて支払う]** をクリックしてすべての請求書を支払うことや、**[未払い請求書をすべて支払う]** というリストで **[今すぐ支払う]** リンクをクリックしていずれかの請求書を支払うことができます。また、**[すべての請求書を表示する]** リンクをクリックしてすべての請求書を表示することや、請求書番号に続いて **[プリント]** をクリックして任意の請求書を印刷することができます。
- **最新の To-do アイテム**：行うべきアクションに関する、システムからのリマインダが表示されます。
- **すべての契約のリスト**：リスト内のリンクを使用して、次の操作を実行できます。
 - 契約名のリンクをクリックして、契約のプロパティを表示する。
 - 対応する **[契約に切り替え]** リンクをクリックして、コントロールパネルで管理する契約を選択する。
 - **[SSL 証明書をリクエストする]** をクリックして、サイト用の SSL 証明書を注文する。このオペレーションについては、「**SSL 証明書を注文する**」のセクションを参照してください。

- **【証明書情報を表示する】** をクリックして、既に注文済みである SSL 証明書のプロパティを表示する。
 - **【ドメイン情報を表示する】** をクリックして、レジストラのサイトに指定したドメイン情報、連絡先情報、DNS 設定を表示または変更する。これらのオペレーションについては、「Panel におけるレジストラの DNS 設定 (80ページ)」のセクションを参照してください。
3. リソース割り当て、使用可能なホスティングオプション、操作パーミッションの詳細は、契約名をクリックすると表示されます。
4. 以下のいずれかを実行します。
- 割り当て済みのリソースと使用済みのリソースを確認するには、**【リソース】** タブをクリックします。
 - アカウントで使用可能なホスティング機能のリストを確認するには、**【ホスティングオプション】** タブをクリックします。
 - ホスティングパネルで実行できる操作のリストを確認するには、**【パーミッション】** タブをクリックします。
 -

割り当て済みリソースおよび使用済みリソース

一度に複数のサービスプランの契約をしている場合、契約が複数存在します。パネルの [アカウント] タブで **契約名** をクリックし、[リソース] タブを選択すると、それぞれの契約に対して、次のような割り当て済みリソースが一覧表示されます。

- **ディスク領域**： この契約でホスティングアカウントに割り当てられているディスク領域の合計容量です。この容量には、ウェブサイト、メールアカウント、アプリケーション、バックアップ、ログファイルに関連するすべてのデータが含まれます。
- **トラフィック**： すべてのウェブサイトから月あたりに転送可能なデータの合計量（メガバイト単位）です。
- **ドメイン**： 独立したセカンドレベルドメイン名（example.com など）を持つことができるウェブサイトの数です。
ウェブサイトのセットアップについて詳しくは、「**最初のウェブサイトをセットアップする（12ページ）**」および「**ドメインを追加する（65ページ）**」のセクションを参照してください。
- **サブドメイン**： サードレベルドメイン名（news.example.com など）を持つことができる追加ウェブサイトの数です。
サブドメインのセットアップについて詳しくは、「**サブドメインを追加する（67ページ）**」のセクションを参照してください。
- **ドメインエイリアス**： 顧客のサイトに割り当てることができる追加ドメイン名の数です。たとえば、example.fr と example.de がいずれも example.com をポイントするように設定することができます。
ドメインエイリアスのセットアップについて詳しくは、「**ドメインエイリアスを追加する（69ページ）**」のセクションを参照してください。
- **メールボックス**： 顧客のすべてのウェブサイトに対して作成できるメールボックスの数です。
メールボックスの作成について詳しくは、「**メール（210ページ）**」の章を参照してください。
- **メールボックスのサイズ**： 1つのメールボックスで占有可能なディスク容量です。
- **総メールボックスクォータ**： すべてのドメインのすべてのメールボックスで使用できるディスク容量の合計です。このオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。
- **メーリングリスト**： 顧客のすべてのウェブサイトでセットアップできるメーリングリストの合計です。メーリングリストとは別にメールグループもあり、いずれも同じ目的で使用できますが、機能がわずかに異なります。メーリングリストはメッセージのアーカイブおよび事前モデレーションをサポートしていますが、メールグループは一度に複数の受信者にメッセージを送信するためだけに使用できます。
メーリングリストのセットアップと使用について詳しくは、「**メーリングリストを使用する（220ページ）**」のセクションを参照してください。
- **追加 FTP アカウント**： 契約の有効化時に作成されたメイン FTP アカウントに加え、ウェブスペースへのアクセス用にセットアップできる FTP アカウントの数です。

FTP アカウントのセットアップについて詳しくは、「FTP アクセスクレデンシャルを変更する（205ページ）」および「FTP アカウントを追加する（206ページ）」のセクションを参照してください。

- **データベース（Linux ホスティング）**：顧客のすべてのウェブサイトでホスティング可能なデータベースの数です。データベースはデータストレージ管理の標準的な手段であり、ダイナミックウェブサイト、ウェブアプリケーション、およびアプリケーションのユーザはデータベースを使用して情報を保存、検索、収集できます。
データベースでの作業については、「**（高度）データベースを使用する（228ページ）**」の章を参照してください。
- **MySQL データベースおよび Microsoft SQL Server データベース（Windows ホスティング）**：Panel のデータベースサーバ上で作成して契約内のウェブサイトで使用できる MySQL データベースと Microsoft SQL Server データベースの最大数です。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ（Windows ホスティング）**：契約内の MySQL データベースと Microsoft SQL Server データベースがそれぞれ消費できるディスク領域の上限（メガバイト）です。
- **Java アプリケーション**：WAR フォーマットでパッケージされており、サイトにインストールできる Java アプリケーションの数です。
- **Web Presence Builder で公開可能なサイト数**：ホスティングパッケージに Web Presence Builder オプションが含まれる場合に、Web Presence Builder を使用して作成および公開できるサイトの数です。
- **モバイルサイト**：UNITY Mobile オンラインサービス（モバイルデバイスでの閲覧用にサイトを最適化するサービス）でホスティングできるウェブサイトの総数です。
- **ウェブユーザ**：顧客のドメイン下で他のユーザのウェブページをホスティングするために作成できるユーザアカウントの数です。
- **FrontPage アカウント**：FrontPage を使用するサイトコンテンツでのコラボレーション用に作成できる Microsoft FrontPage ユーザアカウントの数です。このオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。
- **共用 SSL リンク**：プロバイダが取得して共有している SSL 証明書によって、セキュリティ保護できるウェブサイトの数です。このオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。
- **ODBC DSN 接続**：顧客アカウントで実行中のウェブアプリケーションのために確立できる外部データベース接続の数です。このオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。
- **ColdFusion DSN 接続**：顧客アカウントで実行中の Adobe ColdFusion ウェブアプリケーションのために確立できる外部データベース接続の数です。このオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。

ウェブサイトで使用できるホスティング機能：

利用しているサービスプランに応じて、以下のホスティング機能をウェブサイトで使用できます（[アカウント] タブで契約名をクリックし、[ホスティングオプション] タブを選択すると、機能のリストが表示されます）。

- **SSL 対応：** SSL 暗号化でウェブサイト接続をセキュリティ保護できます。
SSL によるサイトのセキュリティ保護について詳しくは、「**接続を SSL 証明書で保護する**（114ページ）」のセクションを参照してください。
- **ウェブ統計：** ウェブサイトの訪問統計を図とチャートで表示できます。
ウェブサイトの訪問統計の表示について詳しくは、「**統計を表示する**（54ページ）」のセクションを参照してください。
- **カスタムエラードキュメント：** カスタム HTML ページを作成し、一般的なエラーメッセージ（404 Not Found など）の代わりにこのページが表示されるようにウェブサーバを構成できます。
カスタムエラードキュメントのセットアップについて詳しくは、「**カスタムエラーページをセットアップする**（125ページ）」を参照してください。
- **プログラム言語とスクリプト言語のサポート：** PHP、CGI、Perl、Python、Microsoft ASP、ASP.NET、Adobe ColdFusion、SSI など。
- **Microsoft FrontPage のサポートおよび Microsoft FrontPage over SSL のサポート：** Microsoft FrontPage を使用してウェブサイトコンテンツを作成および編集できます。これらのオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。
- **Microsoft FrontPage オーサリング（Windows ホスティング）：** Microsoft FrontPage を使用してウェブサイトコンテンツをサーバ上で直接作成および編集できます。このオプションは Windows ベースの顧客アカウントのみで使用できます。
- **専用 IIS アプリケーションプール（Windows ホスティング）：** サイト上のウェブアプリケーションの独立性と安定性が向上します。
- **追加の書き込み/変更パーミッション（Windows ホスティング）：** httpdocs フォルダの root にあるファイルベースのデータベース（Jet など）をウェブアプリケーションで使用できます。
- **ウェブユーザにスクリプトの使用を許可する：**
/http://example.com/~<username>/<webpage>」（<username> はウェブユーザ）のような形式の URL で表示されるウェブページでのスクリプティングを許可します。ウェブユーザとは、専用のドメイン名を必要としない個人です。このサービスは主に、教育機関が、学生やスタッフの個人用ページをホスティングする目的で使用します。

ここでは、Panel で実行できる操作に対するパーミッションを説明します（[アカウント] タブで契約名をクリックし、[パーミッション] タブを選択すると表示されます）。

- **DNS ゾーン管理：** ウェブサイトの DNS ゾーンにあるリソースレコードを管理します。
DNS とは、「Domain Name System（ドメインネームシステム）」の略です。ウェブブラウザはこのサービスを利用して、ドメイン名でウェブサイトを検索します。

ウェブサイトの DNS 設定を構成する方法について詳しくは、「(高度)ドメイン用に DNS を構成する (72ページ)」を参照してください。

- **ホスティング設定管理**： スクリプト言語のサポートなど、ウェブホスティング設定を管理します。
- **PHP セーフモード管理**： このオプションは Linux ベースの顧客アカウントのみで使用できます。ウェブサイトに対して PHP セーフモードのオン/オフを切り替えることができます。セーフモードとはセキュリティ上の制限であり、PHP で記述したスクリプトがサーバ上で危険な操作を実行できないようにします。PHP で記述したウェブアプリケーションが PHP セーフモードで正しく機能しない場合は、PHP セーフモードをオフにする必要があります。
- **SSH 経由のサーバアクセスの管理とリモートデスクトップ経由のサーバアクセスの管理**： セキュアシェル経由 (Linux ホスティング) またはリモートデスクトップ接続経由 (Windows ホスティング) で、ウェブコンテンツをサーバへ安全にアップロードします。
- **匿名 FTP 管理**： フォルダをサーバ上にセットアップし、インターネットユーザが FTP プロトコル経由でアクセスできるようにします。このフォルダのアドレスは「ftp://downloads.example.com」のようにします。ファイルの閲覧、ダウンロード、アップロードのためにユーザ名とパスワードを指定する必要がないため、この機能を「匿名 FTP (anonymous FTP)」と呼びます。
FTP フォルダをアクセス無制限でセットアップする方法について詳しくは、「匿名 FTP アクセスをセットアップする (208ページ)」のセクションを参照してください。
- **スケジューラ管理**： サーバの OS でプログラムまたはスクリプトの実行をスケジュールします。
タスクのスケジューリングについて詳しくは、「タスクをスケジューリングする (221ページ)」の章を参照してください。
- **スパムフィルタ管理**： 迷惑メール (スパム) 防御のカスタム設定を行います。
スパムフィルタリングのセットアップについて詳しくは、「メールボックスをスパムから防御する」のセクションを参照してください。
- **アンチウイルス管理**： ウイルスをはじめとする自己増殖する悪意あるソフトウェアからシステムを防御するために、カスタム設定をセットアップします。
ウイルス防御のセットアップについて詳しくは、「メールボックスをウイルスから防御する」のセクションを参照してください。
- **サーバリポジトリを使用したデータのバックアップおよび復元**： Panel のバックアップおよび復元機能を使用して、ウェブサイト、メールアカウント、設定のバックアップおよび復元、バックアップファイルのサーバ保管を行います。
データのバックアップと復元について詳しくは、「(高度) データをバックアップおよび復元する (235ページ)」の章を参照してください。
- **個人用 FTP リポジトリを使用したデータのバックアップおよび復元**： Panel のバックアップおよび復元機能を使用して、ウェブサイト、メールアカウント、設定をバックアップおよび復元し、他のサーバの FTP フォルダにバックアップファイルを保管します。
データのバックアップと復元について詳しくは、「(高度) データをバックアップおよび復元する (235ページ)」の章を参照してください。
- **ウェブ統計管理**： 訪問者統計レポートのカスタムプリファレンスをセットアップします。

ウェブサイト訪問者の統計の構成と表示について詳しくは、「**統計を表示する**（54ページ）」のセクションを参照してください。

- **ログローテーション管理**：ウェブサーバログのリサイクル（ローテーション）に関するカスタムプリファレンスをセットアップします。ウェブサーバには、サイトへの接続に関する情報や、存在しないファイルの取得を試行したときに発生するエラーに関する情報が記録されます。これらのログファイルは、ウェブサイトのデバッグのために使用できます。ウェブサーバへのアクセスログに関する作業について詳しくは、「**ログファイル**（55ページ）」のセクションを参照してください。
- **アプリケーションカタログへのアクセス**：ウェブサイト上でアプリケーションを表示およびインストールします。アプリケーションについて詳しくは、「**ウェブアプリケーションを導入する**（106ページ）」のセクションを参照してください。
- **プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ**：プロバイダが適用したホスティングセキュリティポリシーを上書きすることができます。
- **ドメイン作成**：新しいウェブサイトをセットアップし、管理します。
ウェブサイトのセットアップについて詳しくは、「**最初のウェブサイトをセットアップする**（12ページ）」および「**ドメインを追加する**（65ページ）」のセクションを参照してください。
- **サブドメイン管理**：「forum.example.com」のようなアドレスで新しいウェブサイトをセットアップし、管理します。
サブドメインのセットアップについて詳しくは、「**サブドメインを追加する**（67ページ）」のセクションを参照してください。
- **ドメインエイリアスの管理**：サイトに対して追加のドメイン名をセットアップし、管理します。
ドメインエイリアスのセットアップについて詳しくは、「**ドメインエイリアスを追加する**（69ページ）」の章を参照してください。
- **追加 FTP アカウントの管理**：追加 FTP アカウントをセットアップし、管理します。ウェブサイトコンテンツでのコラボレーションを有効化するためには、他のユーザに FTP アカウントをセットアップして、これらのユーザがアクセスできるディレクトリを指定します。
FTP アカウントのセットアップについて詳しくは、「**FTP アカウントを追加する**（206ページ）」のセクションを参照してください。
- **Java アプリケーション管理**：WAR アーカイブで配布されている Java アプリケーションや、サードパーティベンダーまたはアプリケーション開発者から入手した Java アプリケーションをインストールし、管理できます。
Java アプリケーションのインストールについて詳しくは、「**Java アプリケーションをインストールする**」のセクションを参照してください。
- **メーリングリスト管理**：メーリングリストのセットアップと管理を行います。
メーリングリストのセットアップと使用について詳しくは、「**メーリングリストを使用する**（220ページ）」のセクションを参照してください。
- **ホスティングパフォーマンス設定の管理**：ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限します。

サイトの帯域幅使用制限について詳しくは、「**ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限する**（135ページ）」を参照してください。

- **IIS アプリケーションプール管理**： IIS アプリケーションプールのカスタムプリファレンスをセットアップします（Windows ベースの顧客アカウントのみ）。
IIS アプリケーションプールのセットアップについて詳しくは、「**IIS アプリケーションプールをセットアップする（Windows）**（155ページ）」のセクションを参照してください。
- **追加の書込/変更パーミッションの管理**： ファイルベースのデータベースを使用するウェブサイトに対して、追加の書込/変更パーミッションをセットアップします（Windows ベースの顧客アカウントのみ）。
- **共用 SSL 管理**： プロバイダが取得して共有している SSL 証明書を利用して、サイトへの接続を SSL で防御します。
詳しくは、「**共用 SSL 証明書を使用する（Windows）**（119ページ）」のセクションを参照してください。
- **ハードディスククォータの割り当て**： 顧客アカウントでサポートされている場合、ディスク領域のハードクォータを調整します。
- **データベースサーバの選択**： 複数のデータベースサーバが存在する場合、データベースの作成に利用するデータベースサーバを選択します。

アカウント残高と請求書を管理する

ここでの説明は、コントロールパネルに課金システムを統合している場合のみ有効です。

➤ アカウント残高を確認してホスティングサービスの支払いを行うには：

1. [アカウント] タブをクリックします。
2. 以下の情報が表示されます。
 - **アカウント残高**： アカウントで使用可能な残高です。
 - **(オプション) 従量課金料金**： 契約で、プランの上限を上回るホスティングリソースの利用が許可されている場合、ここで設定する値は、契約料金に加えてこれらのリソースに対して支払う必要がある追加料金を示します。上限を上回って利用したリソース量について詳細を確認するには、請求額の下に **[詳細を見る]** リンクをクリックしてください。システムによる従量課金料金の計算方法は、「**従量課金料金を計算する (50ページ)**」のセクションを参照してください。
 - **未払い請求書の残高**： プロバイダに支払う必要がある金額です。ここで、**[すべて支払う]** をクリックしてすべての請求書を支払うことや、**[未払い請求書をすべて支払う]** というリストで **[今すぐ支払う]** リンクをクリックしていずれかの請求書を支払うことができます。
 - **最新の To-do アイテム**： 行うべきアクションに関するシステムからのリマインダが表示されます。
 - **(オプション) アフィリエイトプログラム**： プロバイダによっては、顧客がプロバイダのプランをプロモーションして収益を得られる場合があります。この場合、顧客はアフィリエイトプログラムに参加する必要があります。顧客はここで、アフィリエイトプログラム参加用リンクや、獲得金額（プログラム参加者の場合）を確認することができます。アフィリエイトプログラムから収益を得る方法は、「**プロバイダのプランをプロモーションしてクレジットを獲得する (50ページ)**」のセクションを参照してください。
 - **すべての契約のリスト**： リスト内のリンクを使用して、次の操作を実行できます。
 - 契約のプロパティを表示するには、契約名のリンクをクリックします。
 - コントロールパネルで管理する契約を選択するには、対応する **[契約に切り替え]** リンクをクリックします。
 - サイトの SSL 証明書を注文するには、**[証明書を注文する]** をクリックします。この操作について詳しくは、「**SSL 証明書を注文する**」のセクションを参照してください。
 - 既に注文済みである SSL 証明書のプロパティを表示するには、**[証明書情報を表示する]** をクリックします。

- レジストラのサイトに指定したドメイン情報、連絡先情報、DNS 設定を表示または変更するには、**[ドメイン情報を表示する]** をクリックします。これらのオペレーションについて詳しくは、「Panel におけるレジストラの DNS 設定 (80 ページ)」のセクションを参照してください。

➤ **サービスの支払いに使用する支払方法を選択するには：**

1. **[アカウント]** タブで **[課金アカウント]** に進みます。

最初のサービスを購入するときに使用した支払方法に関する記録が表示されます。

2. 以下のいずれかを実行します。

- 課金アカウントの設定を表示または変更するには、**[課金アカウント名]** 列で該当するリンクをクリックし、自分の銀行カードまたはアカウントに関する情報を指定し、支払対象とする契約を選択します。**[OK]** をクリックします。
- 新しい課金アカウントを追加するには、**[新しい課金アカウントを追加する]** をクリックし、支払方法を選択して **[次へ]** をクリックして、自分の銀行カードまたはアカウントに関する必要な情報を指定し、支払対象とする契約を選択します。**[OK]** をクリックします。
- 課金アカウントを削除するには、該当する **[削除]** リンクをクリックします。

従量課金料金を計算する

従量課金のウェブホスティングがプランで許可されている場合、Business Manager は **従量課金料金**（ホスティングリソースの利用超過の合計額）を、Business Manager が接続先 Panel から毎日収集するリソース利用統計に基づいて計算します。顧客の課金モードや課金サイクルを問わず、これは毎月初日に計算されます。システムは、トラフィックを除く各リソースの 1 日あたりの平均利用超過量に、該当月の日数と該当リソースの月単価を掛けます。

トラフィック

トラフィックの従量課金料金は、次の方法で計算されます。Business Manager は、該当月の利用超過量の合計に、トラフィックの月単価を掛けます。たとえば、契約者が 1 ヶ月間で 10 GB 分のファイルをダウンロードし、プランの上限が 5 GB であった場合、トラフィックの利用超過量は 5 GB になります。トラフィックの月単価が 1 GB あたり \$1 であれば、契約者に課されるトラフィック従量課金分の料金は $(10 \text{ GB} - 5 \text{ GB}) * \$1 = \$5$ となります。

その他のリソース

他のリソースの従量課金料金の計算に、Business Manager は 1 日あたりの平均利用量を用います。例えば、顧客によるディスク領域の利用量が最初の 15 日間は契約クォータを 500 MB 超過し、残りの 15 日間は 700 MB 超過していた場合、平均利用超過量は $(500 * 15 + 700 * 15) / 30 = 600 \text{ MB}$ となります。ディスク領域の単価が 1 GB あたり \$1 であれば、顧客に課されるディスク領域の従量課金料金は \$0.6 となります。

アドオン利用料金を計算する

顧客が月の半ばに追加リソースのアドオンを購入した場合、システムはアドオン購入日以降の各日のリソース利用超過量から、アドオンで提供されるリソース量を差し引きます。

例えば、顧客がプラン制限を 500 MB 超えるディスク領域を利用しており、月の 7 日にディスク領域を 1GB 増強するアドオンを購入した場合、従量課金料金には、500 MB の利用超過が最初の 7 日分のみ含まれます。

プロバイダのプランをプロモーションしてクレジットを獲得する

Panel には、顧客がプロバイダのサービスプランをプロモーションすることによって収益を得られる機能があります。具体的には、顧客のサイトの紹介リンクからサインアップした人がプロバイダのオンラインストアで注文するごとに、顧客はコミッションを獲得することができます。

アフィリエイトプログラムの参加者（アフィリエイト）は、プロバイダのオンラインストアへのリンクを自らのサイトに配置します。各リンクは固有であるため、システムは新規顧客のリンク元を判別し、そのリンクの所有者のアフィリエイト残高にコミッションを加算することができます。コミッション額はアフィリエイトプログラムの利用条件に定義されており、オンラインストアに応じて異なる可能性があります。アフィリエイトは、プロバイダがアカウント残高にコミッション額を支払うまで、獲得した金額を利用することはできません。通常プロバイダは、アフィリエイトプログラムの支払しきい値が超過してから、アフィリエイトのコミッションを支払います。ただし、アフィリエイトはプロバイダに対し、残高がしきい値に達する前にコミッションを支払うよう求めることや、クレジット額がさらに増えるまで支払いを先送りするよう求めることができます。

アフィリエイトになる

報酬の獲得を開始するには、[アカウント] タブで [アフィリエイトになる] リンクをクリックしてください。アフィリエイトになると、プロバイダのアフィリエイトプログラムのリストとアフィリエイトリンクへのアクセスが提供されます。プログラムのリストとリンクを確認するには、[アカウント] タブで [アフィリエイトプログラム] リストをクリックします。

報酬をトラッキングする

現在のアフィリエイト残高を確認するには、[アカウント] タブの [アフィリエイトプログラム] グループで残高を確認します。報酬の詳細を表示するには、[紹介リンクからの収益] リンクをクリックしてください。

例

プロバイダがアフィリエイトプログラムに 10% のコミッションを設定し、支払しきい値を \$20 に設定しているとします。プロバイダから提供されたアフィリエイトリンクを友人に紹介し、そのうち 3 人が \$50 のウェブホスティングプランを契約しました。この場合、顧客が獲得するコミッションの合計は $\$50 * 3 * 10\% = \15 です。この金額はプログラムの支払しきい値を下回っているため、クレジットを受け取るためには、自分のリンクでオンラインストアにより多くのユーザを集客する必要があります。これに成功し、残高が支払しきい値を上回ると、プロバイダが顧客の残高にクレジットを追加します。顧客は、獲得したクレジットを、自分の契約やプロバイダのオンラインストアで新規購入するサービスの支払いに利用できます。

複数のプログラムに参加する

ホスティングプロバイダは、異なる通貨で複数のオンラインストアを運営できます。プロバイダが、通貨が異なる複数のストアにアフィリエイトプログラムを提供している場合、顧客は通貨ごとにコミッションを受け取ることができます。例えば、USD（米ドル）および EUR（ユーロ）のストアへの紹介リンクを利用する顧客の場合、アフィリエイト残高には 2 通貨分のアフィリエイト残高が含まれています。プロバイダ側でも、コミッションを通貨ごとに別々に支払います。例えば、アフィリエイト残高が USD 50 および EUR 40 で、それぞれのプログラムの支払しきい値が USD 40 および EUR 45 だとすると、プロバイダは USD 50 をクレジットに支払い、アフィリエイト残高は USD 0 および EUR 40 となります。

追加のリソースを注文する

ここでの説明は、コントロールパネルに課金システムを統合している場合のみ有効です。

➤ 契約にリソースを追加するか、他のサービスプランにアップグレードするには：

1. [アカウント] タブをクリックします。
2. 契約リストで、他のサービスプランにアップグレードしたい契約を特定し、現在使用しているプラン名のリンクをクリックします。
3. [アップグレード] をクリックします。

[アップグレード] リンクがない場合は、コントロールパネルで他のホスティングプランにアップグレードすることはできません。この場合、プロバイダに連絡する必要があります。

4. 以下のいずれかを実行します。
 - 他のプランにアップグレードせず、契約にリソースを追加するには、追加したいオプションを選択して [アドオン調整] をクリックします。
 - 他のサービスプランにアップグレードするには、[アップグレードを注文する] をクリックします。

➤ リソース数を減らすか、他のサービスプランにダウングレードするには：

1. [アカウント] タブをクリックします。
2. 契約リストで、他のサービスプランにダウングレードしたい契約を特定し、現在使用しているプラン名のリンクをクリックします。
3. [ダウングレード] をクリックします。

[ダウングレード] リンクがない場合、コントロールパネルで他のホスティングプランにダウングレードすることはできません。この場合、プロバイダに連絡する必要があります。

4. 以下のいずれかを実行します。
 - 他のプランにダウングレードせず、割り当てられたリソース数を減らすには、減らしたいオプションを選択して [アドオン調整] をクリックします。
 - 他のサービスプランにダウングレードするには、[ダウングレードを注文する] をクリックします。

➤ メインプランに加えてホスティングプランを契約するには：

1. [アカウント] タブで [契約を追加] リンクをクリックします。
2. 契約したいホスティングプランを選択し、[購入する] をクリックします。画面の指示に従って注文を完了します。

統計を表示する

➤ アカウントのディスク容量とトラフィック使用量レポートを表示するには：

1. アカウントに複数の契約が関連付けられている場合、画面上部の【契約】メニューで、必要な契約を選択します。

2. 【統計】タブをクリックします。

チャートに次の情報が表示されます。

- ウェブスペース内のウェブサイト、メールアカウント、データベース、およびウェブスペース内のその他のファイルで使用されているディスク容量。
- 当月中にFTP、ウェブ、メールサービスで使用されたトラフィック。

【FTP】フィールドは、FTP 経由でウェブスペースから送受信されたファイルの合計サイズを示します。

【HTTP】フィールドは、HTTP プロトコル経由ですべてのウェブサイトから送受信された（つまり、ウェブブラウザが取得した）データの合計量を示します。

【POP3/IMAP】フィールドは、ドメイン下のすべてのメールアカウントで受信したデータの合計量を示します。

【SMTP】フィールドは、ドメイン下のすべてのメールアカウントで送信したデータの合計量を示します。

3. 以下のいずれかを実行します。

- FTP 経由でサイトで送受信したデータ量に関するレポートを表示するには、【FTP 統計】をクリックします。
- FTP ディレクトリで送受信したデータ量に関するレポートを表示するには、【匿名 FTP 統計】をクリックします。
- 特定の月にサービスで使用されたトラフィックの量に関するレポートを表示するには、【データ転送統計】をクリックし、メニューから月を選択します。


ログファイル

ログファイルには、ウェブサーバへのすべての接続と、サーバで見つからなかったファイルのリクエストが記録されます。これらのログファイルの分析はサーバ上で稼働する統計プログラムで行われ、オンデマンドでグラフィカルレポートとして表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計プログラムで処理したり、ウェブサーバのデバッグに使用することができます。

➤ **これらのログファイルが増加するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップとリサイクルを有効にする必要があります。**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループの [ログ] に進み、[ログローテーション] を選択します。
3. [スイッチオン] をクリックします。[スイッチオフ] ボタンしか表示されない場合、ログのリサイクルはすでに有効になっています。
4. ログファイルをリサイクルするタイミングと、サーバに保管するログファイルのコピー数を指定します。ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ログファイルのコンテンツを表示するか、コンピュータにダウンロードするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ログ] に進みます。ログファイルのリストが表示されます。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - ログファイル内の全エントリを表示するには、ログファイル名をクリックします。ログファイルの最新行を数行だけ表示したい場合は、[設定] グループの入力ボックスに行数を入力し、ログファイル名をクリックします。
 - ファイルをコンピュータにダウンロードするには、対応するアイコン  をクリックします。
 - 処理済みのログファイルをサーバから削除するには、対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

➤ ログファイルをFTP経由でコンピュータにダウンロードするには：

1. PanelサーバにFTP経由で接続し、ダウンロードする契約ログのアクセスクレデンシャルを使用してログインします。
2. /statistics/logsディレクトリに進み、ログファイルをコンピュータにコピーします。

(高度) 補助ユーザアカウントを管理する

他のユーザに対して、Panelにアクセスしてウェブサイトやインストール済みアプリケーションを管理することや、自ドメイン下のメールサービスを使用することを許可する場合は、これらのユーザ用のユーザアカウントを作成する必要があります

補助ユーザとユーザ役割

補助ユーザアカウントは、ユーザ役割に基づいて作成されます。この役割には、Panelの特定のエリアにアクセスするための権限や、Panelで操作を実行するための権限などが含まれます。会計担当者、アプリケーションユーザ、所有者、ウェブマスターといったユーザ役割があらかじめ設定されています。顧客は、会計担当者、アプリケーションユーザ、ウェブマネージャの役割をニーズに合わせて変更したり、独自の役割を作成することができます。ユーザ役割とユーザアカウントの作成について詳しくは、「[ユーザ役割 \(57ページ\)](#)」および「[補助ユーザアカウント \(59ページ\)](#)」のセクションを参照してください。

補助ユーザアカウントを作成すると、これらのユーザでPanel内のアカウントにログインし、ショートカットからメールボックスにアクセスすることやアプリケーションでの作業することが可能になります。さらに、補助ユーザが利用できるリンクのリストにカスタムリンクを追加して拡張することができます。会社リソースやウェブ上のサイトなどへのカスタムリンクを追加できます。詳しくは、「[カスタムリンク \(61ページ\)](#)」を参照してください。

補助ユーザと複数の契約

Panel 10.4以降、顧客アカウントに複数の契約が含まれる場合、補助ユーザがアクセスできる契約を制限することが可能になりました。ユーザアカウントの【[契約へのアクセス](#)】プロパティが特定の契約に設定されていると、このユーザは常に当該契約にログインすることになり、他の契約に切り替えることはできません。

ユーザ役割

➤ ユーザ役割を作成するには：

1. [ユーザ] タブで [ユーザ役割] タブから [ユーザ役割の作成] に進みます。
2. 以下を指定します。
 - ユーザ役割名
 - Panel サービスへのアクセス： オペレーションに必要なパーミッションをユーザに付与します。
 - ユーザと役割を管理： ユーザアカウントと役割を追加、変更、削除します。このパーミッションがユーザに付与されていない場合でも、ユーザは Panel へのログイン後に他のユーザの連絡先情報を参照できます。
 - サイトの作成と管理： ドメイン名およびサブドメインのセットアップ・変更・削除、ウェブサイトのホスティング、ウェブホスティング設定の変更を行います。
 - ログローテーションの設定： ウェブサーバアクセスおよびエラーログファイルのリサイクル関連の設定を管理します。ログファイルを表示、ダウンロード、削除します。
 - 匿名 FTP サービスの設定： すべてのインターネットユーザが認証なしで FTP アクセスできるディレクトリをセットアップします。
 - スケジュール済みタスクの作成と管理： 顧客アカウントでスクリプトまたはプログラムの実行をスケジュールします。
 - スпамフィルタの設定： メールボックスのスパム防御をセットアップします。
 - アンチウイルスの設定： メールボックスのウイルス防御をセットアップします。
 - データベースの作成と管理： 顧客アカウントに保存されるデータベースを追加、変更、削除します。
 - データのバックアップおよび復元の構成および実行： 顧客のドメイン下の顧客アカウント、ウェブサイト、メールボックスに関連するデータをバックアップおよび復元します。
 - 統計の表示： ウェブサイト別のディスク容量とトラフィック使用量およびウェブサイト訪問のレポートを表示します。
 - アプリケーションのインストールと管理： ウェブサイトにアプリケーションをインストールし、管理します。
 - Web Presence Builder でのサイトデザイン： Web Presence Builder を使用してウェブサイトを作成します。
 - ファイルのアップロードと管理： Panel のファイルマネージャを使用してウェブスペース内のファイルとディレクトリを管理します。
 - 追加 FTP アカウントの作成と管理： 他のユーザに追加 FTP アカウントをセットアップします。

- **DNS 設定を管理**：ドメインの DNS 設定を管理します。
- **Java アプリケーションのインストールと管理**：サードパーティ製 Java アプリケーションをウェブサイトインストールします。
- **メールアドレスの作成と管理**：メールアドレスを作成、変更、削除します。
- **メールリングリストの作成と管理**：メールリングリストを作成、変更、削除します。
- **アプリケーションへのアクセス**：ユーザがアクセスし、使用できるアプリケーションを選択します。サーバにインストールされているすべてのウェブアプリケーションが表示されます。

アプリケーションのインストールおよびユーザへのアクセス権の付与については、「**補助ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する (108ページ)**」のセクションを参照してください。

3. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザ役割のプロパティを変更するには：**

1. [ユーザ] タブで [ユーザ役割] タブに進みます。
2. 変更する役割名のリンクをクリックします。
3. 必要に応じて役割のプロパティを変更し、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザ役割を削除するには：**

1. [ユーザ] タブで [ユーザ役割] タブに進みます。
2. 削除する役割に対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。所有者の役割や、1人以上のユーザに割り当てられている役割は、削除できません。
3. [はい] をクリックして削除を確認します。

補助ユーザアカウント

➤ ユーザアカウントを作成するには：

1. [ユーザ] タブで [ユーザアカウントの作成] に進みます。
2. 以下を指定します。
 - 担当者
 - メールアドレス：このメールアドレスは、Panel にログインする際のユーザ名としても使用されます。
 - ユーザ用に新しいメールアドレスを作成するには、[自分のアカウント下にメールアドレスを作成する] オプションをオンにします。
メールアドレスの @ 記号の左側部分を入力し、（アカウントに複数のドメインがあれば）メールアドレスの作成に使用するドメイン名を選択します。
 - このユーザアカウントを外部メールアドレスに関連付けるには、[外部メールアドレスを使用する] オプションをオンにして、既存の外部メールアドレスを指定します。
 - ユーザ役割：必要なユーザ役割をメニューから選択します。
 - 契約へのアクセス：ユーザに対し、指定した契約へのアクセスのみを許可します。「すべて」を選択すると、このユーザは顧客アカウント内のすべての契約にアクセスできるようになります。
 - パスワード：Panel にアクセスするためのパスワードを入力します。
3. [アクティブなユーザ] チェックボックスはオンにしておきます。これをオフにすると、ユーザはPanel にアクセスすることや顧客アカウントでアプリケーションを使用することができなくなります。
4. [OK] をクリックします。
5. ユーザに連絡先情報を追加したい場合は、ユーザ名のリンクをクリックし、[連絡先の詳細] タブをクリックして、ユーザの連絡先情報を入力します。
6. [OK] をクリックします。

これで、アカウントの作成と Panel へのアクセス権の付与をユーザに通知できるようになりました。ブラウザで表示するためのアドレスと、アカウント設定に指定したユーザ名/パスワードをユーザに知らせます。

➤ ユーザアカウントのプロパティを変更するには：

1. [ユーザ] タブをクリックします。
2. ユーザ名のリンクをクリックします。

3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザアカウントを一時停止するか、アクティベートするには：**

1. [ユーザ] タブをクリックします。
2. ユーザ名のリンクをクリックします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - ユーザアカウントを一時停止するには、[アクティブなユーザ] チェックボックスをオフにします。ユーザは Panel にログインしてアプリケーションにアクセスできなくなります。
 - ユーザアカウントをアクティベートするには、[アクティブなユーザ] チェックボックスをオンにします。
4. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザアカウントを削除するには：**

1. [ユーザ] タブをクリックします。
2. 削除するユーザアカウントのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。自分のアカウントを削除することはできません。
3. [はい] をクリックして削除を確認します。

カスタムリンク

Panelにカスタムハイパーリンクを追加し、ユーザに対して表示することができます。このハイパーリンクのリンク先は、ウェブリソース（貴社のサイトなど）やウェブアプリケーション（オンラインリクエストの処理、クリックしたユーザに関する追加情報の収集などを実行するアプリケーション）にすることができます。

ユーザに関してどのような情報を受け渡すのかを指定することができます。

- 契約 ID
- 契約に関連付けられたプライマリドメイン名
- FTP アカウントのユーザ名とパスワード
- 顧客のアカウント ID、名前、メールアドレス、会社名

コントロールパネルで次のような場所にリンクを配置し、表示対象とするユーザを決めることができます。

- コントロールパネルの [ホーム] ページで、自分のみに表示する。このように設定するには、リンクのプロパティで [顧客のホームページ] オプションをオンにします。
- コントロールパネルの [ホーム] ページで、自分とそのユーザ（コントロールパネルへのログインが許可されているユーザ）のみに対して表示する。このように設定するには、リンクのプロパティで [共通アクセス] オプションをオンにします。
- コントロールパネルの [ウェブサイトとドメイン] タブで、自分とそのユーザ（コントロールパネルへのログインが許可されているユーザ）のみに対して表示する。このように設定するには、リンクのプロパティで [契約の [ウェブサイトとドメイン] ページ] オプションをオンにします。

➤ コントロールパネルにカスタムハイパーリンクを追加するには：

1. [アカウント] タブで [追加サービス] に進み、[サービスにリンクを追加する] をクリックします。
2. 以下の設定を指定します。
 - [ボタンラベル] ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。
 - ボタンの優先度を指定します。カスタムボタンは、定義した優先度に従って Panel に配置されます。数字が小さいほど、優先度が高くなります。ボタンは左から右に配置されます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、[参照] をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像には 16×16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームやデスクトップに配置するボタンの画像には 32×32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルをお勧めします。
 - [URL] ボックスに、ボタンのハイパーリンクを入力します。

- チェックボックスで、顧客情報などのデータを URL に含めて転送するかどうかを指定します。これらの情報は外部のウェブアプリケーションで使用できます。
 - [ツールヒントのテキスト] の入力フィールドに、ボタンの上にカーソルを動かすと表示されるヒントを入力します。
 - リンク先 URL をパネルのメインフレームで開く場合は、[Parallels Panel で URL を開く] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、URL は別のウィンドウまたはタブに表示されます。
 - 自分以外にこのボタンを表示させない場合は、[自分にもみ表示する] チェックボックスをオンにします。
3. [終了] をクリックして作成を完了します。

➤ **Panel からハイパーリンクボタンを削除するには :**

1. [アカウント] タブで [追加サービス] に進みます。
2. 削除するボタンのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。

第 4 章

ウェブサイトとドメイン

「Parallels Panel クイックスタート (11ページ)」の章で説明したように、ウェブサイト構築の第一歩はドメイン名の購入です。ドメイン名 (あるいは簡略的に「ドメイン」) とは、ユーザがウェブサイトにアクセスするときにブラウザで指定する

「www.example.com」などの名前です。ドメイン登録は「ドメインネームレジストラ」という認定機関が行います。通常、ホスティングプロバイダがこの役割を担います。Panelでのドメイン管理について詳しくは、「ドメインとDNS (64ページ)」のセクションを参照してください。

ただし、ドメインはウェブサイトではありません。ウェブ上でアクセスできるようにし、コンテンツを追加するには、ホスティングサービスを契約する (顧客アカウントを取得する) 必要があります。つまり、インターネット接続、コンテンツを格納するためのディスク領域、メールサービスなどをドメインに付加する必要があります。したがってウェブサイトとは、ホスティングサービスが付加されたドメインであると言えます。

Panelでは、ドメインとウェブサイトに対して次のような各種オペレーションを実行できます。

- ドメイン、サブドメイン、エイリアスの追加と削除。
- ウェブサイトのコンテンツの管理。
- 各種ウェブアプリケーションのインストール。
- ウェブサイトへの接続などのセキュリティ管理。

この章では、Panelでウェブサイトとドメインに対して実行できるすべてのオペレーションについて詳しく説明します。ただし、ホスティングプランによっては、一部のオペレーションを実行できない場合があります。

ドメインと DNS

既に説明したように、ドメイン名とは、ウェブサイトアクセスしたいユーザがブラウザで指定する名前です。

ドメイン名は階層構造であり、「ラベル」という多数のパーツから構成されています。

- 一番右に位置するラベルを「トップレベルドメイン」と呼びます。例えば、「`www.example.com`」のトップレベルドメインは「`com`」です。トップレベルドメインの数は限られており、これらはすべて、複数の国際的な管理団体によって管理されています。
- ウェブサイトの使用目的を示すために主に使用されるのが「セカンドレベルドメイン」です。たとえば、「`www.example.com`」のセカンドレベルドメインは「`example`」です。セカンドレベルドメインとトップレベルドメインの組み合わせによって、ウェブサイトの具体的な場所を指定します。
- 左側にあるレベルは、右側のドメインのサブドメインです。例えば、「`www`」は「`example.com`」のサブドメインです。サブドメインは、メインサイトから一部のコンテンツを隔離したい場合に便利です（個人ブログを「`myblog.example.com`」にまとめる場合など）。Panelでのサブドメイン追加方法について詳しくは、「サブドメインを追加する（67ページ）」のセクションを参照してください。

1つの契約で複数のウェブサイトをホスティングしたい場合は、ドメインを追加購入し、契約に追加してください。Panelでのドメイン追加方法について詳しくは、「ドメインを追加する（65ページ）」のセクションを参照してください。

ドメイン名は便宜的に使用されるだけであり、ブラウザとウェブサーバの間の実際の通信は、IPアドレス（ホストを数字で示す識別子）を利用して行われます。例えば、「`www.example.com`」の実際のアドレスは「`192.0.2.12`」（※IPv4）です。ドメイン名からIPアドレスへの名前解決に、ウェブホストはDNSテクノロジーを使用します。PanelへのDNSの導入方法について詳しくは、「（高度）ドメイン用にDNSを構成する（72ページ）」を参照してください。

DNSでは、複数のドメインを1つのIPアドレスに名前解決することができます。このような追加のドメイン名を「ドメインエイリアス」と呼びます。これは、複数のドメインを購入して同じウェブサイトに関連付けたい場合に便利です。既存のドメインへのエイリアス追加方法について詳しくは、「ドメインエイリアスを追加する（69ページ）」のセクションを参照してください。

ドメインを追加する

ホスティングパッケージに複数のドメイン名（ウェブサイト）が含まれている場合、新しいドメインをサーバに簡単に追加できます。セカンドレベルドメイン名を使用する新しいドメイン（例： `example.com`）を追加する前に、このドメイン名を必ず登録してください。ホスティングプロバイダがドメイン名登録サービスを提供している場合、次の手順でコントロールパネルから実行できます。あるいは、ドメイン名を他のドメイン名登録機関に登録します。

Panel では、次のようなサイト構成をセットアップできます。

- **アドレスにセカンドレベルドメイン名を使用するウェブサイト。** ウェブサイトでは、次のようなサービスを使用できます。
 - 一意のインターネットアドレス（ドメイン名）（例： `example.com`）。
 - 追加のドメイン名（ドメインエイリアス）。
 - サブドメイン：メインサイトに付加された覚えやすいアドレス（例： `mail.example.com`）でアクセスできる、サイトの一部。
 - サイトコンテンツでのコラボレーションに使用する独立した FTP アカウント： FTP アカウントごとに、アクセス可能なディレクトリを指定できます。
 - Web Presence Builder によるウェブサイト作成。
 - アプリケーション（コンテンツ管理システム、フォトギャラリー、ショッピングカート、ブログプラットフォームなど）のシンプルなデプロイ。
 - SSL プロトコルによるセキュアなデータ交換： これを行うには、他のユーザやサイトと共有されない専用 IP アドレスでサイトをホスティングする必要があります。
 - メールボックスおよびメーリングリスト。
 - サイト訪問に関する統計の表示。
- **アドレスがサードレベルドメイン名（サブドメイン）であるウェブサイトまたはその一部。** これは通常、既存のサイトの一部です。インターネットアドレスは、ドットで区切られた 3 つの部分から構成されています。サブドメインでは、次のようなサービスを使用できます。
 - メインサイトとは別のドキュメントルート：ドキュメントルートとは、サーバ上の 1 ディレクトリであり、サイトのウェブページが格納されます。
 - コンテンツ管理への FTP アクセス。
 - Web Presence Builder によるウェブサイト作成。
 - アプリケーションのシンプルなデプロイ。
 - SSL プロトコルによるセキュアなデータ交換：
 - サイト訪問に関する統計の表示。

➤ **ドメインを追加する**

➤ **セカンドレベルドメイン名で新しいウェブサイトをホストするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある **[契約]** メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックし、**[新しいドメインを追加]** をクリックして、画面の指示に従います。

注： 推奨されるオプションを選択する場合、関連する DNS 設定とドメイン名を、レジストラ側のドメイン名と関連付ける必要があります。これを行うには、Panel ネームサーバの IP アドレスをレジストラの各 NS レコードに入力します。IP の取得方法は次のとおりです。 **[ウェブサイトとドメイン]** > **[DNS 設定]** で NS レコードを検索し、NS レコード値に対応する A レコードを検索します。

例えば、NS レコードが

```
example.com.    NS    ns.example.com
```

で、*ns.example.com* の A レコードが

```
ns.example.com. A    192.0.2.12
```

であれば、必要な Panel ネームサーバの IP アドレスは「192.0.2.12」です。

3. **[OK]** をクリックします。

新しいドメイン名が画面下にリストされます。

4. ホスティング設定の変更操作が許可されているアカウントの場合、新しいウェブサイトのドメイン名をクリックしてホスティング設定を表示または変更することができます。この手順は、「**ホスティング設定を変更する (83ページ)**」のセクションを参照してください。

Web Presence Builder でウェブサイトの作成を開始したり、新しいウェブサイトのウェブスペースにウェブコンテンツをアップロードすることができます。この手順は、「**ウェブサイトのコンテンツを管理する (96ページ)**」のセクションを参照してください。

➤ **ドメインを登録する**

サービスプロバイダがドメイン名登録サービスとウェブホスティングを提供している場合、ドメイン登録を Panel で直接開始することができます。ドメイン名を登録するには、上記の手順に従ってドメイン名を追加し、**[ウェブサイトとドメイン]** タブのドメインリストで新しいドメイン名の横にある **[今すぐ登録]** リンクをクリックしてください。これにより、プロバイダのオンラインストアにリダイレクトされ、登録を完了できます。

登録したドメイン名は、[ウェブサイトとドメイン] タブの [登録したドメイン名] リストに表示されます。ドメイン名登録についての詳細(登録価格や次回更新日など)は、このリストでドメイン名をクリックすると表示されます。

ドメインを削除する

Panel からドメインを削除すると、該当するサイトに関連するすべてのデータがサーバから削除されます。アカウントに対して最初に作成されたドメイン名(デフォルトドメイン)は削除できませんが、名前を変更することは可能です。

➤ ドメインを削除するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. ドメイン名のリストで、削除対象のドメインまたはサブドメインを選択し、[削除する] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

注：コントロールパネルでドメイン名を削除しても、これらのドメイン名の登録をキャンセルしたことはありません。これらのドメイン名が登録されていれば、ウェブサイトのために引き続き利用できます。

サブドメインを追加する

ホスティングパッケージに、アドレスがサードレベルドメイン名であるサブドメインが含まれている場合、これを使用して以下を実行できます。

- サイトの構造を論理的に編成する。
- 同じサーバで追加ウェブサイトやウェブサイトの一部をホスティングすることで、ドメイン名の追加登録に必要な費用を節減できます。

サブドメインの使用例：

「your-product.com」というウェブサイトを、製品の販促や販売に使用しているとします。顧客サービスとオンライン注文のトラッキングに関する情報を公開するために、サブドメイン「orders」を構築します。これにより、ユーザはドメイン名「orders.your-product.com」にアクセスすればこれらの情報を直接参照できるようになります。

サブドメインは追加ドメインと同じステータスとなるため、同じツールとサービスをサブドメインに対して設定できます。例えば、SSL 保護、Web Presence Builder、ウェブ統計などを使用できます。

➤ **サイトの一部または独立サイトにサブドメインをセットアップするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [新しいサブドメインの追加] をクリックします。
4. 以下を指定します。
 - a. [サブドメイン名] ボックスに、メインサイトのドメイン名に追加するアドレスの一部を入力します。
 - b. [ドキュメントルート] ボックスに、このサイトのすべてのファイルとサブディレクトリを格納するディレクトリのロケーションを入力します。メインサイトのデフォルトディレクトリ「httpdocs」を使用することも、他のディレクトリを指定することもできます。
5. [OK] をクリックします。

新しいサブドメイン名が画面下にリストされます。

サブドメインのウェブスペース（サーバ上のディレクトリ）にウェブコンテンツをアップロードできます。この手順は「FTP 経由でコンテンツをアップロードする」を参照してください。

ワイルドカードサブドメイン

サブドメイン名にアスタリスク (*) を入力すると、Panel はいわゆる「ワイルドカードサブドメイン」を作成します。Panel に登録されていない任意のサブドメイン名を入力したサイト訪問者は、このワイルドカードサブドメインにリダイレクトされます。ワイルドカードサブドメインは任意のドメイン名レベルに作成でき、たとえば *.mystore.example.com サブドメインなどを作成可能です。詳しくは、「(Linux) ワイルドカードサブドメインを追加する (71ページ)」のセクションを参照してください。

ドメインエイリアスを追加する

ドメイン名レジストラに、このサーバでホスティングする同一のウェブサイトポイントを複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスをセットアップする必要があります。

➤ ドメインエイリアスをセットアップするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[高度なオペレーション]** グループにある **[ドメインエイリアス]** に進みます。
3. **[ドメインエイリアスの追加]** をクリックします。
4. 希望するドメインエイリアス名を入力します(例：alias.com)。
ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の長さは、63文字以内にしてください。
5. ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じDNSゾーンリソースレコードを使用したい場合は、**[プライマリドメインとDNSゾーンを同期する]** チェックボックスをオンにします。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があれば、このドメインエイリアスのDNSゾーンにも適用されます。
6. ドメインエイリアスの下のメールアドレスに送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスにリダイレクトしたい場合、**[メールサービス]** チェックボックスをオンにします。
例えば、mail@yourdomain.com というメールアドレスがあり、ドメイン名のエイリアスとして alias.com を設定しているとします。この場合、mail@alias.com 宛てに送信されたメールをメールボックス mail@yourdomain.com で受け取るには、**[メールサービス]** チェックボックスをオンにします。
7. **[ウェブサービス]** チェックボックスをオンにします。この設定を行わないと、ブラウザでドメインエイリアスを指定してサイトを訪問してきたユーザに、ウェブコンテンツが表示されません。
8. Linuxプラットフォームがベースのホスティングサービスを使用しており、ドメインエイリアス経由でアクセス可能にしたいサイトにJavaアプリケーションがインストールされている場合は、**[Javaウェブアプリケーション]** チェックボックスをオンにします。
9. **[OK]** をクリックします。

➤ **エイリアスのプロパティを変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [ツール] グループの [プリファレンス] をクリックします。
4. 必要に応じてドメインエイリアスのプロパティを変更し、[OK] をクリックします。

➤ **ドメインエイリアスのDNSゾーンのリソースレコードを変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [DNS設定] をクリックします。
4. 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
 - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新しいレコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
 - リソースレコードを変更するには、[ホスト] 列で当該レコードのハイパーリンクをクリックします。
 - レコードを削除するには、削除するレコードのチェックボックスをオンにして [削除] をクリックします。

➤ **ドメインからエイリアスを削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 削除するドメインエイリアスのチェックボックスをオンにします。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

(Linux) ワイルドカードサブドメインを追加する

ワイルドカードサブドメインは、存在しないサブドメインへの訪問者を、いずれかのウェブサイト（通常はメインウェブサイト）にリダイレクトするために使用します。この機能を使用して、次のようなことが可能です。

- ウェブサイトの構成を改良し、マーケティングキャンペーンを実施する。
例えば、「*vps-limited-offer*」というサブドメインが存在せず、「*limited-vps-offer.example.com*」から「*example.com*」にユーザを転送したい場合があります。
- ユーザがサブドメイン名を誤入力しても、ウェブサイトを閲覧できるようにする。
ウェブサイト名の「*www*」という接頭辞を「*ww.example.com*」のように誤入力してしまうのはよくあるエラーです。
- 最後に、一部のウェブサイトアプリケーション（WordPress など）では、ユーザエクスペリエンス向上のために、ワイルドカードサブドメインを使用して動的サブドメインを作成します。

注：ワイルドカードサブドメインを追加しても、既存のサブドメインへのトラフィックに影響はありません。

ワイルドカードサブドメインを追加するには

1つの契約下のドメイン名に対し、ワイルドカードサブドメインを1つずつ追加することができます。これを行うには、**【ウェブサイトとドメイン】** タブで、名前が「*」の新しいサブドメインを任意のドメイン名に追加します。例えば、「**.example.com*」のように入力します。このサブドメインに、カスタマイズしたスクリプトやウェブサイトコンテンツを挿入するには、サブドメインに対してカスタムのドキュメントルートを指定します。

ワイルドカードサブドメインの制限事項

ワイルドカードサブドメインは通常のサブドメインと同様に機能しますが、以下の例外があります。

- *Linux 限定の機能*である。現在、ワイルドカードサブドメインに対応しているのは Panel for Linux のみです。
- *名前の変更*ができない。このようなサブドメインは名前を変更できません。
- *DNS ゾーンを持たない*。ワイルドカードサブドメインは、Panel の DNS サーバで独自のゾーンレコードを持ちません。代わりに、対応するドメイン名に関連付けられた IP アドレスをポイントする A レコードを持ちます。
- *APS アプリケーションをインストール*できない。Panel ユーザは、APS アプリケーションをワイルドカードサブドメインにインストールできません。

- *Web Presence Builder* サイトを使用できない。Panel ユーザは、ワイルドカードサブドメインに対して *Web Presence Builder* のサイトを編集および公開できません。

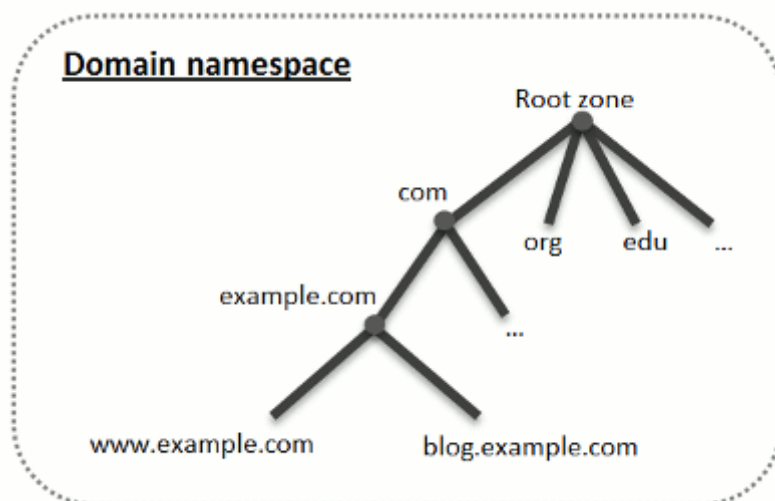
(高度) ドメイン用に DNS を構成する

ドメインネームシステム (DNS) とは、階層構造のネーミングシステムであり、人が理解できるドメイン名をウェブホストに関連付けられた数字の識別子 (IP アドレス) に変換します。このような変換を「名前解決」と呼びます。ドメイン名を追加するときは ([ウェブサイトとドメイン] > [新しいドメインを追加する])、リソースの名前解決用の Panel の役割を選択する必要があります。すべての変換リクエストを直接処理することや、バックアップサーバとして機能することや、変換リクエストをリモートサーバに受け渡すことができます。この役割は、既存のドメイン名に対して変更することができます ([ウェブサイトとドメイン] でドメイン名をクリックし、 [DNS 設定] を選択)。各役割の詳細や、役割の割り当て方法については、このセクションで後ほど説明します。

DNS 名前解決

DNS のベースになるのは、「ドメイン名前空間」という階層状のツリー構造です。このグローバルな名前空間にはすべての可能なドメイン名が含まれ、「ドメインゾーン」と呼ばれる複数の論理パーツに分割されます (下図参照)。ドメインゾーンとは名前空間の一部であり、特定ドメインのアドレスが含まれます。アドレスは、当該ゾーンに対して権限を持つ別のネームサーバ上のファイルに保存されています。例えば、ブラウザが「`www.example.com`」へのアクセスを試行すると、「`example.com`」ゾーンに対して権限を持つサーバからサイトの IP アドレスが通知されます。DNS がどのように機能するのかについては詳しくは、該当する参考文書を参照してください。例えば、インターネット上にも Microsoft TechNet

『<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc958978.aspx>』などの様々な情報源があります。



ドメインを購入すると、レジストラから、このドメインとそのサブドメインに対応する DNS ゾーンの設定へのアクセスが提供されます。レジストラにゾーンの管理を任せることも、ゾーンの管理を Panel に移管することもできます。後者のオプションを選択すると、顧客アカウントでゾーンを直接管理することができます。Panel にゾーン管理を移管する方法について詳しくは、「Panel をマスター DNS サーバとして利用する (74 ページ)」のセクションを参照してください。

上級ユーザは、ゾーンに対して権限を持たせたい DNS サーバが他にあれば、Panel をスレーブ (別名「セカンダリ」) DNS サーバとしてセットアップすることができます。この場合、Panel にはゾーンのコピーのみが保存され、コントロールパネルからゾーンを管理するオプションはありません。Panel の DNS サーバは、プライマリネームサーバがアクセス不能になった場合やプライマリネームサーバが停止した場合にのみ利用されます。Panel をセカンダリ DNS サーバとして使用する方法について詳しくは、「Panel をスレーブ DNS サーバとして利用する (79 ページ)」のセクションを参照してください。

Panel を DNS サーバとして利用しない場合、すべてのゾーン管理作業をドメインレジストラのサイトで行う必要があります。一部のレジストラでは、リモート DNS ゾーン管理をサポートしています。お使いのホスティングプロバイダがこの機能を提供している場合も、権限を持つネームサーバがどこにあらうとも、コントロールパネルで DNS ゾーンを変更することが可能です。Panel の DNS サーバをオフにして、ゾーンをリモート管理する方法について詳しくは、「Panel におけるレジストラの DNS 設定 (80 ページ)」のセクションを参照してください。

Panel をマスター DNS サーバとして利用する

Panel はそれぞれの新しいドメイン名に対し、サービスプロバイダによって構成された設定に従う DNS ゾーンを自動作成します。自動構成で問題ないはずですが、ドメイン名ゾーンにカスタマイズを施す必要がある場合は、Parallels Panel で実行できます。

➤ *ドメインの DNS ゾーンのリソースレコードを表示するには：*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、表示したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。

画面に、該当ドメインのリソースレコードがすべて表示されます。

➤ *ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには：*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [レコードを追加する] をクリックします。
4. リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
 - **【NS レコード】**（ドメインの DNS ゾーンを決めるネームサーバのドメイン名を指定するレコード）の場合：ドメイン名（またはサブドメイン）を指定して、該当するネームサーバのドメイン名を入力する必要があります。メインドメインの NS レコードを定義する場合は、ドメイン名フィールドを空欄にしてください。サブドメイン用のネームサーバを定義する場合は、ドメイン名の入力フィールドにサブドメイン名を入力してください。その後、ネームサーバの入力フィールドにネームサーバのドメイン名を入力します。例えば、「ns1.myname-server.com」のように入力します。
 - **【A および AAAA レコード】**（IP アドレスとドメイン名を関連付けるレコード）の場合：ドメイン名と IP アドレスを指定する必要があります。メインドメインのレコードを定義する場合は、ドメイン名の入力フィールドを空欄にしてください。ネームサーバのレコードを定義する場合は、ドメイン名のフィールドに「ns1」または「ns2」と入力します。次に、ドメイン名を関連付ける IP アドレスを入力します。
 - **【CNAME レコード】**（ドメインネームシステムでメインのドメインアドレスに関連付けるサブドメイン（または www など、サブドメインに似たドメインエイリアスを指定するレコード）の場合：サブドメイン名または www エイリアスを入力してから、メインドメイン名を入力します。

- 【MX レコード】（該当ドメインで推奨されるメールサーバのホスト名を指定するレコード）の場合：メールドメイン（またはサブドメイン）、メールを受信するメールエクスチェンジサーバのドメイン名、およびサーバの優先度を指定する必要があります。メインドメインに MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次に、メールサーバのドメイン名を入力します。「mail.myhostname.com」という名前のリモートメールサーバを実行している場合は、【メールエクスチェンジサーバ】フィールドに「mail.myhostname.com」と入力します。続いて、優先度を指定します。優先度は「0」が最高で「50」が最低となります。
 - 【PTR レコード】（リバース DNS ルックアップ（IP アドレスをドメイン名に変換）に必要なレコード）の場合：IP アドレス/マスクを入力してから、この IP アドレスを変換する際のドメイン名を入力します。
 - 【TXT レコード】（人間が判読できるテキストの入力に使用するレコード）の場合：任意のテキスト文字列または SPF レコードを入力することができます。
 - 【SRV レコード】メール以外のサービスのロケーション指定に使用するレコードの場合：サービス名、プロトコル名、ポート番号、およびターゲットホストを入力する必要があります。サーバおよびプロトコル名の先頭はアンダースコア（`_`）にします。ターゲットホストの優先度も指定できます。優先度が同じフィールドは、重み付けすることができます。
4. 【OK】をクリックして【アップデート】をクリックします。

➤ **リソースレコードのプロパティを変更するには：**

1. 【ウェブサイトとドメイン】タブで【DNS設定】に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. 【ホスト】列で、変更したいリソースレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
4. レコードを変更して【OK】をクリックし、【アップデート】をクリックします。

上記で説明したリソースレコードに加えて、SOA（Start of Authority）レコードもあります。このレコードは、この DNS ネームサーバがドメインの DNS ゾーン用であることを表します。また、ドメインネームシステム内の DNS ゾーンに関する情報の伝搬に影響を与える設定も含まれています。

➤ **ドメインの SOA レコード内のエントリを変更するには：**

1. 【ウェブサイトとドメイン】タブで【DNS設定】に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. 【SOAレコード】をクリックします。

4. 必要な値を指定します。

- **更新間隔**：セカンダリネームサーバが、マスターネームサーバに対して、ドメインのゾーンファイルに変更がないかを確認する間隔です。Panelでのデフォルト値は3時間です。
- **再試行間隔**：セカンダリサーバが、失敗したゾーン転送を再試行するまで待機する時間です。一般に、この時間は更新間隔より短くします。Panelでのデフォルト値は1時間です。
- **失効間隔**：更新期間中にゾーンが変更または更新されなかった場合に、セカンダリサーバが問い合わせに回答しなくなるまでの時間です。Panelでのデフォルト値は1週間です。
- **最小 TTL**：セカンダリサーバがマイナスの応答をキャッシュするまでの時間です。Panelでのデフォルト値は3時間です。
- **デフォルト TTL**：他のDNSサーバがレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Panelでのデフォルト値は1日です。

5. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。

一部のハイレベルDNSゾーン(大部分はヨーロッパ)に登録されたドメインでは、IETFとRIPEの推奨するシリアル番号フォーマットを使用することが義務付けられています。これらのゾーンに登録されているドメインを使用しており、レジストラにSOAシリアル番号を拒否された場合は、IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを使用すれば問題が解決します。

Panelが管理するサーバは、UNIXタイムスタンプ構文を使用してDNSゾーンを構成します。UNIXタイムスタンプとは、1970年1月1日(Unix Epoch)を起点にした秒数です。この32ビットのタイムスタンプは、2038年6月8日にオーバーフローしてしまいます。

RIPEでは、YYYYMMDDNNフォーマットの使用を推奨しています。YYYYは年(4桁)、MMは月(2桁)、DDは日(2桁)、NNは同じ日付に作成されたバージョンです(2桁)。YYYYMMDDNNフォーマットは4294年までオーバーフローしません。

➤ **ドメインのSOAシリアル番号フォーマットをYYYYMMDDNNフォーマットに変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [SOAレコード] をクリックします。
4. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスをオンにします。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルを参照してください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新は、しばらくの間インターネットユーザに表示されない可能性があります。

5. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。

➤ **ゾーンからリソースレコードを削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. 削除するレコードのチェックボックスをオンにします。
4. [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックして、[アップデート] をクリックします。

➤ **サーバで使用されているデフォルト DNS テンプレート設定に従って元のゾーン構成に復元するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [デフォルトに復元する] をクリックします。
4. [IPアドレス] メニューで、ゾーンの復元に使用するIPアドレスを選択します。
5. ドメインにwwwエイリアスが必要かどうかを指定します。
6. [DNSゾーンの復元を確認する] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ **ドメインの SOA シリアル番号フォーマットをデフォルト (UNIX タイムスタンプ) に戻すには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [SOAレコード] をクリックします。

4. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する]チェックボックスをオフにします。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルを参照してください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新は、しばらくの間インターネットユーザに表示されない可能性があります。

5. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。

デフォルトでは、DNS ゾーン転送が許可されるのは、各ゾーンに含まれる NS レコードで指定されているネームサーバのみです。Windows ベースのアカウントを使用している場合、ゾーン転送の設定を変更できます。

➤ **ドメイン名レジストラから、すべてのゾーンへの転送を許可するよう求められている場合は、以下を実行してください。**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [ゾーン転送] をクリックします。すべてのゾーンへのDNSゾーン転送が許可されているホストがすべて表示されます。
4. レジストラのIPアドレスまたはネットワークアドレスを指定して、[ネットワーク追加] をクリックします。

Panel をスレーブ DNS サーバとして利用する

自らのアカウントでウェブサイトをホスティングしており、このサイトのプライマリ（マスター）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバが存在する場合は、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように Panel の DNS サーバをセットアップすることができます。

➤ *Panel の DNS サーバをセカンダリネームサーバとして機能させるには :*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。
4. [レコードを追加する] をクリックします。
5. プライマリ（マスター）DNSサーバのIPアドレスを指定します。
6. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。
7. サーバ上でセカンダリネームサーバを持つ必要があるウェブサイトごとに、ステップ2~6を繰り返します。

➤ *Panel の DNS サーバをプライマリバックとして機能させるには :*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。
そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Panel におけるレジストラの DNS 設定

一部のウェブサイト进行管理する外部プライマリネームサーバとセカンダリネームサーバがある場合、これらの各サイトに対して Panel の DNS サービスをオフに切り替えてください。

➤ 外部ネームサーバで管理しているサイトに対して Panel の DNS サービスをオフに切り替えるには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [DNSサービスを無効にする] をクリックします。

ゾーンの DNS サービスを無効にすると、画面が更新され、ネームサーバのリストだけが表示されます。リストに含まれるネームサーバのレコードは、システムに影響を与えません。これらのレコードはクリックブルリンクとして画面に表示され、リンクをクリックすると、権限を持つ外部のネームサーバで管理されているゾーンの構成を確認することができます。

4. 権限のあるネームサーバで管理されているゾーンの構成を確認するには：
 - a. ゾーンに対して権限のある該当ネームサーバのエントリをリストに追加します。[レコードの追加] をクリックし、ネームサーバを指定して [OK] をクリックし、[アップデート] をクリックします。
 - b. テストするネームサーバごとに、これを繰り返します。レコードがリストに表示されます。
 - c. 作成したレコードをクリックします。

Panel は、リモートネームサーバからゾーンファイルを取得し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されていることを確認します。結果が解釈され、画面に表示されます。

コントロールパネルが課金システムと統合されている場合、ドメインに対する以下の操作をパネルから実行できます。

- レジストラのサイトでドメイン管理パネルにアクセスするためのパスワードを設定する
- 他のプロバイダへの移管のためにドメインをロック/ロック解除する
- ドメイン登録者やその他の連絡先情報を変更する
- ドメインレジストラが管理しているドメインゾーンの DNS 設定を変更する
- ドメイン名登録事業者でのドメインアカウントの自動更新を構成する

➤ **レジストラのサイトでドメイン管理コントロールパネルにアクセスするための新しいパスワードを設定するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [ドメインパスワードを変更する] をクリックします。
4. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

➤ **他のプロバイダへの移管のためにドメイン名をロック/ロック解除するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [レジストラのロック設定を変更する] をクリックします。
4. ドメイン名転送を許可するには、 [ロック] チェックボックスをクリアして、 [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン所有者の連絡先情報、技術情報、管理情報、課金情報などを変更するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [連絡先情報を編集する] をクリックします。
4. 必要な変更を加えて [OK] をクリックします。

➤ **ドメインのDNS設定を変更するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [DNS設定を編集する] をクリックします。
4. ウェブサイトのDNSゾーンを管理するドメインネームサーバと、ウェブサイトをホスティングしているサーバのIPアドレスを指定します。

5. ウェブサイトのDNSゾーンがドメインレジストラによって管理されている場合、貴社のウェブサイトのサービスにインターネット経由でアクセスする方法に影響を与えるその他のリソースレコードを指定することもできます。
6. [OK] をクリックすると変更が保存されます。

➤ **ドメイン名の自動更新を構成するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [ドメイン登録の自動更新を許可する] をクリックします。
4. ドメイン登録の自動更新を許可するには、[自動更新をオンにする] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

ホスティング設定を変更する

Panel では、以下のような各種ホスティング設定を管理することができます。

- **基本設定**：ドメイン名やホスティングタイプなど。
- **セキュリティ設定**：サイト接続のセキュリティを SSL 証明書で強化するには、まず最初に SSL サポートを有効化する必要があります。
- **スクリプティング設定**：サイトでサポートするスクリプティング言語を指定することができます。詳しくは、「**ウェブスクリプティング設定**（85ページ）」のセクションを参照してください。さらに、Panel は、PHP 言語および ASP.NET 言語のサイト単位（サブドメイン単位）でのカスタム構成をサポートします。調整可能な設定について詳しくは、「**PHP 設定**」および「**ASP.NET 設定（Windows）**（90ページ）」のセクションを参照してください。

➤ **ホスティング設定を確認したり、サイトでサポートするホスティング機能やスクリプト言語を選択するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースにアクセスできる場合、画面上部にある **[契約]** メニューで、ウェブサイトがホスティングされているウェブスペースを選択してください。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. 画面の下部にあるウェブサイトのリストで、ウェブサイトのアドレスをクリックします。
4. 次のホスティング設定とオプションをレビューまたは変更します。
 - **ホスティングタイプ**：デフォルトで選択されているホスティング構成のタイプは、ウェブサイトホスティングです。つまり、ウェブサイトはこのサーバでホスティングされます。また、訪問者を他のウェブサイトのリダイレクトすることもできます（別名「ウェブ転送」）。メールボックスとメーリングリストのみをこのドメインでホスティングする必要がある場合は、ウェブホスティングサービスをオフにしてください。あるいは、ウェブサイトのドメイン名の下でホスティングされているウェブサイトとすべてのメールボックスおよびメーリングリストを一時停止することもできます。
 - 訪問者を他のサイトにリダイレクトするには、**[変更]** リンクをクリックし、**[転送]** オプションを選択して転送先のアドレスを入力し、転送方法を選択して **[OK]** をクリックします。
 - ウェブサービスをオフにして、ドメイン下のメールサービスのみを使用するには、**[変更]** リンクをクリックし、**[ウェブホスティングなし]** オプションを選択して、**[OK]** をクリックします。

- ウェブサイトとそれに関連付けられたすべてのサービス（メールを含む）を一時停止するには、**【一時停止】** リンクをクリックします。このドメインまたはウェブサイトをオンラインに戻す必要がある場合、**【ウェブサイトとドメイン】** タブで **ドメイン名** を選択し、**【アクティベート】** リンクをクリックします。
- **ドキュメントルート**： サイトのすべてのファイルとサブディレクトリを格納しているディレクトリの場所です。デフォルトディレクトリの「httpdocs」を使用することも、他のディレクトリを指定することもできます。
- **SSL サポートを有効にする**： 一般に、SSL 暗号化は、専用 IP アドレスで機能する e-コマースウェブサイトでのオンライントランザクション中に機密データの転送を保護するために使用します。暗号化プロセスで使用される SSL 証明書は、通常、単一 IP アドレスの単一ドメイン名に適用されます。そのため、SSL による保護が必要なサイトは、専用 IP アドレス上でホスティングする必要があります。例外はサブドメインであり、ワイルドカード証明書で保護することができます。ドメイン名の異なる複数のウェブサイトを単一の IP アドレス上でホスティングするウェブサーバに SSL 証明書をインストールすることは技術的には可能ですが、この方法はお勧めしません。暗号化は行われますが、ユーザがセキュアサイトに接続しようとするすると警告メッセージが表示されます。ウェブサイトの SSL 暗号化を許可するには、**【SSL サポートを有効にする】** チェックボックスをオンにしてください。
- **スクリプティング言語**： ウェブサーバでサポートするプログラミング言語およびスクリプティング言語を、Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python から指定します。デフォルトでは、PHP はセーフモードで動作するように構成されています。これは、機能的な制限を加えてホスティングセキュリティを強化するためです。PHP セーフモードについて詳しくは、<http://php.net/features.safe-mode> を参照してください。
- **Microsoft FrontPage 設定**： Microsoft FrontPage は一般的なウェブサイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage でコンテンツを作成および公開できるようにするためには、**【Microsoft FrontPage サポート】**、**【Microsoft FrontPage over SSL サポート】**、および **【リモート FrontPage オーサリング許可】** オプションを選択します。
- **ウェブ統計**： ウェブサイト訪問者に関するグラフィカルレポートとチャートを表示するために使用するウェブ統計ソフトウェアを選択します。また、パスワード保護されたディレクトリである <http://your-website/plesk-stat/webstat> にアクセスして統計レポートを利用できるようにするためには、対応するチェックボックスをオンにしてください。
- **カスタムエラードキュメント**： サイトの訪問者が要求したページが見つからない場合、ウェブサーバはエラーメッセージを示す標準 HTML ページを生成して表示します。独自のエラーページを作成してウェブサーバでそのページを使用するには、**【カスタムエラードキュメント】** チェックボックスをオンにします。

- **追加の書込/編集パーミッション** (Windows ホスティングのみ) : このオプションは、httpdocs ディレクトリの root にあるファイルベースのデータベース (Jet など) をサイトのウェブアプリケーションで使用する場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトのセキュリティが著しく低下する恐れがあります。
5. ホスティング設定の表示または変更の完了後、[OK] をクリックします。

cgi-bin ディレクトリのロケーション

ドメインの作成時に表示される cgi-bin ディレクトリは様々な可能性があります ([CGI サポート] チェックボックス)。サンプルを用いて説明します。

Panel 11 の一般的なドメインファイル構成は次の通りです。

- /var/www/vhosts/webpace1.com/example1.com/
- /var/www/vhosts/webpace1.com/example2.com/
- /var/www/vhosts/webpace1.com/example3.com/

ここで example ドメインは webpace1.com ウェブスペースの下に作成されています。

example3.com ドメインの cgi-bin ディレクトリをウェブスペースのルートディレクトリとして指定すると、絶対パスは次のようになります。

```
/var/www/vhosts/webpace1.com/cgi-bin/
```

cgi-bin ディレクトリをこのドメインのドキュメントルートとして指定すると、絶対パスは次のようになります。

```
/var/www/vhosts/webpace1.com/example3.com/cgi-bin/
```

このドメインの旧スタイルのルートを指定すると、絶対パスは次のようになります (このオプションは、Panel を旧バージョンからアップグレードしなければ表示されません)。

```
/var/www/vhosts/domain3.com/cgi-bin
```

このオプションは、ファイルシステムでのドメインファイルの構成が旧式でも対応できます。

ウェブスクリプト設定

契約内の各ウェブサイトに対して、ウェブサーバでサポートしたいプログラミング言語およびスクリプト言語を、Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python から指定します。Panel 10.4 以降、契約内の各ウェブサイト（またはサブドメイン）の PHP 設定を個別に構成することが可能になりました。この機能は、適切なパーミッションが契約に付与されている場合のみ使用できます。PHP のカスタム構成について詳しくは、「PHP 設定」のセクションを参照してください。

PHP 設定

PHP とは、動的なウェブページの作成でよく用いられるスクリプト言語です。最新のウェブサイトやウェブアプリケーションの多くは、PHP スクリプトをベースにしています。従って、サイト管理者は PHP スクリプトの実行を制御する方法を明確に理解しておく必要があります。

特定のウェブサイトに対して PHP スクリプトがどのように実行されるのかは、PHP ハンドラのタイプおよびサイトに対する PHP 設定の値という 2 つの側面から完全に定義されます。特定のウェブサイトに対してこれらのパラメータをセットアップするには、**[ウェブサイトとドメイン]** でリストからサイトを選択します。

PHP ハンドラ

訪問者が PHP スクリプトでサイトにアクセスすると、ウェブサーバはサイトスクリプトを解釈し、訪問者に対して表示されるページを生成します。PHP ハンドラは、この解釈に必要な PHP ライブラリを呼び出します。PHP ハンドラは、ISAPI (Windows)、Apache モジュール (Linux)、FastCGI、または CGI アプリケーションなど多数の中から選択できます。どの PHP ハンドラを選択するのかは、セキュリティ、スクリプト実行速度、メモリ消費量など様々な要因を検討して決定します。

[ウェブサイトとドメイン] でウェブサイトを選択し、**[全般]** タブで **[PHP 対応]** を選択して、いずれかの PHP ハンドラを選択してください。

| | | | |
|--|---------|------------|--------|
| | パフォーマンス | メモリ 使用量 | セキュリティ |
|--|---------|------------|--------|

| | | | |
|---------------------------------------------|----------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Apache モジュール (Linux のみ)</p> | <p>高 Apache ウェブサーバの一部として機能します。</p> | <p>低</p> | <p>このハンドラ（別名「mod_php」）では、すべての PHP スクリプトが apache ユーザで実行されるため、セキュリティが最も低いオプションとなります。つまり、任意のプラン契約者の PHP スクリプトで作成されるすべてのファイルに、同じ所有者 (apache) と同じパーミッションが設定されます。したがって、ユーザが自分以外のユーザのファイルや重要なシステムファイルに影響を与えることが理論上可能です。</p> <p>注： PHP <code>safe_mode</code> オプションをオンにすることで、いくつかのセキュリティ問題を回避することができます。このオプションは、セキュリティに関する潜在的なリスクをもたらす多数の PHP 機能を無効化します。これによって一部のウェブアプリケーションが機能しなくなる場合があります。safe_mode オプションは推奨されておらず、PHP 5.3 では廃止予定となっています。</p> |
| <p>ISAPI 拡張 (Windows のみ。PHP 5.3 以降は非対応)</p> | <p>高 IIS ウェブサーバの一部として機能します。</p> | <p>低</p> | <p>ISAPI 拡張は、専用 IIS アプリケーションプールが契約に対してオンになれば、サイト分離を実現します。サイト分離とは、異なる顧客のサイトで当該顧客のスクリプトが独立して実行されるということです。したがって、ある PHP スクリプトでエラーが発生しても、他のスクリプトの機能には影響がありません。さらに、PHP スクリプトはホスティングアカウントに関連付けられたシステムユーザで実行されません。</p> <p>注： ISAPI 拡張ハンドラは、PHP 5.3 以降はサポートされません。</p> |

| | | | |
|------------------|--------------------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CGI アプリケーション | 低 各リクエストに対して新しいプロセスを作成し、リクエストが処理されるとプロセスが終了します。 | 低 | CGI ハンドラでは、PHP スクリプトがホスティングアカウントに関連付けられたシステムユーザで実行されます。Linux では、この動作が可能なのは、Apache ウェブサーバの suEXEC モジュールがオン（デフォルト）の場合のみです。オフの場合、すべての PHP スクリプトは apache ユーザで実行されます。 CGI アプリケーションハンドラはフォールバックとしてのみ使用することをお勧めします。 |
| FastCGI アプリケーション | 高 (Apache モジュールと ISAPI 拡張に近い) さらなる受信リクエストの処理用にプロセスを実行し続けます。 | 高 | FastCGI ハンドラでは、PHP スクリプトがホスティングアカウントに関連付けられたシステムユーザで実行されます。 |

注： PHP を Apache モジュールから FastCGI アプリケーションに切り替えると、既存の PHP スクリプトが正しく機能しなくなる可能性があります。

Windows ホスティングを使用する場合、追加で PHP バージョンを選択することができます。古い PHP アプリケーションのホスティングに PHP 4.x が必要な場合を除き、必ず PHP 5.x を使用してください。

PHP 設定

PHP の挙動は、様々な構成設定によって定義されます。これらの設定により、パフォーマンス（たとえばスクリプトで使用できるメモリ量）やセキュリティ（たとえばファイルシステムとサービスへのアクセス）などに関する様々なスクリプト実行の仕様が決まります。これらの設定を、様々な理由に基づいて調整することができます。

- スクリプトの誤記述によるメモリリークやサーバハングアップを防ぐため。
- 悪意あるスクリプトからデータを保護するため。
- 特定のウェブアプリケーションの要件を満たすため。
- 自社開発のスクリプトなどをテストするため。

カスタマイズ可能なすべての PHP 設定は、コントロールパネルの [ウェブサイトとドメイン] > ウェブサイトを選択すると、[PHP 設定] タブに表示されます。便宜上、すべての PHP 設定は以下の 3 つのグループに分類されています。

- **パフォーマンス設定：**
これらの設定は、スクリプトによってシステムリソースがどのように処理されるのかを定義します。例：memory_limit パラメータを使用してスクリプト用のメモリ量を制限し、メモリリークを防ぎます。さらに、max_execution_time でスクリプトの最大許容実行時間を制限し、スクリプトによるサーバの拘束を防止することができます。
- **共通設定：**
このグループには、他の一般的な PHP 設定が含まれます。主な設定に、セキュリティ設定（例：PHP セーフモードのオン/オフ切り替え、グローバル変数の登録パーミッション）、エラー報告設定（例：エラーログディレクティブ）などがあります。
- **追加構成ディレクティブ：**
パフォーマンス設定または共通設定で見つからないパラメータは、**[追加構成ディレクティブ]** フィールドに追加してください。このフィールドのすべてのディレクティブが、最終版の PHP 構成に含められます。例えば、PHP にエラーログを独自のファイルに記録させるには、「error_log=/tmp/my_file.log」という行を追加します。

PHP 設定の各パラメータの値を設定するには、プリセットから値を選択するか、カスタム値を入力するか、あるいはデフォルト値のまま使用します。デフォルト値の場合、Panel はサーバ全体の php.ini ファイルに定義された値を使用します。個々の PHP 設定に関する情報は、該当するドキュメントを参照してください。例えば、<http://php.net/manual/en/ini.list.php> などが参考になります。

パラメータ値では次の 3 つのプレースホルダを使用できます。

- {DOCROOT}：カスタム PHP 構成を取得するドメインのドキュメントルートディレクトリ用。
- {WEBSPACEROOT}：契約（ウェブスペース）のルートディレクトリ用。
- {TMP}：一時ファイルを保存するディレクトリ用。




注： ウェブサイトのカスタム PHP 構成は、このサイトのすべてのサブドメインに対してプリセットとして機能します。ウェブサイトと同じ方法で、サブドメインごとの PHP 構成もさらに構成することができます。

ASP.NET 設定 (Windows)


▶ サイト用の ASP.NET 設定を構成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ASP.NET設定] に進みます。
3. データベースを使用するASP.NETアプリケーションのデータベース接続用データを定める文字列をセットアップします。このオプションはASP.NET 2.0.xでのみ有効です。

ASP.NET 構成画面に初めてアクセスすると、共通の構造のサンプル接続パラメータが表示されます。サンプルを削除し、独自の文字列に変更することができます。

- 文字列を追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力し、横にある  をクリックします。
 - 文字列を削除するには、横にある  をクリックします。
4. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NETアプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューで適切なオプションを選択します。
 - **オン**： カスタムエラーメッセージが有効化されます。
 - **オフ**： カスタムエラーメッセージが無効化され、エラーの詳細が表示されません。
 - **リモートのみ**： カスタムエラーメッセージはリモートクライアントに対してのみ表示され、ローカルホストユーザにはASP.NETエラーが表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ（※ [オフ] モードを選択していなければ適用されます）を追加するには、[ステータスコード] フィールドと [リダイレクトURL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - **ステータスコード**： エラーページにリダイレクトされる HTTP ステータスコードを定義します。
 - **リダイレクト URL**： エラーに関する情報をクライアントに提供するエラーページのアドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードに対して新規のカスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードの URL を再定義することができます。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、横にある  をクリックします。
5. **[コンパイルおよびデバッグ]** フィールドで、コンパイル設定を構成します。
- 動的コンパイルファイルのデフォルトとして使用するプログラミング言語を決定するには、**[ウェブページのデフォルト言語]** リストからエントリを選択します。
 - リテールバイナリのコンパイルを有効化するには、**[デバッグの有効化]** チェックボックスをクリアしておきます。
 - デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、**[デバッグをスイッチオンする]** チェックボックスをオンにします。この場合、ソースコードの一部にエラーがあると、診断ページメッセージに表示されます。

注： アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグは、アプリケーションのテスト時に使用して、本稼働段階では無効にすることをお勧めします。

6. **[グローバル化設定]** セクションで、ASP.NETアプリケーションのエンコーディング設定を構成します。
- すべての受信リクエストに適用するエンコーディングを設定するには、**[リクエストのエンコーディング]** フィールドにエンコーディング値を入力します（デフォルトは「utf-8」）。
 - すべてのレスポンスに適用するエンコーディングを設定するには、**[レスポンスのエンコーディング]** フィールドにエンコーディング値を入力します（デフォルトは「utf-8」）。
 - .aspx、.asmx、.asax ファイルの解析時のデフォルトとして使用するエンコーディングを設定するには、**[ファイルのエンコーディング]** フィールドにエンコーディング値を入力します（デフォルトは「Windows-1252」）。
 - 受信するウェブリクエストに対してデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、**[カルチャー]** リストから適切なアイテムを選択します。
 - ロケールに依存するリソースの検索時にデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、**[UIカルチャー]** リストで適切なアイテムを選択します。
7. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを **[コードアクセスセキュリティ]** フィールドに設定します。

CAS 信用レベルとは、アプリケーションの実行を割り当てるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスできるサーバリソースを定義します。

重要： アセンブリに割り当てた信用レベルが低すぎると、アセンブリは正しく機能しません。パーミッションレベルについて詳しくは

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010を参照してください。

8. **[スクリプトライブラリ設定]** フィールドで補助スクリプトの使用を有効化します。ウェブサイトを検証ウェブコントロールを使用している場合は、スクリプトライブラリ設定を指定する必要があります。このオプションはASP.NET 1.1.xでのみ有効です。
 - 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を指定してください。これを行うには、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドに、スラッシュに続けてドメインのルートディレクトリから始まるパスを入力するか、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドの横のフォルダアイコンをクリックして必要な場所を選択します。
 - スクリプトを含むファイルの指定場所への自動インストールを開始するには、**[インストール]** チェックボックスをオンにします。既存のファイルは上書きされます。
9. クライアントセッションパラメータを**[セッション設定]** フィールドに設定します。
 - アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**[認証モード]** リストで適切なアイテムを選択します。IIS 認証を使用している場合は、Windows 認証モードを選択してください。
 - セッションがアイドル状態のまま維持される時間をセットアップするには、**[セッションタイムアウト]** ボックスに分単位で時間を入力します。
10. **[OK]** をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

ウェブサイトを一時停止または起動する

ウェブサイトを一時停止すると、このサイトはインターネット経由でアクセスできなくなり、サイトのドメイン名を使用するメールアドレスは機能が停止します。

➤ **ウェブサイトを一時停止するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある**【契約】**メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. 一時停止するサイトのドメイン名をクリックします。
4. **【ホスティングタイプ】** フィールドの横にある**【停止する】** リンクをクリックします。

➤ **ウェブサイトを起動するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある**【契約】**メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. 起動するサイトのドメイン名をクリックします。
4. **【ホスティングタイプ】** フィールドの横にある**【起動する】** リンクをクリックします。

ウェブサイトをメンテナンスのために一時停止する

サイトメンテナンスモードに切り替えると、サイトをメンテナンス用にシャットダウンし、一時的に閲覧できないことを訪問者に知らせて後で再アクセスするよう呼びかけることができます。サイトをメンテナンスモードにすると、ウェブサイトの訪問者に実際のサイトページではなく「503 Service Unavailable」エラーページが表示されます。

ウェブサーバのエラー文書（「カスタムエラーページ」オプション）をカスタマイズするオプションがホスティングプランに含まれている場合、ファイルマネージャを使用してエラーメッセージを開いてカスタマイズすることができます。「Service Temporarily Unavailable」メッセージの代わりに、「このサイトは現在メンテナンス中です。まもなく復旧いたしますのでお待ちください」といった独自のメッセージを記述することができます。

メンテナンス作業の終了後、サイトのメンテナンスモードをオフにして、訪問者がアクセスできるようにしてください。

➤ ウェブサイトのメンテナンスモードをオンにするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. [ウェブサイトのメンテナンスモード]（[高度なオペレーション]グループ内）をクリックします。
3. 複数のウェブサイトがある場合、一時的に停止するサイトを特定し、[管理] リンクをクリックします。
4. [ウェブサイトのメンテナンスモードに切り替える] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

カスタムエラードキュメントオプションがサイトに対してオンになっている場合、「503 Service Temporarily Unavailable」ドキュメントを編集して、独自のテキストを追加できます。エラーページのカスタマイズ方法について詳しくは、「カスタムエラーページをセットアップする（125ページ）」のセクションを参照してください。

➤ メンテナンスモードをオフにしてサイトをオンラインに戻すには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. ウェブサイトのリストで、オンラインに戻すウェブサイトを探します。このサイトのステータスインジケータは「メンテナンスのためにオフになっています」です。

3. [変更] リンクをクリックします。
4. [ウェブサイトのメンテナンスモードに切り替える] チェックボックスをクリアします。
5. [OK] をクリックします。

ウェブサイトコンテンツを管理する

ウェブサイトを作成し、必要なコンテンツ（テキスト、画像、動画など）を追加するには、Panel に用意されたいずれかの方法に従ってください。

- ウェブサイト作成および管理ツールを使用する：ウェブサイトはまだお持ちでなければ、ウェブサイトの作成、編集、公開用のツールを利用して自力でセットアップすることをご検討ください。このツールは、ウェブプログラミングやデザインのスキルを持たないユーザでも利用することができます。次のようなツールをお勧めします。
 - *Web Presence Builder* - コントロールパネルと統合されたウェブサイトエディタです。
 - *サードパーティ製コンテンツ管理システム (CMS)* - ウェブサイトの作成および編集用のウェブアプリケーションです。
- 既存のウェブサイトをホスティングアカウントにアップロードする：
 - *FTP クライアントプログラム*：無料の FTP クライアントをインターネットで入手するか、Windows ユーザの場合は Windows Explorer を使用します。これにより、ホスティングサーバ上のディレクトリにアクセスし、ファイルを管理することが可能になります。他のユーザ（プログラマーやデザイナー）と協力してウェブサイトを管理している場合、これらのユーザにディレクトリへの FTP アクセス権を付与して、各ユーザにウェブサイトを編集させることができます。
 - *Panel* のウェブインターフェースを利用してウェブサイトファイルやディレクトリをアップロードまたは管理するためのツールです。

注： Microsoft FrontPage エディタで作成したウェブサイトがある場合、このサイトを Panel で管理する方法については、「Microsoft Frontpage ウェブサイトを使用する (Windows) (136ページ)」のセクションを参照してください。

ここでは、コンテンツの詳しい管理方法を説明します。

Web Presence Builder

Web Presence Builder は、HTML マークアップやグラフィックデザインのスキルがないユーザでもプロが作成したようなサイトを作成できる便利なツールです。適切なページデザインとコンテンツテンプレートを選択し、ページにテキストを追加して、サイトを公開するだけです。

ホスティングサービスのオプションに Web Presence Builder が含まれていれば、これを利用してウェブサイトを作成し、公開することができます。含まれていない場合や、最大許容サイト数を既に作成および公開済みの場合も、Web Presence Builder で新しいウェブサイトを作成して編集することは可能です。ただし、このウェブサイトを公開するためには、ホスティングプランをアップグレードする必要があります。

Web Presence Builder でウェブサイトの作成を開始するか、既存の Web Presence Builder サイトを編集するには、[ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブを開き、[Web Presence Builder を起動する] をクリックしてください。ドメイン名またはサブドメインが複数存在する場合、該当する [Web Presence Builder で編集する] リンクをクリックしてください。Web Presence Builder によるウェブサイト作成および編集について詳しくは、「Web Presence Builder でウェブサイトを構築する (159ページ)」のセクションを参照してください。

サードパーティ製コンテンツ管理システム

ウェブサイトを作成および保守するには、サードパーティ製コンテンツ管理システム (CMS) を利用することができます。CMS とは、ウェブサイトの構造とコンテンツを GUI で簡単に編集できるウェブアプリケーションです。Drupal や Joomla などのシステムがあります。

CMS は通常、サーバアプリケーションであるため、利用するためにはホスティングアカウントにインストールする必要があります。したがって、CMS の利用を予定している場合は、ホスティング契約でこのようなアプリケーションのインストールが許可されることを確認してください。

➤ CMS を利用してウェブサイトを作成するには :

1. [アプリケーション] タブに進みます。
2. 利用可能なアプリケーションのリストで、必要な CMS を探し、「ウェブサイトアプリケーションを導入する (106ページ)」のセクションに従ってインストールします。
3. CMS でウェブサイトを作成および編集します。CMS によるウェブサイトの作成方法について詳しくは、該当 CMS のマニュアルを参照してください。

FTP 経由でアップロードする

すべてのウェブサイトファイルとディレクトリが既にある場合は、ホスティングアカウントに FTP 経由でアップロードすることを検討してください。ファイルを単にアップロードするだけで、サーバ上での編集や管理は不要であれば、これが最も簡単な方法となります。


➤ FTP 経由でファイルをアップロードするには :


1. FTP クライアントプログラムで自社の FTP アクセスクレデンシャルを使用して、サイトのドメイン名に接続します。これらのクレデンシャルの構成方法について詳しくは、「FTP アカウントを追加する (206ページ)」のセクションを参照してください。

2. サーバ上のディレクトリに、ウェブサイトファイルとディレクトリをコピーします。

Panel 外で作成したウェブサイトを公開するためのもう 1 つの方法が、ウェブインターフェースでファイル管理機能を提供するツール「ファイルマネージャ」です。ファイルマネージャは、コントロールパネルの [ウェブサイトとドメイン] タブから利用できます。

自分のコンピュータから Panel サーバにウェブサイトをアップロードするためにファイルマネージャを使用するには、[ウェブサイトとドメイン] > [ファイルマネージャ] ページに進み、[ディレクトリ作成] をクリックし、ウェブサイトが含まれるディレクトリを Panel にアップロードしてください。ウェブサイトが ZIP ファイルに圧縮されている場合、[新しいファイルを追加する] をクリックしてこのファイルをアップロードしてから、[ファイルを展開] をクリックして展開することができます。

ウェブサイトのページを編集したい場合は、ファイルマネージャで実行できます。このツールには HTML ページをビジュアル編集できる HTML エディタが用意されており、HTML タグを直接入力する必要はありません。HTML エディタでファイルを編集するには、ファイル名の横の [ツール] 列にある  ボタンをクリックしてください。

また、必要に応じてファイルマネージャのテキストエディタでファイルを編集することもできます。テキストエディタでファイルを開くには、ファイル名の横の [ツール] 列にある  ボタンをクリックしてください。

ファイルやウェブページにインターネット上でアクセスできないようにするには、これらのファイルのアクセスパーミッションを変更します。ファイルまたはディレクトリのアクセスパーミッションを編集するには、[パーミッション] 列で該当するリンクをクリックします。パーミッションのレビューおよび編集方法については、「**ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する** (99ページ)」のセクションを参照してください。

ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する


➤ **Linux システムでファイルおよびディレクトリのパーミッションセットを確認または変更するには：**





1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [ファイルマネージャ] をクリックします。

ファイルとディレクトリに設定されているパーミッションが [パーミッション] 列に表示されます。パーミッションは「`rwX rwx r--`」のような文字の組み合わせ 3 セットで表現されます。1 番目のセットはファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示し、2 番目のセットはファイルまたはディレクトリが属するユーザグループと、そのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示し、3 番目のセットは、他のユーザ（そのサイトを訪問したインターネットユーザなど）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示します。「R」はファイルまたはディレクトリの読み取り、「W」はファイルまたはディレクトリへの書き込み、「X」はファイルの実行またはディレクトリ内の閲覧を許可するパーミッションです。

4. パーミッションを変更したいファイルまたはディレクトリを探し、[パーミッション] 列でハイパーリンクをクリックします。
5. 必要に応じてパーミッションを変更して [OK] をクリックします。

➤ **Windows システムでファイルまたはディレクトリのアクセスパーミッションを設定するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [ファイルマネージャ] に進みます。
3. アクセスパーミッションを設定したいファイルまたはディレクトリを特定し、該当するアイコン  をクリックします。
4. 以下を実行してください。

- 親フォルダからファイルまたはフォルダにパーミッションを継承するには、**【親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。】** チェックボックスをオンにします。
 - このフォルダに含まれるファイルとフォルダに、定義したフォルダパーミッションを継承させるには、**【すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、ここに表示されるエントリに置き換える】** チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションを変更または削除するには、パーミッションの名前を**【グループまたはユーザ名】** リストでクリックします。該当するグループまたはユーザが**【グループまたはユーザ名】** リストに存在しない場合は、リストの上にあるメニューで必要なユーザまたはグループ名を選択し、 をクリックします。リストに、ユーザ/グループ表示されます。それを選択します。
選択したユーザ/グループのパーミッションを許可または却下するには、**【次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>】** にリストされたパーミッションに対して**【許可】** または**【却下】** チェックボックスをオンにします。
【許可】 または**【却下】** 列でチェックボックスがグレー表示されている場合、このパーミッションは親フォルダから継承されたものです。
 - 親フォルダから継承されたパーミッションを却下するには、**【却下】** 列のチェックボックスをオンにします。これにより、このファイルまたはフォルダに継承されたパーミッションは上書きされます。
 - 親フォルダから「拒否」として継承されたパーミッションを「許可」に設定するには、**【親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。】** チェックボックスをクリアします。これにより、継承されたパーミッションが削除されます。次に、必要に応じて**【許可】** および**【却下】** 列でチェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザからアクセスパーミッションを削除するには、**【グループまたはユーザ名】** リストで必要な名前を選択し、横にある  アイコンをクリックします。
5. パーミッションを詳細に設定する必要がある場合は、**【拡張】** ボタンをクリックして以下の作業を行ってください。
- グループまたはユーザのパーミッションエントリを作成するには、該当する名前を**【グループまたはユーザ名】** リストで選択して  をクリックします。
 - グループまたはユーザにファイル/フォルダパーミッションを設定または変更するには、**【グループまたはユーザ名】** リストで名前を選択し、**【次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>】** にリストされたパーミッションに対して**【許可】** または**【却下】** チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションエントリを削除するには、**【グループまたはユーザ名】** リストで名前を選択して  をクリックします。

- **【次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>】**で定義したパーミッションがフォルダの子オブジェクトに継承されるようにするには、**【すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、子オブジェクトに適用されるここに示すエントリに置き換える】** チェックボックスをオンにして、**【適用先】** リストでパーミッション継承先オブジェクトのチェックボックスをオンにします。
6. **【OK】** をクリックします。

(高度)コンテンツへのアクセスを制限する

許可されたユーザのみが閲覧できるディレクトリをサイトに作成する場合、パスワード保護により、これらのディレクトリへのアクセスを制限します。

➤ **サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。
3. [保護ディレクトリの追加] をクリックします。

4. [ディレクトリ名] ボックスで、パスワード保護するディレクトリのパスを指定します。

サイトに存在する任意のディレクトリ (/private など) にできます。保護したいディレクトリをまだ作成していない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、Panelによって自動的に作成されます。

5. Linuxベースのアカウントを使用している場合、cgi-binディレクトリに保存されているCGIスクリプトも保護できます。これには、[ディレクトリ名] ボックスを「/」のまま残し、[cgi-bin] チェックボックスをオンにします。
6. [保護エリアのタイトル] ボックスに、リソースの説明または保護エリアにユーザが訪問すると表示されるウェルカムメッセージを入力します。
7. [OK] をクリックします。指定したディレクトリは保護されます。
8. 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザの追加] をクリックします。
9. 保護されたエリアへのアクセスに使用するユーザ名とパスワードを指定します。パスワードは5~14文字にします。[OK] をクリックします。

➤ **保護ディレクトリに許可されたユーザを追加するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。
3. 必要なディレクトリ名をクリックします。
4. [新規ユーザの追加] アイコンをクリックします。
5. 保護されたエリアへのアクセスに使用するユーザ名とパスワードを指定します。パスワードは5~14文字にします。
6. [OK] をクリックします。

➤ **保護ディレクトリで許可されたユーザのパスワードを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。
3. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
4. ユーザ名をクリックします。
5. 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
6. [OK] をクリックします。

➤ **保護ディレクトリにユーザがアクセスするパーミッションを無効にするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。
3. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
4. 該当するユーザ名に対応するチェックボックスをオンにします。

5. **[削除]** をクリックします。操作を確認して **[OK]** をクリックします。
 - **パスワード保護を解除し、リソースをすべてのユーザが利用できるようにするには：**
 1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
 2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[高度なオペレーション]** グループにある **[仮想ホストテンプレート]** に進みます。
 3. 保護を解除するディレクトリ名のチェックボックスをオンにします。
 4. **[保護を解除する]** をクリックします。保護が解除され、ディレクトリの内容は制限なくすべてのユーザに公開されます。

ウェブサイトをプレビューする

ドメインの購入後、登録が完了するまではしばらく時間がかかります。このような遅延が発生するのは、ネームサーバによるゾーン情報の更新が間隔をあけて実行されるためです。したがって、ゾーンに関する情報がすべてのネームサーバに行き渡るまで、このドメイン名でサイトにアクセスすることはできません。ただし、**【ウェブサイトとドメイン】** タブのボタンを使用すれば、ドメイン名がまだ伝搬中でもサイトにアクセスできます。

他のユーザも、ドメイン名の伝搬中にこのサイトにアクセスできます。これを実現するために、Panelはプロバイダのいずれかのサイトのサブドメインとして当該ウェブサイトを登録します。例えば、自分（自社）のウェブサイトが「*my-domain.tld*」であり、プロバイダがプレビューサービスを「*provider-domain.tld*」にて構成している場合、「*my-domain.tld.192-0-2-12.provider-domain.tld*」を指定して自分のサイトにアクセスできます。ここで「192-0-2-12」は、サイトのIPアドレスのドットをダッシュに置き換えたものです。

注： **【ウェブサイトとドメイン】** ページにサイトプレビューボタンがない場合は、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。

ウェブサイトアプリケーションを使用する

別のウェブアプリケーションを使用して、ウェブサイトの機能を大幅に増強することができます。ウェブサイトにはこれらのアプリケーションをインストールすることで、様々な作業を実行できます。個人ユーザの場合、自分のブログを作成したり、メディアファイル用のオンラインストレージを構成することができます。企業の場合、e-コマース や CRM ウェブアプリケーションなどを使用して、一部の業務をオンラインに移行できます。すべてのアプリケーションを示すリストは、コントロールパネルの [アプリケーション] タブに表示されます。

利用可能なアプリケーションは、ホスティングプランによって決まります。例えば、無料アプリケーションのみが含まれる場合も、アプリケーションが全く含まれない場合もあります。利用可能なアプリケーションについて詳しくは、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。

アプリケーションの種類

ウェブアプリケーションには2つのタイプがあります。

- ウェブサイトに直接インストールするアプリケーション (WordPress ブログプラットフォーム、Joomla! コンテンツ管理システムなど)
- 外部サーバにインストールされた、サードパーティが提供するアプリケーション。

アプリケーションが無料か有料かは、インストールの種類に依存しません。商用アプリケーションは、使用するためにライセンスキーを指定する必要があります。[アプリケーション] タブには [今すぐインストール] ではなく [今すぐ購入] ボタンが表示されます。商用アプリケーションを使用することを決めた場合、「商用アプリケーションのライセンスを管理する (110ページ)」のセクションで、アプリケーションライセンスの取得と管理に関する説明をお読みください。

アプリケーションのインストールとメンテナンス

インストール作業に、特別なスキルは不要です。アプリケーション設定 (管理者のクレデンシャルなど) を指定するだけで、アプリケーションのインストールは Panel が行います。アプリケーションの更新や削除を Panel で直接実行できるため、インストール後のアプリケーション管理も簡単です。さらに、アプリケーションにログインすることなく、アプリケーションの一部の機能をコントロールパネルで実行することができます。例えば、SugarCRM のユーザアカウントをコントロールパネルで直接追加することができます。アプリケーションのこのような機能は、アプリケーションが提供する「サービス」です。

アプリケーションのインストール後に、他の補助ユーザアカウントにもアクセス権を付与すれば、これらのユーザもアプリケーションを使用できるようになります。アプリケーションの管理を始めるには、「**アプリケーションを管理する**」のセクションを参照してください。

アプリケーションへのアクセス

特定の補助ユーザがアプリケーションを利用できるようにするには、当該ユーザのパーミッションを変更してください。あるアプリケーションへのアクセスをユーザに対して許可すると、このユーザの【ホーム】ページに当該アプリケーションへのリンクが表示されます。アプリケーションへのアクセスは、ユーザグループ単位でコントロールしませず。したがって、既存のグループのパーミッションを変更するか、新しいグループを作成してユーザを割り当てます。アプリケーションへのアクセスについて詳しくは、「**補助ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する**（108ページ）」のセクションを参照してください。

デフォルトで、Panelのアプリケーション管理者とは、「**所有者**」の役割を持つユーザです。このユーザは、【ホーム】ページでアプリケーションにアクセスできるほか、契約にアプリケーションをインストールし、管理することができます。これらの管理ツールは、【アプリケーション】タブにあります（アプリケーション管理者のみに表示されます）。これらのツールへのアクセス権を、他の契約ユーザに付与することができます。このオペレーションについて詳しくは、「**補助ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する**（108ページ）」のセクションを参照してください。

アプリケーションおよび補助ユーザアカウント

一部のアプリケーションでは、ユーザアカウントの作成と管理を Panel で直接実行できます。例えば SugarCRM アプリケーションの場合、アプリケーションにログインせずに SugarCRM ユーザを追加できます。このような「アカウントサービス」が提供されているすべてのアプリケーションでは、アプリケーションのユーザを Panel 契約のユーザ（代替ユーザ）と関連付けることが可能です。関連付けを行うには、補助ユーザにアカウントサービスへのアクセス権を付与する必要があります（アプリケーションにアクセス権を付与する作業と同じです）。アカウントの関連付けについて詳しくは、「**アプリケーションと補助**（109ページ）**ユーザアカウントを関連付ける**」のセクションを参照してください。

アプリケーションのインストール、構成、更新、削除をコントロールパネルで直接実行できます。

アプリケーションを構成する

基本的には、コントロールパネルですべてのアプリケーションのメインパラメータを構成できます。【アプリケーション】>【インストール済みアプリケーションの管理】のリストでアプリケーションを選択すると、このアプリケーションの設定にアクセスできます。アプリケーションを選択してから、以下を構成できます。

- **一般設定**
【設定を変更】で変更可能な、アプリケーションの基本設定（管理者パスワードなど）。
- **サービス設定**
アプリケーションが機能の一部をサービスとして Panel に提供している場合、これらのサービスを構成するオプションがあります。例えば SugarCRM アプリケーションの場合、ユーザアカウントの作成機能をサービスとしてコントロールパネルで提供しています。【提供されているサービス】でこのサービスを選択すると、すべてのアプリケーションユーザアカウントの表示や、新規ユーザアカウントの作成を実行できます。
一部のアプリケーションでは、アプリケーションアカウントと補助ユーザアカウントを関連付けることができます。アカウントの関連付けについて詳しくは、「アプリケーションと補助（109ページ）ユーザアカウントを関連付ける」のセクションを参照してください。

補助ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する

デフォルトで、インストールが完了したアプリケーションにアクセスできるのは、所有者の役割を持つユーザのみです。他の契約ユーザがアプリケーションにアクセスできるようにするには：

- 【ユーザ】 > 【ユーザ役割】 で、該当アプリケーションへのアクセスパーミッションを特定のユーザグループに付与します。
- 必要なユーザを選んでグループに追加してください。

ユーザに対してアプリケーションへのアクセスを許可すると、このユーザの【ホーム】ページにアプリケーションへのリンクが表示されます。

デフォルトで、アプリケーションの管理者とは、「所有者」の役割を持つ契約ユーザです。このユーザは、【ホーム】ページでアプリケーションにアクセスできるほか、契約にアプリケーションをインストールし、管理することができます。これらの目的のために、ユーザのインターフェースに【アプリケーション】タブが追加されます。他の契約ユーザにも同じ管理権限を付与するには、【ユーザ】 > 【ユーザ役割】 で該当ユーザに「アプリケーションのインストールと管理」パーミッションを付与します。これによって、契約内のすべてのアプリケーションに対するフル管理アクセスがユーザに提供されます。管理者と同じく、このパーミッションを持つユーザも、コントロールパネルの【アプリケーション】タブでアプリケーションをインストール、構成、更新、削除することができます。

アプリケーションと補助ユーザアカウントを関連付ける

一部のアプリケーションでは、アプリケーションにログインせずにユーザアカウントを作成および管理できます。アプリケーションにこのような「アカウントサービス」機能があれば、Panel 契約のユーザをアプリケーションのアカウントと関連付けることができます。関連付けを行うには：

1. ユーザを1つのグループにまとめます（[ユーザ] > [ユーザ役割]）。
2. 次のグループパーミッションのいずれかを付与します。
 - **パブリックアクセス**
これを付与すると、グループ内の全ユーザが[ホーム]ページのリンクからアプリケーションにアクセスできるようになります。
 - **パーソナルアクセス**
これを付与すると、アプリケーションはグループ内の全ユーザに対してアカウントを自動作成します。その後、ユーザの[ホーム]ページにリンクが追加され、アプリケーションのパーソナルアカウントにログインできるようになります。パーソナルアクセスパーミッションを却下すると、アプリケーションはこのグループに関連付けられた全アカウントを自動的に削除します。

インストール済みアプリケーションを更新する

基本的に、アプリケーションの更新はサービスプロバイダが行います。アップデートが公開されると、プロバイダが顧客のためにアップデートを適用しますが、ユーザ自身が行うこともできます。後者の場合、新しいバージョンの変更点をユーザ自身が確認し、それに従って、アプリケーションを更新するか現行バージョンのまま維持するかを決定します。更新用のリンクは、[アプリケーション] > [インストール済みアプリケーションを管理] に表示されます。

商用アプリケーションのライセンスを管理する

コントロールパネルでアプリケーションのライセンスを購入することを決定した場合、[アプリケーション] タブで該当するボタンをクリックすると Storefront が表示されます。このオンラインストアで、注文を完了します。Storefront は単なる「店」ではなく、顧客のライセンスで様々なオペレーションを実行できる独自のウェブインターフェースも含まれています。例えば、このウェブインターフェースで、ライセンス更新、ライセンスのキャンセル、支払方法の変更などを実行できます。この章では、以下のオペレーションの実行方法を説明します。

Storefront の基本

Storefront で初めてライセンスを注文すると、アカウントが作成されます。このアカウントには、顧客の個人情報と支払関連情報が含まれます。顧客はこのアカウントで Storefront にログインし、付与されたライセンスで様々なオペレーションを実行できます。

Storefront でチェックアウトが完了するごとに、注文書が生成されます。これは、注文したカートアイテムを一覧表示するドキュメントです。Storefront の注文には様々なステータスが割り当てられます。これらのステータスは、未払い、キャンセル、正常に提供など、購入の現在の状況を示します。

Storefront と Panel は、サービスプランビジネスモデルを共有します。Storefront では、各アプリケーションは個別のサービスプランとして提示され、顧客がアプリケーションのライセンスを注文すると、いずれかのサービスプランを契約することになります。つまり、顧客が購入する各ライセンスは、ウェブインターフェースで契約として表示されます。例えば、ライセンス価格、条件、または失効日を確認したい場合、該当する契約を開く必要があります。

ライセンスファイルまたはキーを取得するには

ライセンスを注文して支払いが完了すると、Storefront からライセンスファイルまたはキーが添付されたメールが送信されます。この情報の再送をリクエストしたり、ウェブインターフェースで確認する方法はないため、安全な場所に保存することをお勧めします。ライセンスファイルまたはキーが添付されたメールが届かない場合は、

<https://support.parallels.com/> でお問い合わせください。

利用可能なオペレーション

Storefront で実行できるオペレーションには、次の 3 つのグループがあります。

- **ユーザアカウントに関するオペレーション:** 個人情報およびプリファレンスの表示および変更、ユーザアカウントのパスワード変更などのオペレーションが含まれます。
- **支払いや支払方法に関するオペレーション:** クレジットカード、支払い、および注文に関するオペレーションが含まれます。
- **契約に関するオペレーション:** 新しいライセンスの取得、既存のライセンスに関する情報の取得、特定の契約の契約更新方法の確認などのオペレーションが含まれます。

これらのオペレーションについては、本セクションのサブセクションで説明します。

ユーザアカウント

ユーザアカウントに関して、以下のオペレーションを実行できます。

アカウント情報の表示および変更

システムは、アカウント情報を使用して個人情報や支払関連情報を請求書に追加します。詳細を更新する必要がある場合は、[ナビゲーション]メニューで[連絡先情報]サブメニューを開き、[アカウント情報]を選択します。

個人情報を表示および変更する

個人情報の多くは、アカウント情報と重複します。財務ドキュメントには表示されませんが、一部のサービスはこの情報を技術連絡先情報として使用します。例えば、Storefront でドメイン名を注文すると、Storefront からドメインネームレジストラへ、個人情報が（技術連絡先として）送信されます。

個人情報を確認するには、左側のパネルで[連絡先情報] > [個人情報]メニューを開きます。ここで、個人情報を編集することや、Storefront アカウントのパスワードを変更することもできます。

メール通知を構成する

メール通知は、各種イベントの発生時にアカウントの連絡先メールアドレス宛てに送信されます。イベントは多数のカテゴリに分類されます。例えば、契約の更新や失効、クレジットカードの失効などです。各メッセージグループに対してメッセージのフォーマットを選択したり、特定のメッセージを送信するか否かを決定することができます。受信するメッセージタイプを構成するには、[連絡先情報] > [通知方法]を開きます。

支払いおよび支払方法

このセクションでは、Storefront で実行可能な支払いおよびクレジットカードに関するオペレーションについて説明します。

クレジットカードを登録する

オンライン支払いでクレジットカードを使用するためには、Storefront に登録する必要があります。クレジットカードを登録するには、[\[Billing Manager\]](#) > [\[財務情報\]](#) > [\[支払方法\]](#) を開き、該当するボタンをクリックします。

自動支払を構成する

登録されたいずれかのクレジットカードを、注文の自動支払のために割り当てることができます。こうすることによって、注文の支払を毎回手動で行う必要がなくなります。自動支払で使用する支払方法を割り当てると、それまでのデフォルトは自動的に選択解除されます。つまり、自動支払で使用できる支払方法は1つだけです。

カードによる自動支払をオンにするには、[\[Billing Manager\]](#) > [\[財務情報\]](#) > [\[支払方法\]](#) で ID または [タイプ](#) をクリックし、最後に、カードのプロパティ画面で自動支払を有効化します。

支払を行う

新しい支払を追加するには、[\[Billing Manager\]](#) > [\[新しい支払\]](#) リンクをダッシュボードで開きます。新しい支払の追加ウィザードが起動します。保留中のドキュメントのリストが画面に表示されます。保留中のドキュメントがない場合、[\[キャンセル\]](#) をクリックしてウィザードを終了します。あるいは、支払設定を指定してウィザードを続行します。

オープンな注文を表示する

オープンな注文は、[\[Billing Manager\]](#) > [\[財務情報\]](#) > [\[オープンな注文\]](#) サブメニューで確認できます。

契約

Storefront には、パワフルで総合的な契約（ライセンス）管理方法があり、以下のオペレーションを実行できます。

新しい契約を購入する

Storefront で提供されている追加アプリケーションライセンスや追加サービスを購入する場合、コントロールパネルで行う必要はありません。Storefront ウェブインターフェースには、購入用のすべての機能が用意されています。契約注文ウィザードを起動するには、[Billing Manager] > [契約管理] を開き、[新しい契約の購入] をクリックします。

契約を手動で更新する

自動更新機能を構成していない場合、手動で更新しない限り契約は失効します。自動更新のセットアップ手順は、このセクションで後ほど説明します。契約を手動で更新するには、[Billing Manager] > [契約管理] > [契約の更新] を開き、ウィザードのステップに従います。

契約を自動更新する

契約の自動更新を構成すると、契約がタイムリーに更新されるようになります。自動更新を許可するには、[Billing Manager] > [契約管理] > [契約更新] を開き、オプションをオンにする契約をクリックして、[自動更新をオンにする] をクリックします。自動更新をキャンセルするには、オプションをクリアします。

契約をキャンセルする

契約をキャンセルすると、契約サービスが失効し、料金が払い戻されます。契約をキャンセルするには、[Billing Manager] > [契約管理] > [契約の更新] を開き、キャンセルする契約をクリックしてキャンセルウィザードを起動し、[契約をキャンセル] をクリックします。

（高度）ウェブサイトのセキュリティを強化する

接続を SSL 証明書で保護する

個人情報（訪問者のクレジットカード番号など）を転送するウェブサイトでは、SSL セキュアチャネルを使用することをお勧めします。このようなチャネルをセットアップするには、ウェブサイト用の SSL 証明書を購入する必要があります。

SSL 証明書は、インターネット上にセキュアな通信チャネルを確立するためだけではなく、ウェブサイトの身元を確認するためにも使用されます。セキュアなオンラインストアにユーザが訪問すると、クレジットカード番号などの重要情報がセキュアチャネル経由で受送信されるという通知が表示されます。

SSL 証明書は、*SSL 証明書プロバイダ*という特別な団体が発行します。ただし、ホスティングプロバイダによっては、顧客が Panel で SSL 証明書を直接購入することができます。

SSL 証明書を購入する

ホスティングプロバイダに応じて、次の方法で SSL 証明書を購入することができます。

- *Panel で SSL 証明書を注文する*：この方法は、対応する Panel 設定をプロバイダが構成している場合に利用できます。Panel にある SSL 証明書購入リンクによって、オンラインストアでプロバイダから証明書を購入したり、MyPlesk アウトレットで Parallels から証明書を購入することができます。Panel で SSL 証明書を注文する方法は、「Panel で SSL 証明書を購入する (115 ページ)」のセクションを参照してください。
- *SSL 証明書プロバイダから SSL 証明書を注文する*：この場合、Panel でウェブサイト用の *証明書署名リクエスト (CSR)* を作成し、SSL 証明書プロバイダに送信します。リクエストの作成方法と、リクエストを利用して証明書を購入する方法は、「*証明書署名リクエスト (CSR) を生成する (117 ページ)*」のセクションを参照してください。

ウェブサイトをセキュリティ保護する

ウェブサイトの証明書を取得した後で、この証明書によってウェブサイトへの接続をセキュリティ保護する必要があります。この手順は、「*ウェブサイトをセキュリティ保護する (118 ページ)*」のセクションで説明します。

ウェブサイトを共用 SSL 証明書で保護する

Windows システムでは、独自の SSL 証明書を購入することなくウェブサイトをセキュリティ保護することができます。この機能は、ホスティングプロバイダが *共用 SSL 証明書*を提供している場合に利用できます。ウェブサイトを共用 SSL 証明書でセキュリティ保護する方法は、「*共用 SSL 証明書を使用する (Windows) (119 ページ)*」のセクションで説明します。

Panel で SSL 証明書を購入する

Panel にある SSL 証明書購入リンクによって、プロバイダから証明書を購入したり (※プロバイダが独自の証明書を提供している場合)、MyPlesk アウトレットで Parallels から証明書を購入することができます。プロバイダの選択によっては、これらのリンクが顧客に提供されていません。

➤ *Panel で SSL 証明書を購入するには*：

1. 該当する契約をコントロールパネルで開きます。
2. [ウェブサイトとドメイン] > [サイトをセキュリティ保護する] ページに進みます。
3. [SSL証明書を追加] をクリックします。
4. 以下の証明書パラメータを指定します。
 - *証明書の名前*: リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - *暗号化レベル*: SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 より大きい値を入力することをお勧めします。
 - *所在地と組織名*: 64 文字まで入力可能です。
 - *SSL 証明書を購入するドメインの名前*: 完全修飾ドメイン名で入力してください。例えば、「*your-domain.com*」のように入力します。
 - *ウェブサイト管理者のメールアドレス*:
5. この情報を基に秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
6. [SSL証明書を購入] をクリックします。
7. オンラインストアでのSSL証明書の購入手続きがすべて完了すると、SSL証明書がメールで送られます。

証明書署名リクエスト（CSR）を生成する

ホスティングプロバイダが、PanelでのSSL証明書の購入を許可しない場合、顧客は証明書署名リクエストを作成し、SSL証明書プロバイダに送信することができます。プロバイダはこのリクエストに基づいてウェブサイト用のSSL証明書を生成します。

➤ 証明書署名リクエストを生成するには：

1. 該当する契約をコントロールパネルで開きます。
2. [ウェブサイトとドメイン] > [サイトをセキュリティ保護する] ページに進みます。
3. [SSL証明書を追加] をクリックします。
4. 以下の証明書パラメータを指定します。
 - *証明書の名前*： リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - *暗号化レベル*： SSL証明書の暗号化レベルを選択します。1024より大きい値を入力することをお勧めします。
 - *所在地と組織名*： 64文字まで入力可能です。
 - *SSL証明書を購入するドメインの名前*： 完全修飾ドメイン名で入力してください。例えば、「your-domain.com」のように入力します。
 - *ウェブサイト管理者のメールアドレス*：
5. この情報を基に秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
6. [リクエスト] をクリックします。Panelが秘密鍵と証明書署名リクエストを生成し、顧客の証明書リポジトリに追加します（[ウェブサイトとドメイン] > [サイトをセキュリティ保護する]）。
7. 証明書のリストで、必要な証明書の名前をクリックします。
8. ページ内でCSRセクションを検索し、「-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----」から「-----END CERTIFICATE REQUEST-----」までのテキストをクリップボードにコピーします。
9. SSL証明書を購入する証明書認証機関のウェブサイトを開き、サイトのリンクを辿って証明書の注文処理を開始します。CSRテキストを入力するよう指示されたら、クリップボードからオンラインフォームヘデータを貼り付けて、[続行] をクリックします。入力した情報に基づいて、認証局がSSL証明書を生成します。

ウェブサイトをセキュリティ保護する

ウェブサイト用の SSL 証明書を受信したら、この証明書でウェブサイトをセキュリティ保護します。

➤ **SSL 証明書でウェブサイトをセキュリティ保護するには：**

1. コントロールパネルにログインし、画面上部の [契約] メニューで、セキュリティ保護するウェブサイトが含まれる契約を選択します。
2. 選択した契約のSSL証明書リポジトリに進みます（[ウェブサイトとドメイン] タブ> [サイトをセキュリティ保護する]）。
3. SSL証明書をアップロードします。画面中央にある [ブラウズ] をクリックし、保存された証明書の保存場所を開きます。証明書を選択し、[ファイル送信] をクリックします。

これにより、該当する秘密鍵に対する証明書がアップロードされ、インストールされます。

4. サイトに証明書をインストールするには、[ウェブサイトとドメイン] タブに戻り、セキュリティ保護するウェブサイトのドメイン名をクリックします。
5. SSL保護をスイッチオンするには、[SSLサポートを有効にする] チェックボックスをオンにします。
6. [SSL証明書] メニューでSSL証明書を選択し、[OK] をクリックします。

共用 SSL 証明書を使用する (Windows)

ホスティングサービスプロバイダが、サイトへのアクセスをセキュリティ保護するために共用 SSL を提供している場合、独自の SSL 証明書を購入せずに SSL 暗号化をオンにできます。

➤ **プロバイダが共有設定している SSL 証明書を使用して、サイトへの接続をセキュリティ保護するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [共有SSL] に進みます。
3. セキュリティ保護するサイトのドメイン名を選択します。
4. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスをオンにします。
5. 該当する入力フィールドに仮想ディレクトリ名を指定します。指定した名前の仮想ディレクトリが、SSL証明書が共有されているドメイン（「マスター SSL ドメイン」）の下に作成されます。このディレクトリは、SSL経由でサイトにアクセスするために使用されます。

例えば、「mydomain.com」という名前のドメインを所有しており、マスター SSL ドメインが「master_ssl_domain.com」と定義されているときに、仮想ディレクトリの名前として「my_virtual_dir」と指定するとします。この場合、SSL 経由でサイトにアクセスするには以下のアドレスを使用します。

`https://master_ssl_domain.com/my_virtual_dir`

注： 共有 SSL を使用している場合、自社ドメイン名（例：mydomain.com）を使用して SSL 経由でサイトにアクセスすることはできません。

6. 保護されたウェブサイトコンテンツが保存されているディレクトリを指定します。指定したディレクトリ内のドキュメントはSSL経由でしかアクセスできません。
7. ドメインへのSSL経由のアクセスのみを許可する場合は、[セキュア接続によってのみ、このウェブサイトへのアクセスを許可]チェックボックスをオンにします。
8. [OK] をクリックします。

ホットリンクからサイトを保護する (Windows)

ホットリンク（別名：ファイルリーチング、リモートリンク、ダイレクトリンク、帯域幅盗用、帯域幅流用など）とは、 タグなどを使用して、あるドメイン所有者のウェブページから別のドメイン所有者のウェブページ上の画像（もしくはその他のマルチメディアファイル）に直接リンクすることです。ドメインがホットリンクされると、帯域幅使用率が過剰になるという問題が起こります。

➤ ウェブサイトをホットリンクから保護するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ホットリンク保護] に進みます。
3. [スイッチオン] をクリックしてホットリンクからの保護を有効にします。
4. [保護されるファイル拡張子] フィールドに、ホットリンクから保護するファイルの拡張子 (jpg、bmpなど) を指定します。複数のファイル拡張子を指定する場合はスペースで区切ります。
5. 特定のサイトから自分のファイルへの直接リンクを許可する場合は、該当するウェブサイトのアドレスを [許容するウェブサイトのアドレス] フィールドに入力し、[追加] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

(高度) 拡張ウェブサイト管理

Panel は、上級ユーザのために、様々なウェブサイトとドメイン用オペレーションを提供しています。サードパーティ製アプリケーションおよびサービスの利用、システムサービスの詳細設定などが可能です。このセクションでは、これらすべてのオペレーションについて詳しく説明します。

ステージングサイトを使用する

本稼働ウェブサイトに対し、大規模な変更を計画している場合、ステージングサイトのセットアップを検討することをお勧めします。ステージングサイトとはサーバ上の独立したロケーションであり、変更を本稼働サイトに適用する前に、ここでサイトコピーに対して更新を加えてテストすることができます。

ステージングサイトによる作業は、次のように進めることを推奨します。

1. 開発コピーをホスティングして開発環境を準備する場所を決めます。同じウェブスペース内でホスティングすることも、同じサーバ上の別のウェブスペースでホスティングすることも、他のサーバの FTP アカウントにアップロードすることもできます。
同じウェブスペースを選択した場合、ドメインまたはサブドメインを追加して新しいウェブサイトを設定する必要があります。
2. (オプションのステップ) Panel の自分のアカウントを使用して開発環境をセットアップしており、Panel を使用して ([アプリケーション] タブで) 本稼働サイトに APS アプリケーションをインストールしている場合は、開発環境内のサイトアプリケーションは、本稼働サイトと同じサブディレクトリにインストールしてください。このステップはオプションですが、アプリケーションスクリプトのデータベース接続設定を手作業で変更してしまうことを防止できます。
3. ウェブサイトのコピーを作成し、ステージング環境に配置します。
4. サイトで使用するデータベースのコピーを作成し、ステージング環境にデプロイします。
5. スクリプト内のデータベース接続設定を変更し、ステージング環境内のデータベースを指すようにします。
6. (オプションのステップ) APS アプリケーションのセットアップを完了します。開発サイト用の [アプリケーション] タブに進み、インストールされているアプリケーションのリストでアプリケーションを探し、 [設定] 画面を開き、パラメータを保存し直します。この操作を行うと、APS スクリプトの接続先が本稼働データベースではなくなり、アプリケーションの接続先がコピーのデータベースに変更されます。このステップは、本稼働サイトに Panel 経由で APS アプリケーションがインストールされており、この手順のステップ 2 を実行済みである場合に必要になります。
7. ステージング環境でサイトコピーに必要な変更を加えてテストして、意図したとおりに機能することを確認してください。

8. 更新したサイトを公開します。これには、本稼働サイトのドキュメントルートをステージングサイトのロケーションにします。

➤ **ステージング用にサイトをセットアップするには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. [新しいドメインを追加する] または [新しいサブドメインを追加する] をクリックします。
ステージングにはサブドメインを使用することをお勧めします。
3. 「ドメインを追加する (65ページ)」または「サブドメインを追加する (67ページ)」の手順に従います。

インターネットユーザがステージングサイトにアクセスできないようにするには、新しく追加したドメインまたはサブドメインの名前をドメイン名レジストラに登録しないでください。あるいは、.htaccess ファイル (Linux ホスティングの場合) を使用してアクセスを制限してください。

➤ **ウェブサイトファイルのコピーを作成するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. [ウェブサイトのプレビュー] ([高度なオペレーション] グループ内) をクリックします。
3. 複数のウェブサイトがある場合、必要なサイトをクリックし、[管理] をクリックしてください。
4. 既存のサイトのドキュメントルートにウェブサイトファイルをコピーするには：
 - a. [Panel内のウェブサイト] オプションを選択します。
 - b. [サイト名] メニューでコピー先サイトを選択します。
 - c. コピー先ディレクトリに既に存在する可能性があるファイルに対して行う作業を指定します。
5. このサーバまたは他のサーバ上のFTPアカウントにウェブサイトファイルをコピーするには：
 - a. [FTPストレージ] オプションを選択します。
 - b. サーバのホスト名と、FTPアカウントへの接続用のクレデンシャルを指定します。
 - c. [FTP接続方法] フィールドは [アクティブモード] オプションを選択したままにします。Panelが外部FTPアカウントの接続できない場合、ここで [パッシブモード] オプションを選択してください。

6. [OK] をクリックします。

サイトで、データベースを操作するスクリプトを使用している場合、このデータベースをステージング環境にコピーします。

- このデータベースを、Panel 10 で管理している同一サーバ上でホスティングしている場合は、下の手順でコピーしてください。
- Panel 10 で管理していないサーバ上でホスティングしている場合は、mysqldump ユーティリティを使用してデータベースをエクスポートし、生成されるデータダンプファイルをステージング環境に移動して、ここでデプロイしてください。ステージング環境でサイトのスクリプトを変更して、コピーされたデータベースに接続するようにします。

➤ Panel で管理するサーバからデータベースをコピーするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、**データベース名** をクリックします。
2. [コピーを作成する] をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - **コピー先データベースサーバ**：同じ Panel で管理するデータベースサーバを選択することも、別の場所にあるデータベースサーバを選択することもできます。外部データベースサーバの場合、ホスト名または IP アドレス、およびアクセス用のクレデンシャルを指定します（データベースおよびデータベーステーブルの新規作成が許可されているデータベース管理システムユーザのユーザ名とパスワード）。
 - **コピー先データベース**：新しいデータベースを作成することも、既存データベースにデータをコピーすることもできます。
 - **フルコピーを作成する**：データベース構造とすべてのデータをコピーするには、このオプションをオンにしておきます。
4. [OK] をクリックします。

データベースのコピーがコピー先サーバにデプロイされます。
5. ステージング環境でサイトのスクリプトを変更して、コピーされたデータベースに接続するようにします。

ステージング環境のサイトコピーが更新され、本稼働の準備が整い次第、次の手順に従ってこれを公開します。

➤ 更新されたサイトを本稼働環境に公開するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. ドメイン名のリストで、本稼働サイトのアドレスを探し、クリックします。
3. [ドキュメントルート] ボックスで、ステージングサイトのドキュメントルートディレクトリを指定します。

4. [OK] をクリックします。


これにより、本稼働サイトアドレスの訪問者がステージングサイトロケーションにある更新されたサイトコピーにアクセスできるようになります。

モバイルサイトをセットアップする

自社のサービスプランに、モバイルデバイス用に最適化されたウェブサイトコピーを作成するオプションを含めることができます。コピーは、外部の UNITY Mobile オンラインサービスでホスティングされます。

重要 : Panel 10.4 では、顧客が [アプリケーション] タブで Unity Express を注文すると、システムで Unity One と混同される場合があります。この問題が発生した場合、Unity Express を購入するためには、Unity One で作成されたサイトを削除して、サイトを新規作成することが推奨されました。

➤ モバイルデバイスでの閲覧用に最適化されたウェブサイトのコピーを作成するか、新しいモバイルウェブサイトをセットアップするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [モバイルウェブサイト] に進みます。
2. [モバイルサイトを作成する] リンクをクリックします。
3. モバイルサイトのアドレスを指定します。
たとえば、サイトにアクセスするためのドメイン名が「example.com」である場合、「mobile」のようなプレフィックスを入力すると、最適化されたウェブサイトのコピーに「mobile.example.com」というアドレスでアクセスできるようになります。
4. [OK] をクリックします。
5. [サイトコンテンツを編集する] をクリックします。UNITY Mobile サイトが新しいブラウザウィンドウまたはタブで開き、すでにアカウントにログオンした状態になっています。
6. メインウェブサイトのドメイン名を示す [Import from the web] セクションで、 ボタンをクリックします。
7. 画面に表示される指示に従ってウェブサイトインポートウィザードを完了します。

モバイルサイトが作成されると、メインサイトにモバイルサイトへのリンクを追加できます。

コントロールパネルにあるリンクから、モバイルサイトに対して次の操作を実行可能です。

- サイトエディタを開く。
- モバイルサイトを削除する。

カスタムエラーページをセットアップする

サイトの訪問者が要求したページが見つからない場合、ウェブサーバはエラーメッセージを示す標準 HTML ページを生成して表示します。独自のエラーページを作成して、サイトや個別の仮想ディレクトリで 사용할ことができます。以下に、よくカスタマイズされるエラーメッセージを示します。

- 400 Bad File Request -通常は、URL の構文が正しくないことを意味します（例：大文字を小文字にすべきである、句点記号が違う）。
- 401 Unauthorized -サーバがクライアントからの暗号化キーを要求していますが、取得できません。あるいは、入力したパスワードが正しくない場合もあります。
- 403 Forbidden/Access denied -401 に類似のエラーです。 サイトへのアクセスに、特別なパーミッションが必要です（登録の問題の場合はパスワードまたはユーザ名）。
- 404 Not Found -サーバが、要求されたファイルを検索できません。ファイルが移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が正しくありません。これは最も一般的なエラーです。
- 500 Internal Server Error -サーバの構成上の問題により、HTML ドキュメントを取得できませんでした。
- 503 Service Temporarily Unavailable -サイトはメンテナンスのために一時的に使用できません。

Windows サーバでカスタムエラーページをセットアップする

➤ **サイト内のサイトまたはディレクトリにカスタムエラーページを表示するようにウェブサーバを構成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. カスタムエラードキュメントのサポートをオンにします。
 - a. **【ウェブサイトとドメイン】** タブにあるドメインのリストで、必要なドメイン名をクリックします。
 - b. **【カスタムエラードキュメント】** チェックボックスをオンにします。
 - c. **【OK】** をクリックします。
3. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで **【仮想ディレクトリ】** に進み、ルートウェブディレクトリ用のエラードキュメントのリストを表示します。ここに表示されるエラードキュメントは、選択したサイトのすべてのウェブページで使用されます。特定の仮想ディレクトリ用のエラーページをカスタマイズするには、該当ディレクトリに進んでください。
4. **【エラードキュメント】** タブをクリックし、必要なエラードキュメントをリストからクリックします。
 - このエラーページ用に IIS が提供するデフォルトドキュメントを使用するには、**【タイプ】** メニューから **【デフォルト】** を選択します。
 - ドメインの仮想ホストディレクトリにある `error_docs` ディレクトリに存在しているカスタム HTML ドキュメントを使用するには、**【タイプ】** メニューから **【ファイル】** を選択し、**【ロケーション】** フィールドにファイル名を指定します。
 - ドメイン上の `error_docs` 以外のディレクトリにあるカスタム HTML ドキュメントを使用する場合は、**【タイプ】** メニューから **【URL】** を選択して **【ロケーション】** フィールドにドキュメントへのパスを入力します。これは、仮想ホストルート (`<vhosts>¥<domain>¥httpdocs`) を基準にした相対パスにする必要があります。

例えば、`forbidden_403_1.html` というファイルを作成して、それを `httpdocs` にある `my_errors` ディレクトリに保存したとします。このファイルをエラードキュメントとして使用するには、次のパスを **【ロケーション】** フィールドに入力します。
`/my_errors/forbidden_403_1.html`

注： カスタムエラードキュメントをサーバにアップロードするには、FTP またはファイルマネージャ経由の接続を使用できます。デフォルトでは、すべてのエラードキュメントは `/vhosts/your-domain.com/error_docs/` ディレクトリ（デフォルトでは `C:¥InetPub` の下）に保存されます。

5. ウェブサーバを再起動すると、カスタムエラードキュメントが使用されるようになります。

Linux サーバでカスタムエラーページをセットアップする

➤ **サイトでカスタムエラーページが表示されるようにウェブサーバを構成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. カスタムエラードキュメントのサポートをオンにします。
 - a. [ウェブサイトとドメイン] タブにあるドメインのリストで、必要なドメイン名をクリックします。
 - b. [カスタムエラードキュメント] チェックボックスをオンにします。
 - c. [OK] をクリックします。
3. FTPアカウントに接続して `error_docs` ディレクトリに移動します。
4. 必要なファイルを編集するか、置き換えます。ファイル名が正しいことを確認します。
 - 400 Bad File Request - `bad_request.html`
 - 401 Unauthorized - `unauthorized.html`
 - 403 Forbidden/Access denied - `forbidden.html`
 - 404 Not Found - `not_found.html`
 - 405 Method Not Allowed - `method_not_allowed.html`
 - 406 Not Acceptable - `not_acceptable.html`
 - 407 Proxy Authentication Required - `proxy_authentication_required.html`
 - 412 Precondition Failed - `precondition_failed.html`
 - 414 Request-URI Too Long - `request-uri_too_long.html`
 - 415 Unsupported Media Type - `unsupported_media_type.html`
 - 500 Internal Server Error - `internal_server_error.html`
 - 501 Not Implemented - `not_implemented.html`
 - 502 Bad Gateway - `bad_gateway.html`
 - 503 Service Temporarily Unavailable - `maintenance.html`

ウェブサーバの再起動後、数時間で、カスタムエラードキュメントが使用されるようになります。

ドメインフォワーダを追加する

新しいドメイン名をセットアップするか、既存のドメイン名を再構成して、訪問者を他のウェブサイトのリダイレクトすることができます。

➤ **新しいドメインフォワーダを追加するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [新しいドメインの追加] をクリックします。
4. 以下を指定します。
 - a. [ドメイン名] ボックスに、サービスプロバイダまたはドメイン名登録機関に登録したドメイン名を入力します。
 - b. [DNSサーバ設定] で、[このサーバのマスター DNSゾーンを維持する] オプションを選択します。
 - c. [ホスティングタイプ] で [転送] オプションを選択します。
 - d. [転送先アドレス] ボックスに、訪問者のリダイレクト先にするインターネットアドレスを入力します。
 - e. [転送タイプ] で、希望する転送タイプを選択します。標準転送では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、ユーザのブラウザには実際のサイトURLが表示されます。従って、他のURLにリダイレクトされたことをユーザが認識できます。フレーム転送では、サイトが実際には別のロケーションにあることをユーザが認識できないようにしてユーザをリダイレクトします。従って、標準転送より望ましい選択肢となります。
5. [OK] をクリックします。

➤ **既存のドメインを再構成し、ドメインフォワーダにするには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブでドメイン名を選択します。
2. [ホスティングタイプ] フィールドの横にある [変更] リンクをクリックします。
3. 以下を指定します。
 - a. [ホスティングタイプ] で [転送] オプションを選択します。
 - b. [転送先アドレス] ボックスに、訪問者のリダイレクト先にするインターネットアドレスを入力します。

- c. **【転送タイプ】** で、希望する転送タイプを選択します。**標準転送**では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、ユーザのブラウザには実際のサイトURLが表示されます。従って、他のURLにリダイレクトされたことをユーザが認識できます。**フレーム転送**では、サイトが実際には別のロケーションにあることをユーザが認識できないようにしてユーザをリダイレクトします。従って、標準転送より望ましい選択肢となります。
4. **【OK】** をクリックします。

Google サービスを使用する

Panel 内のリンクを使用して、サイトに Google カスタム検索エンジンを挿入するコードを生成したり、ウェブマスターツールでウェブサイトの情報を Google に送信したり、AdSense プログラムに登録したり、YouTube 動画、Google 翻訳サービス、その他の Google 製品をサイトに埋め込むことができます。

Google カスタム検索とは、Google が提供する検索エンジンです。Google カスタム検索により、自分のウェブサイトに検索機能を追加して、検索結果ページの外観をウェブサイトに合わせて調整することができます。個人および非営利団体のウェブサイトで、無料で使用できます。一方、一般企業や営利団体の場合は、Google からの広告が表示されるカスタム検索エンジンを使用するか、Google Site Search サービスを契約してください（1年 \$100 より）。Google Site Search の詳細や価格については、<http://www.google.co.jp/intl/ja/sitesearch/index.html> で確認してください。

Google ウェブマスター ツールにより、ウェブマスターはウェブサイトの情報を Google に送信して、検索統計を確認することができます。ウェブマスターツールの詳細については、<http://www.google.com/support/webmasters/?hl=jp> を参照してください。

Google AdSense により、ウェブマスターは関連性の高い Google 広告をウェブサイトに表示し、収益を得ることができます。AdSense の詳細については、<https://www.google.com/adsense/login/jp/> を参照してください。

Google Web Elements により、ウェブマスターは任意の Google 製品をウェブサイトに簡単に追加できます。ニュース、マップ、YouTube 動画などのコンテンツをウェブページに埋め込んだり、Google Friend Connect を使用してコミュニティサイトの機能やサービスを充実させることができます。Google Web Elements の詳細については、<http://www.google.com/webelements/> を参照してください。

Google サービスを使用する前に、Google Terms of Service（利用条件）に同意し、サイトの所有権を確認する必要があります。

➤ *Google の利用条件に同意し、サイトの所有権を確認するには：*

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、[Google Services for Websites] リンクをクリックします。
2. Panel で利用条件のリンクをクリックし、ドキュメントを読みます。
3. 利用条件に同意する場合は、チェックボックスをオンにして [確認] をクリックします。

これで、以下を実行できます。

- [Google ウェブマスター ツール] をクリックしてサイト情報を Google に送信し、サイトの認知度を向上する。

- **【新しいカスタム検索エンジンを追加する】** をクリックして、サイトに検索機能を追加する。
- **【Google AdSense】** をクリックして、AdSense プログラムに登録する。
- **【Google Web Elements】** をクリックして、Google 製品を埋め込む。

➤ **Google にサイト情報を送信するには :**

1. **【ホーム】** タブまたは **【ウェブサイトとドメイン】** タブに進み、**【Google Services for Websites】** リンクをクリックします。
2. **【Googleウェブマスター ツール】** をクリックします。
【Google ウェブマスター ツール】エリアが別のブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
3. <http://www.google.com/support/webmasters/bin/answer.py?hl=en&answer=156184> の指示に従って **サイトマップ** を作成し、それを Google に送信します。

➤ **サイトにカスタム検索エンジンを追加するには :**

1. **【ホーム】** タブまたは **【ウェブサイトとドメイン】** タブに進み、**【Google Services for Websites】** リンクをクリックします。
2. **【カスタムサイト検索】** をクリックします。
3. **【新しいカスタム検索エンジンを追加する】** をクリックします。
4. 検索エンジン名を入力して、ウェブサイトを選択します。
5. 利用条件に同意して **【OK】** をクリックします。
新しい検索エンジンのレコードが Panel に追加されます。
6. **【コードを取得する】** リンクをクリックして、生成されたコードをクリップボードにコピーし、ウェブサイトページのソースコードに貼り付けます。

カスタム検索エンジンのリストにあるその他のリンクを使用して、以下の操作を実行できます。

- **収益を得る** : カスタム検索エンジンを Google AdSense アカウントと関連付けます。ユーザが広告をクリックして表示すると、収益を得られます。複数のカスタム検索エンジンを使用している場合、すべてのエンジンは同じ AdSense アカウントに自動的に関連付けられます。
- **管理する** : カスタム検索エンジンを管理します。
- **デザインを変更する** : 検索ボックスと検索結果ページの外観を調整します。
- **アップグレードする** : カスタム検索エンジンを、広告のない Google Site Search にアップグレードします。
- **統計** : サイト検索レポートを確認します。
- **削除する** : カスタム検索エンジンを削除します。

➤ **Google AdSense プログラムに参加するには :**

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、 [Google Services for Websites] リンクをクリックします。
2. [Google AdSense] をクリックします。
3. [Google AdSense] アカウントをクリックします。
4. 必要事項を入力して新しいAdSenseアカウントを作成するか、既存のアカウントを選択して [OK] をクリックします。

今後の手順を説明する確認メールが送信されます。

ドメイン下で個人ウェブページをホスティングする

専用のドメイン名を必要としないユーザの個人用ウェブページを、貴社のウェブサーバでホスティングできます。このような個人用ページのウェブアドレスは

「<http://your-domain.com/~username>」のようになります。

➤ **ドメイン下で個人用ウェブページをホスティングし、公開用のFTPアカウントをセットアップするには :**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブユーザ] に進みます。
3. [設定] をクリックします。
4. 個人用ウェブページに埋め込まれたスクリプトを実行できるようにするには、 [ウェブユーザにスクリプトの使用を許可する] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

ステップ4で定義した設定は、貴社のウェブサーバでホスティングするすべての個人用ウェブページで共通となります。従って、今後新しいウェブユーザアカウントをセットアップする際に、ステップ3～5を実行する必要はありません。

6. [新しいウェブユーザを追加する] をクリックします。
7. FTPを使用してウェブスペースにアクセスし、ウェブページを公開する時に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭はアルファベット文字にします。空白は使用できません。パスワードには引用符、空白、ユーザのログイン名を使用できず、長さは5~14文字と決められています。

8. このウェブページコンテンツで使用できるディスク容量を制限する場合、**[ハードディスククォータ]** ボックスに、必要な値をメガバイト単位で入力します。

指定した制限値を超えると、ウェブページの所有者はウェブスペースにファイルを追加できなくなります。

9. ウェブページでサポートされるプログラミング言語を指定します。

例えば、ウェブページをPHPで記述する場合、**[PHP対応]** チェックボックスをオンにします。

10. Windowsベースのホスティングアカウントを使用しており、この個人用ウェブページのアプリケーションでhttpdocsディレクトリのルートにあるファイルベースのデータベース（Jetなど）を使用する必要がある場合は、**[追加の書込/変更パーミッション]** オプションを選択してください。このオプションを選択すると、ウェブサイトのセキュリティが著しく低下する恐れがあります。

11. **[OK]** をクリックします。

これでFTPアカウントのクレデンシャルをユーザに伝え、このユーザが自分のウェブページを公開できるようになります。

➤ **ウェブページ所有者のFTPパスワードを変更するには：**

1. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[ウェブユーザ]** に進みます。
2. 必要なユーザ名をクリックします。
3. **[新しいパスワード]** ボックスおよび **[パスワードの確認]** ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
4. **[OK]** をクリックします。

➤ **ウェブページ所有者へのディスク容量割り当てを増やすには：**

1. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[ウェブユーザ]** に進みます。
2. 必要なユーザ名をクリックします。
3. **[ハードディスククォータ]** ボックスに、ディスク容量をメガバイトで入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

➤ **ウェブページ所有者のアカウントをウェブページごと削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [ウェブユーザ] に進みます。
2. 削除するユーザアカウントのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限する

帯域幅の過剰な使用を回避し、サイトを DoS 攻撃から防御するために、サイトの帯域幅使用率と同時接続可能数を制限することができます。

➤ サイトへの帯域幅使用率と接続数を制限するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [帯域幅制限] に進みます。
3. [帯域幅制限をスイッチオンする] チェックボックスをオンにします。
4. [帯域幅使用率の上限 (KB/s)] ボックスに、キロバイト単位で最大転送速度を指定します。
5. [接続数制限をスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
6. [接続数の上限] ボックスに、サイトへの同時接続数の上限を指定します。
7. [OK] をクリックします。

Microsoft Frontpage ウェブサイトを使用する (Windows)

Microsoft FrontPage は、ディスクベースとサーバベースという 2 種類のウェブサイトに対応しています。ディスクベースのウェブサイトの場合、ローカルハードディスク上で FrontPage ウェブサイトを作成してからウェブサーバに公開します。サーバベースのウェブサイトの場合、ウェブサーバ上でウェブサイトを直接作成して作業するため、改めて公開手続きを行う必要はありません。ここでは、ディスクベースのウェブサイトを公開する手順のみ説明します。

ディスクベースのウェブサイトは、FTP または HTTP 経由で公開できます。ホスティングサーバで FrontPage Server Extensions を実行している場合、HTTP 経由でサイトを公開します。例えば、`http://your-domain.com/MyWebSite` のようなアドレスになります。ホスティングサーバが FTP をサポートしていれば、FTP ロケーションでサイトを公開することになります。例えば、`ftp://ftp.your-domain.com/myFolder` のようなアドレスになります。

公開後、FrontPage Server Extensions を使用してサイトを管理できます。

➤ *FrontPage Server Extensions* 管理インターフェースにアクセスするには :

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. **[高度なオペレーション]** グループで **[FrontPage]** をクリックします。
4. 以下のいずれかを行います。
 - HTTP 接続経由でサイトを管理する場合、**[Frontpage Webadmin]** をクリックします。
 - セキュア SSL 接続経由でサイトを管理する場合、サイトに対して SSL サポートが有効になっていれば、**[Frontpage SSL Webadmin]** をクリックします。
5. FrontPage 管理者のユーザ名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ (**[Frontpage WebAdmin]** > **[ヘルプ]**) または Microsoft のウェブサイトを参照してください。

Panel では、次の FrontPage 設定を変更可能です。

- Microsoft FrontPage IIS Index Server を使用してウェブサイトのフルテキストインデックスを構築する。

- SMTP メールサーバおよび送信者のメールアドレス。これらのオプションは、サイトからメールで情報を送信する FrontPage フォームを使用する場合に適用されます。デフォルトでは、ドメインの DNS ゾーンに指定された SMTP サーバがメール送信に使用されます。ゾーンに SMTP サーバが指定されていなければ、FrontPage はドメイン（サイト）がホスティングされているサーバ上で稼働しているメールサービスを使用します。

➤ **これらのいずれかの設定を変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [FrontPage] > [設定] に進みます。
2. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

FrontPage ウェブサイトを公開する

➤ *FTP 経由でファイルを公開するには :*

1. FrontPageプログラムを開きます。
2. FrontPageのウェブサイトを開きます。【ファイル】メニューで【サイトを開く】アイテムを選択します。
3. 【リモートWebサイト】ビューに進みます。【Webサイト】タブをクリックしてから、ウィンドウの下部にある【リモートWebサイト】ボタンをクリックします。
4. リモートウェブサイトのプロパティをセットアップします。
 - ウィンドウの右上隅にある【リモート Web サイトのプロパティ】ボタンをクリックします。
 - リモートウェブサーバとして【FTP】を選択します。
 - 【リモート Web サイトの場所】ボックスに、ホスト名（例 : ftp://ftp.your-domain.com）を入力します。
 - 【FTP ディレクトリ】ボックスに、ホスティング事業者から指定された FTP ディレクトリを入力します。指定されていない場合は、空欄にしておいてください。
 - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールで防御されている場合、【パッシング FTP を使用する】チェックボックスをオンにします。
5. 【OK】をクリックして、リモートサイトに接続します。

【リモート Web サイト】ビューには、ローカルサイトとリモートサイトにあるファイルが表示されます。
6. ウィンドウの右下隅にある【Webサイトの公開】ボタンをクリックします。

➤ *FrontPage Server Extensions をサポートするサーバ上に HTTP 経由でファイルを公開するには :*

1. FrontPageプログラムを開きます。
2. FrontPageのウェブサイトを開きます。【ファイル】メニューで【サイトを開く】アイテムを選択します。
3. 【リモートWebサイト】ビューに進みます。【Webサイト】タブをクリックしてから、ウィンドウの下部にある【リモートWebサイト】ボタンをクリックします。
4. ウィンドウの右上隅にある【リモートWebサイトのプロパティ】ボタンをクリックします。

5. [リモートWebサイト] タブの [リモートWebサーバーの種類] で、FrontPageまたはSharePoint Servicesをクリックします。
6. [リモートWebサイトの場所] ボックスで、フォルダやファイルの公開先リモートウェブサイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて入力するか（http://www.your-domain.comなど）、[参照] をクリックしてサイトを探します。
7. 以下のいずれかを実行します。
 - SSL を使用して安全な通信チャネルを確立し、機密情報を盗難から防御するには、[暗号化接続の要求 (SSL)] をクリックします。ウェブサーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局が発行したセキュリティ証明書をサーバに設定する必要があります。サーバが SSL をサポートしていない場合、このチェックボックスをオフにします。オンのままにすると、フォルダやファイルをリモートウェブサイトに公開できません。
 - ウェブページ公開時に特定のタイプのコードを削除するには、[HTML の最適化] タブで希望のオプションを選択します。
 - 公開のデフォルトオプションを変更するには、[公開] タブで希望のオプションを選択します。
8. [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。

[リモート Web サイト] ビューには、ローカルサイトとリモートサイトにあるファイルが表示されます。
9. ウィンドウの右下隅にある [Webサイトの公開] ボタンをクリックします。

FrontPage アカウントを追加する

ウェブサイトコンテンツで他のユーザとコラボレーションするために Microsoft FrontPage を使用するには、追加の Microsoft FrontPage アカウントを作成する必要があります。

➤ 追加の Microsoft FrontPage アカウントを作成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. **[高度なオペレーション]** グループで **[FrontPage]** をクリックします。
4. **[新しいFrontPageアカウントを追加する]** をクリックします。
5. 以下を指定します。
 - アカウントのユーザ名とパスワード。
 - ディスク容量の上限。このアカウントで使用できるディスク容量を制限するには **[無制限]** チェックボックスをオフにして **[ハードディスククォータ]** ボックスに上限をメガバイト単位で入力します。
指定した上限に到達すると、ユーザはウェブスペースにファイルをそれ以上アップロードできなくなります。
6. **[OK]** をクリックします。

➤ 追加の Microsoft FrontPage アカウント設定を変更するには：

1. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[FrontPage]** に進みます。
2. 一覧から必要なアカウント名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し、**[OK]** をクリックして変更を保存します。

➤ 追加の Microsoft FrontPage アカウントを削除するには：

1. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[FrontPage]** に進みます。
2. 削除するアカウントのチェックボックスをオンにします。
3. **[削除]** をクリックします。
4. 削除を確認して **[OK]** をクリックします。

仮想ディレクトリを使用する (Windows)

仮想ディレクトリとは、サーバのハードディスク上にある既存の物理ディレクトリへのリンクです。仮想ディレクトリには、カスタム ASP.NET 構成、アクセスパーミッション、パスワード保護などの様々な設定があります。

各仮想ディレクトリはカスタマイズ ASP.NET 構成などの設定を独自に持つことができるため、仮想ディレクトリは、ASP.NET で記述されたウェブアプリケーションをセットアップする際に非常に便利です。例えば、ASP.NET バージョン 1.1 を使用しているウェブアプリケーションが 3 つあり、ASP.NET バージョン 2.0 を使用しているウェブアプリケーションを 1 つインストールする必要がある場合、ASP.NET 2.0 アプリケーション用に仮想ディレクトリを作成して、このディレクトリ用の ASP.NET 設定を構成してバージョン 2.0 に対応させ、必要なアプリケーションをインストールすることができます。

仮想ディレクトリをエイリアスとして使用することもできます。例えば、物理ディレクトリ `/my_data/web_apps/forum` のドメイン「example.com」にウェブアプリケーションがインストールされているとします。このウェブアプリケーションにアクセスするためには、ユーザは「example.com/my_data/web_apps/forum」と入力する必要がありますが、長すぎて覚えるのも入力するのも大変です。そこで、仮想ディレクトリ「forum」を仮想ホストのルートに作成し、この仮想ディレクトリを「/my_data/web_apps/forum」と関連付けます。ウェブアプリケーションにアクセスしたいユーザは「example.com/forum」と入力するだけでウェブアプリケーションを利用できます。これは短いため覚えるのも簡単です。

仮想ディレクトリを作成する

➤ 仮想ディレクトリを作成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。ここがウェブサイトのルートになります。
3. 新しい仮想ディレクトリを作成するディレクトリに進みます。
4. [仮想ディレクトリを作成する] をクリックします。

注：仮想ディレクトリの代わりに物理ディレクトリを作成する場合は、[ディレクトリを作成する] をクリックしてディレクトリ名を指定し、[OK] をクリックします。

5. 以下の必要パラメータを指定します。
 - 名前：仮想ディレクトリ名を指定します。
 - パス：仮想ディレクトリパスを指定します。

- **[仮想ディレクトリと同名の物理ディレクトリを作成する]**チェックボックスをオンにすると、仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリが自動的に作成されます。
- 既存の物理ディレクトリを選択する場合は、**[仮想ディレクトリと同名の物理ディレクトリを作成する]**チェックボックスをオフにしてフィールドにパスを指定してください。
- **スクリプトソースへのアクセス**：このチェックボックスをオンにすると、読み取りまたは書き込みパーミッションが設定されているユーザはソースコードにアクセスできます。ソースコードには ASP アプリケーションのスクリプトも含まれます。
- **読み取りパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルまたはディレクトリ、および関連するプロパティを読み取ることができます。
- **書き込みパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルおよび関連プロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり、書き込み可能なファイルのコンテンツを変更することができます。書き込みパーミッションは、HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能がサポートされているブラウザのみで有効です。
- **ディレクトリの参照**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルとサブディレクトリのハイパーテキストリストを参照できます。
- **訪問をログに保存する**：このチェックボックスをオンにすると、仮想ディレクトリへの訪問者に関する情報が保存されます。
- **アプリケーションの作成**：このチェックボックスをオンにすると、ディレクトリが IIS アプリケーションになります。当該ディレクトリはウェブサイトの他の部分から論理的に独立します。
- **実行パーミッション**：仮想ディレクトリで許可されるプログラムの実行レベルを選択します。
 - **なし**：HTML や画像ファイルなどの静的ファイルへのアクセスのみを許可します。
 - **スクリプトのみ**：スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行可能ファイルを実行することはできません。
 - **スクリプトと実行可能ファイル**：制限がすべて解除され、すべてのファイルタイプを実行できます。
- **ASP 設定**：ASP ベースのウェブアプリケーションに固有の設定を行います。
 - 使用している ASP ベースのウェブアプリケーションが、IIS で設定しているデータ転送制限では正常に動作しない場合、変更したいフィールドの横の**[親ディレクトリの定義を使用]**チェックボックスをクリアして、必要な数値を入力してください。
 - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**[親ディレクトリの定義を使用]** チェックボックスをクリアして**[ASP サーバサイドスクリプトのデバッグを有効にする]** チェックボックスをオンにします。
 - クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**[親ディレクトリの定義を使用]** チェックボックスをクリアして**[ASP クライアントサイドスクリプトのデバッグを有効にする]** チェックボックスをオンにします。

root 仮想ディレクトリの ASP 設定を変更する場合、デフォルトのチェックボックスは [親ディレクトリの定義を使用] ではなく [IIS の定義を使用] であることに注意してください。

6. [OK] をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリを削除するには：**




1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 削除したいディレクトリのチェックボックスをオンにします。
4. [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。

仮想ディレクトリの ASP.NET 設定


➤ 仮想ディレクトリの ASP.NET 設定を構成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要なディレクトリを検索し、名前のリンクをクリックします。
4. [ASP.NET設定] をクリックします。
5. データベースを使用する ASP.NET アプリケーションのデータベース接続データを定める文字列をセットアップします。このオプションは ASP.NET 2.0.x でのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと、共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルを削除し、独自の文字列に変更することができます。

- 文字列を追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力し、横にある  をクリックします。
 - 文字列を削除するには、横にある  をクリックします。
6. ASP.NET アプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューで適切なオプションを選択します。
 - オン：カスタムエラーメッセージが有効になります。
 - オフ：カスタムエラーメッセージが無効になり、エラーの詳細が表示されます。
 - リモートのみ：カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ（※ [オフ] モードを選択していなければ適用されず）を追加するには、[ステータスコード] および [リダイレクト URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - ステータスコード：エラーページにリダイレクトされる HTTP ステータスコードを定義します。
 - リダイレクト URL：エラーに関する情報をクライアントに提供するエラーページのアドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードに対して URL を再定義することはできます。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、横にある  をクリックします。

7. [コンパイルおよびデバッグ] フィールドで、コンパイル設定を構成します。

- 動的コンパイルファイルのデフォルトとして使用するプログラミング言語を決定するには、[ウェブページのデフォルト言語] メニューからエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをクリアしておきます。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードの一部にエラーがあると、診断メッセージに表示されます。

注： アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグは、アプリケーションのテスト時に使用して、本稼働段階では無効にすることをお勧めします。

8. [グローバル化設定] セクションで、ASP.NETアプリケーションのエンコーディング設定を構成します。

- すべての受信リクエストに適用するエンコーディングを設定するには、[リクエストのエンコーディング] フィールドにエンコーディングの値を入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
- すべてのレスポンスに適用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を[レスポンスのエンコーディング] フィールドに入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
- .aspx、.asmx、.asax ファイルの解析にデフォルトで使用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を[ファイルのエンコーディング] フィールドに入力します（デフォルトは「Windows-1252」です）。
- 受信するウェブリクエストに対してデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、[カルチャー] リストから適切なアイテムを選択します。
- ロケールに依存するリソースの検索時にデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、[UIカルチャー] リストで適切なアイテムを選択します。

9. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを[コードアクセスセキュリティ] フィールドに設定します。

CAS 信用レベルとは、アプリケーションの実行を割り当てるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスできるサーバリソースを定義します。

重要： アセンブリに割り当てられた信用レベルが低すぎると、アセンブリは正しく機能しません。パーミッションレベルの詳細については

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010を参照してください。

10. ASP.NET 1.1.xを使用している場合は、**[スクリプトライブラリ設定]** フィールドで補助スクリプトの使用を有効にできます。ウェブサイトで検証ウェブコントロールを使用している場合は、スクリプトライブラリ設定を指定する必要があります。
- 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を指定してください。これを行うには、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドに、スラッシュに続けてドメインのルートディレクトリから始まるパスを入力するか、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドの横にあるフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを選択します。
 - スクリプトを含むファイルを特定のロケーションにインストールするには、**[インストール]** チェックボックスをオンにします。既存のファイルは上書きされます。
11. クライアントセッションパラメータを**[セッション設定]** フィールドに設定します。
- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**[認証モード]** リストで適切なアイテムを選択します。IIS 認証を使用している場合は、Windows 認証モードを選択してください。
 - 許可されるセッションアイドル時間をセットアップするには、**[セッションタイムアウト]** フィールドに適切な値を分単位で入力してください。
12. **[OK]** をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

仮想ディレクトリ用の PHP を構成する



PHP4 または PHP5 が必要なウェブアプリケーションを使用するには、個別の仮想ディレクトリに対して必要な PHP バージョンを選択できます。

➤ 仮想ディレクトリの PHP バージョンを選択するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**[契約]**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで**[高度なオペレーション]** グループにある**[仮想ディレクトリ]** に進みます。
3. 必要なディレクトリを検索し、名前のリンクをクリックします。
4. **[ツール]** グループで**[PHP設定]** をクリックします。
5. 必要なPHPバージョンを選択し、**[OK]** をクリックします。




仮想ディレクトリへのアクセスをセットアップする

➤ 仮想ディレクトリのアクセス権限を設定するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 現在の仮想ディレクトリにアクセス権限を設定するには、[ツール] グループで [ディレクトリアクセスパーミッション] をクリックします。現在のディレクトリの下にあるサブディレクトリにパーミッションを設定するには、 アイコンをクリックします。
4. 以下を実行してください。
 - 親フォルダから当該ファイル/フォルダにパーミッションを継承させるには、[親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをオンにします。
 - このフォルダに含まれるファイルとフォルダに、定義したフォルダパーミッションを継承させるには、[すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、ここに表示されるエントリに置き換える] チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションを変更または削除するには、パーミッションの名前を [グループまたはユーザ名] リストでクリックします。該当するグループまたはユーザが [グループまたはユーザ名] リストに存在しない場合は、リストの上にあるメニューで必要なユーザまたはグループ名を選択し、 をクリックします。リストに、ユーザ/グループ表示されます。それを選択します。

選択したユーザ/グループのパーミッションを許可または却下するには、[次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>] にリストされたパーミッションに対して [許可] または [却下] チェックボックスをオンにします。[許可] または [却下] 列でチェックボックスがグレー表示されている場合、このパーミッションは親フォルダから継承されたものです。

- 親フォルダから継承されたパーミッションを却下するには、[却下] 列のチェックボックスをオンにします。これにより、このファイルまたはフォルダに継承されたパーミッションは上書きされます。
- 親フォルダから「拒否」として継承されたパーミッションを「許可」に設定するには、[親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをクリアします。これにより、継承されたパーミッションが削除されます。次に、必要に応じて [許可] および [却下] 列でチェックボックスをオンにします。

- グループまたはユーザからアクセスパーミッションを削除するには、[グループまたはユーザ名]リストで必要な名前を選択し、横にある  アイコンをクリックします。
5. パーミッションを詳細に設定する必要がある場合は、[拡張] ボタンをクリックして以下の作業を行ってください。
- グループまたはユーザのパーミッションエントリを作成するには、該当する名前を[グループまたはユーザ名] リストで選択して  をクリックします。
 - グループまたはユーザにファイル/フォルダパーミッションを設定または変更するには、[グループまたはユーザ名] リストで名前を選択し、[次のユーザ/グループのパーミッション: <ユーザ/グループ名>] にリストされたパーミッションに対して [許可] または [却下] チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションエントリを削除するには、[グループまたはユーザ名] リストで名前を選択して  をクリックします。
 - [次のユーザ/グループのパーミッション: <ユーザ/グループ名>] で定義したパーミッションがフォルダの子オブジェクトに継承されるようにするには、[すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、子オブジェクトに適用されるここに示すエントリに置き換える] チェックボックスをオンにして、[適用先] リストでパーミッション継承先オブジェクトのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリ内のファイルとディレクトリへのアクセスを制限するには：**


1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 保護したいディレクトリに進み、[保護] タブをクリックします。
4. [保護] をクリックします。
5. ディレクトリにアクセスできるユーザを指定するには、[ユーザを追加する] をクリックし、ユーザ名とパスワードを指定して、[OK] をクリックします。
6. ユーザがディレクトリにアクセスしようとする则表示される、保護エリアのタイトルを指定するには、[設定] をクリックし、タイトルを指定して [OK] をクリックします。

➤ **ユーザがディレクトリにアクセスする際のパーミッションを無効にするには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] > [保護] タブに進みます。
 2. ユーザ名に対応するチェックボックスを選択し、[削除する] をクリックします。
- **ディレクトリの保護を解除し、一般ユーザがディレクトリコンテンツを無制限に参照できるようにするには：**
1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] > [保護] タブに進みます。
 2. [保護を解除する] をクリックします。
 3. [OK] をクリックして削除を確認します。

仮想ディレクトリ設定を変更する

➤ 仮想ディレクトリを設定するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. プリファレンスを変更するディレクトリを開いて  をクリックするか、当該ディレクトリ内で [ディレクトリプロパティ] をクリックします。
4. 必要に応じて、設定を変更してください。
 - **名前**：仮想ディレクトリ名を指定します。
 - **パス**：仮想ディレクトリとリンクしている物理ディレクトリのパスを指定します。
 - **スクリプトソースへのアクセス**：このチェックボックスをオンにすると、読み取りまたは書き込みパーミッションが設定されているユーザはソースコードにアクセスできます。ソースコードには ASP アプリケーションのスクリプトも含まれます。
 - **読み取りパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルまたはディレクトリ、および関連するプロパティを読み取ることができます。
 - **書き込みパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルおよび関連プロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり、書き込み可能なファイルのコンテンツを変更することができます。書き込みパーミッションは、HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能がサポートされているブラウザのみで有効です。
 - **ディレクトリの参照**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルとサブディレクトリのハイパーテキストリストを参照できます。
 - **訪問をログに保存する**：このチェックボックスをオンにすると、仮想ディレクトリへの訪問者に関する情報が保存されます。
 - **アプリケーションの作成**：このチェックボックスを選択すると、Web ディレクトリを IIS アプリケーションにします。当該ディレクトリはウェブサイトの他の部分から論理的に独立します。
 - **実行パーミッション**：仮想ディレクトリで許可されるプログラムの実行レベルを選択します。
 - **なし**：HTML や画像ファイルなどの静的ファイルへのアクセスのみを許可します。
 - **スクリプトのみ**：スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行可能ファイルを実行することはできません。
 - **スクリプトと実行可能ファイル**：制限がすべて解除され、すべてのファイルタイプを実行できます。

- **親パスの使用を許可する**：このチェックボックスをオンにすると、現在のウェブディレクトリの1つ上のフォルダを、パス名にダブルピリオドを使用して表現できます。これによってユーザは、具体的なフォルダ名や全体の階層構造を知らなくてもフォルダの上位へ移動できます。このオプションを選択する場合、親パスディレクトリのプロパティで**[実行パーミッション]**チェックボックスをオンにすることはできません。これにより、親パスで許可されないプログラムをアプリケーションで実行することはできなくなります。
- **MTA (マルチスレッドアパートメント) モードでのアプリケーション実行を許可する**：このチェックボックスをオンにすると、MTA (マルチスレッドアパートメント) モードでアプリケーションを実行できます。選択をクリアすると、アプリケーションはSTA (シングルスレッドアパートメント) モードで実行されます。STA では、各アプリケーションプールは専用のプロセスで実行されます。MTA では1つのスレッドで複数の並列アプリケーションプールが実行されるので、場合によってはパフォーマンスが向上します。
- **デフォルトドキュメントを使用する**：このチェックボックスをオンにすると、現在のウェブディレクトリでデフォルトドキュメントを使用することができます。デフォルトドキュメントとは、ユーザがファイル名を指定せずにウェブ上のディレクトリにアクセスした場合に送信されるドキュメントです (例えば、「<http://www.parallels.com>」にアクセスすると「<http://www.parallels.com/index.html>」が表示されます)。このチェックボックスをオフにして、**[ディレクトリの参照]** チェックボックスをオンにすると、ウェブサーバがフォルダのリストを返します。このチェックボックスをオフにして、**[ディレクトリの参照]** チェックボックスもオフにすると、ウェブサーバは「アクセス禁止」のエラーメッセージを返します。
- **デフォルトドキュメントの検索順序**：IIS がデフォルトドキュメントを検索する順序を指定します。最初に検索されたファイルがユーザに提供されます。一致するドキュメントがない場合、IIS はデフォルトコンテンツページが無効である場合と同じ結果を返します。
- **匿名アクセスを許可する**：このチェックボックスをオンにすると、インターネットユーザは認証なしでディレクトリにアクセスできます。
- **SSL が必要**：このチェックボックスをオンにすると、SSL 暗号化された接続でしかフォルダにアクセスできなくなります。
- **ASP 設定**：ASP ベースのウェブアプリケーションに固有の設定を行います。
 - 使用している ASP ベースのウェブアプリケーションが、IIS で設定しているデータ転送制限では正常に動作しない場合、変更したいフィールドの横の**[親ディレクトリの定義を使用]**チェックボックスをクリアして、必要な数値を入力してください。
 - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**[親ディレクトリの定義を使用]** チェックボックスをクリアして**[ASP サーバサイドスクリプトのデバッグを有効にする]** チェックボックスをオンにします。
 - クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**[親ディレクトリの定義を使用]** チェックボックスをクリアして**[ASP クライアントサイドスクリプトのデバッグを有効にする]** チェックボックスをオンにします。

root ディレクトリの ASP 設定を変更する場合、デフォルトのチェックボックスは [親ディレクトリの定義を使用] ではなく [IIS の定義を使用] であることに注意してください。

5. [OK] をクリックして変更を保存します。

MIME タイプを追加および削除する

MIME (Multipurpose Internet Mail Exchange) タイプは、サーバから受信するファイルをウェブブラウザまたはメールアプリケーションがどのように処理するのかを決定します。例えば、ウェブブラウザは、サーバ上のアイテムを要求するときに、そのオブジェクトの MIME タイプも同時に要求します。グラフィックなど一部の MIME タイプは、ブラウザ内で表示することができます。ワープロ文書などその他のタイプを表示するには、外部のアプリケーションが必要になります。

ウェブサーバは、クライアントのウェブブラウザにウェブページを提供するときに、データの MIME タイプも同時に通知します。特定形式のファイルが添付または埋めこまれている場合、IIS はクライアントアプリケーションに対し、当該ファイルの MIME タイプについても通知します。この結果、クライアントアプリケーションは、IIS から受信したデータをどのように処理または表示すればよいのかを判断できます。

IIS は、登録されている MIME タイプのファイルしか処理できません。MIME タイプは、グローバル IIS レベルでも、ウェブサイトまたは仮想ディレクトリレベルでも定義することができます。ウェブサイトのメインディレクトリまたは仮想ディレクトリレベルで定義された MIME タイプは、定義したエリアのみで使用されますが、グローバル定義された MIME タイプはすべてのドメインおよび仮想ディレクトリに継承されます。このような継承が行われないと、登録されていない MIME タイプのファイルに対する要求がウェブサーバに受信されたときに、ウェブサーバは 404.3 (Not Found) エラーを返すことになってしまいます。

➤ 仮想ディレクトリに新規 MIME タイプを追加するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[高度なオペレーション]** グループにある **[仮想ディレクトリ]** に進みます。
3. 必要な仮想ディレクトリに進み、関連する名前のリンクをクリックします。
4. **[MIMEタイプ]** タブをクリックします。
5. **[MIMEタイプの追加]** をクリックします。
6. 以下を指定します。
 - ファイルの拡張子を **[拡張子]** フィールドに入力します。ファイル拡張子の先頭はドット (.) にします。あるいは、ワイルドカード (*) を使用すれば、ファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
 - **[コンテンツ]** フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
 - リストから適切な値を選択することも、新規コンテンツタイプを定義することもできます。新規コンテンツタイプを定義するには **[カスタム]** を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力します。

7. 作成を完了したら [OK] をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリの MIME タイプを編集するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要な仮想ディレクトリに進み、関連する名前のリンクをクリックします。
4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
5. リストから必要なMIMEタイプを選択します。
 - ファイルの拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。ファイル拡張子の先頭はドット (.) にします。あるいは、ワイルドカード (*) を使用すれば、ファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
 - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
 - リストから適切な値を選択することも、新規コンテンツタイプを定義することもできます。新規コンテンツタイプを定義するには [カスタム] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力します。
6. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **仮想ディレクトリの MIME タイプを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要な仮想ディレクトリに進み、関連する名前のリンクをクリックします。
4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
5. 削除したいMIMEタイプに該当するチェックボックスをオンにします。
6. [削除] をクリックします。
7. 削除を確認して [OK] をクリックします。

IIS アプリケーションプールをセットアップする (Windows)

IIS アプリケーションプールには、サイトにインストールされたすべてのウェブアプリケーションが含まれます。サービスプロバイダによりサイトに専用 IIS アプリケーションプールが付与されている場合、自分のドメインで使用するウェブアプリケーションを、同じサーバ上でウェブサイトをホスティングしている別のホスティングユーザが使用しているウェブアプリケーションから分離することができます。各アプリケーションプールは独立して動作するため、あるアプリケーションプールでエラーが発生しても、別のアプリケーションプールで動作しているアプリケーションには影響がありません。

一度アプリケーションプールを有効にすると、ドメイン上のすべてのウェブアプリケーションで使用されます。

➤ ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプールをスイッチオンするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプール] に進みます。
3. [スイッチオン] をクリックします。
4. このアプリケーションプールで使用できる CPU リソース量を制限するには、[CPU モニタリングをスイッチオンする] チェックボックスをオンにして [最大 CPU 使用率 (%)] フィールドにパーセント値を入力します。
5. [OK] をクリックします。

➤ アプリケーションプールで稼働しているアプリケーションをすべて停止するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプール] に進みます。
2. [停止] をクリックします。

➤ アプリケーションプール内のアプリケーションをすべて起動するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプール] に進みます。

2. [起動] をクリックします。

既知のメモリリークがあるか、長期的な使用により状態が不安定になったアプリケーションを実行している場合は、アプリケーションを再起動した方がよい場合があります。

➤ アプリケーションプールで稼働しているアプリケーションをすべて再起動するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用IISアプリケーションプール] に進みます。
2. [リサイクル] をクリックします。

➤ ウェブサイト用の専用IISアプリケーションプールをスイッチオフするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用IISアプリケーションプール] に進みます。
2. [スイッチオフ] をクリックします。

Web Deploy によるウェブパブリッシング (Windows)

Web Deploy (ウェブデプロイメントツール) とは、ウェブサイトおよびウェブアプリケーションの移行、管理、導入を簡素化する Microsoft 製のツールです。具体的には、Visual Studio® (IDE) や WebMatrix® (開発ツール) などのローカル環境でコードを作成してから、Web Deploy を使用して本稼働サーバに更新内容を定期的に発行します。

Visual Studio® と WebMatrix® の違い

アカウントにコードの更新内容をシームレスに発行できる環境を必要とするユーザにとって、Visual Studio® または WebMatrix® が主な選択肢となります。

- Visual Studio® は、あらゆる規模の .NET アプリケーションやサイトを作成するための標準的な統合開発環境 (IDE) です。基本的な機能を拡張できる様々なプラグインが用意されています。ただし、Visual Studio® でアプリケーションを実行およびデバッグするためには、追加の構成を行う必要があります (データベースおよび環境設定の準備など)。したがって、このツールは上級ユーザ向けです。
- 一方、WebMatrix® は、アプリケーションテンプレートや作業用アプリケーション (WordPress、Joomla) を設定なしで使用できます。リストからアプリケーションを選択するだけで、顧客アカウントにアプリケーションを追加したり、アプリケーションを実行することができ、構成は WebMatrix® によって透過的に行われます。さらに、WebMatrix® 内でプロジェクト用のホスティングプランを簡単に探し、契約することができます。従って、このツールは初心者ユーザにも適しており、設定不要なアプリケーションやテンプレートを活用して迅速に開発を進めることができます。WebMatrix® のインストールおよび使用について詳しくは、<http://www.microsoft.com/web/webmatrix/> を参照してください。

お好みでプロジェクトに適したツールを選択してください。

Visual Studio® および WebMatrix® でウェブパブリッシングを構成する

一般に、自分 (自社) の環境でウェブパブリッシングをセットアップするには、公開の設定用画面で、顧客アカウントの IP アドレスとコントロールパネルへのログイン用ユーザ名/パスワードを指定します。

WebMatrix® では、公開の設定は [ホーム] > [公開] で行います。これらの設定は、手動で指定することも、XML ファイルで指定することもでき、Panel が自動的に生成します。特定のウェブサイト用のファイルをダウンロードするには、[ウェブサイトとドメイン] > [高度なオペレーション] > [Web Deploy パブリッシングの設定] で、対応する [ダウンロード] リンクをクリックします。これらの設定は、Web Deploy が Panel サーバにインストールされ、実行されている場合にのみ指定できます。これらの設定が表示されない場合は、ホスティングプロバイダにご相談ください。

WebMatrix® でのウェブパブリッシングのセットアップ方法について詳しくは、<http://www.microsoft.com/web/post/how-to-publish-a-web-application-using-webmatrix> (英語) を参照してください。

Visual Studio® での発行設定について詳しくは、<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/7z83t16a.aspx> を参照してください。

注： 顧客アカウントに更新内容をセキュア接続で送信したい場合は、発行設定の対応するオプションを選択してください。ホスティングプロバイダが有効な SSL 証明書を所有していない場合は、発行を試みるとエラーメッセージが表示されます。この問題を解決するには、ホスティングプロバイダに相談するか、セキュア接続の使用を中止してください。

WebMatrix® パブリッシング設定をセキュリティ保護する

WebMatrix® パブリッシング設定を保持する XML ファイルには、顧客アカウントのパスワードが含まれています。管理者には、Panel を構成して XML ファイルからこれらのパスワードを除外できるオプションがあります。管理者がシステムのセキュリティを向上し、パスワード盗難を防止したい場合は、XML ファイルからパスワードを除外するように指定できます。この場合、顧客が WebMatrix® にパスワードを直接入力する必要があります。オプションは [ツールと設定] > [サーバ設定] ページにあります。

第 5 章

Web Presence Builder でウェブサイトを作成する

Parallels Web Presence Builder（別名「エディタ」）は、小規模企業の事業主や個人がウェブサイトを簡単に作成することを可能にするビジュアルエディタです。Web Presence Builder では、コードを記述したりサーバを構成することなく、ブログやオンラインストアなどのウェブサイトをセットアップすることができます。サイトを構成するコンテンツブロック（テキスト、画像ギャラリー、オンラインストア）をページ上にドラッグするだけでページにコンテンツブロックが追加され、これらのブロックにコンテンツを追加したり、完成したページを公開することができます。これで完了です。

ウェブサイトの作成を開始する

ウェブサイトの作成を開始する際は、テキストの記述、画像の検索、サイトの外観の調整などを行う必要はありません。ウェブサイトに最も適したトピックを選択すると、Web Presence Builder によって、選択したトピックに関連するページ、画像、テキストのセットが含まれるサイトテンプレートが生成されます。Web Presence Builder は、ウェブサイトを生成するたびにエレメントデザインを無作為に選んで使用するため、同じウェブサイトのデザインが繰り返し作成されることはありません。

ユーザがトピックを選択すると、追加の情報の入力が求められ、これらの情報は Web Presence Builder によってウェブサイトのページに追加されます。例えば、電話番号を入力すると、**連絡先のページ**に表示されます。

ウェブサイトの作成を開始する手順については、「**ウェブサイトを作成する（163ページ）**」のセクションを参照してください。

SiteBuilder 4.5 で作成したウェブサイトをインポートする

SiteBuilder 4.5 で作成したウェブサイトが既に別の場所でホストされている場合、このウェブサイトを新しい顧客アカウントにインポートすることができます。SiteBuilder 4.5 ウェブサイトを Web Presence Builder にインポートする方法は、「**SiteBuilder 4.5 からサイトをインポートする（164ページ）**」のセクションで確認してください。

サイトにコンテンツを追加する

Web Presence Builder でウェブサイトが作成されると、このウェブサイトにはコンテンツを追加することができます。主に使用する編集ツールは、Web Presence Builder のメインメニューです。このメニューで、以下の作業を実行できます。

- **サイトの構造を変更する**： ページの追加または削除
- **ウェブサイトデザインを編集する**： 色およびレイアウトの変更

- **サイトにコンテンツを追加する**： 不要な事前定義済みコンテンツの削除や、独自の要素の追加：
 - テキスト
 - 画像および画像ギャラリー
 - 動画
 - スクリプト
 - ブログ
 - 検索ボックス
 - その他の要素
- **訪問者によるソーシャルメディア (Facebook、Twitter など) でのウェブサイト共有を可能にする**： サイトのページにソーシャルメディアボタンを追加します。

エディタで実行できる作業について詳しくは、「Web Presence Builder **エディタに慣れる** (161ページ)」のセクションを参照してください。

ウェブサイトの外観とコンテンツの管理について詳しくは、「**ウェブサイトを編集する** (166ページ)」のセクションを参照してください。

インターネット上にサイトを公開する

ウェブサイトの編集が完了したら、インターネット上にウェブサイトを公開します。自社のドメイン名で訪問者がサイトを閲覧できるようにするには、メインメニューで **[公開]** をクリックします。このリンクをクリックすると、Web Presence Builder によって、ウェブサイトを構成する静的ページとスクリプトが生成され、サーバ上の適切な場所に保存されます。これにより、ブラウザでドメイン名を指定したユーザがウェブサイトを閲覧できるようになります。ウェブサイトの公開について詳しくは、「**ウェブサイトをインターネットに公開する** (199ページ)」のセクションを参照してください。

また、サイトのコピーを人気ソーシャルネットワークの *Facebook* に作成して、サイト訪問者を増やすことができます。この方法は、「**ウェブサイトコピーを Facebook に公開する** (200ページ)」のセクションを参照してください。

Web Presence Builder に慣れる

Web Presence Builder エディタのインターフェースには、ウェブサイトとメインメニューという 2 つのメインパートがあります。

ウェブサイトは、多数のエLEMENTまたはモジュールから構成されます。各モジュールは個別に編集可能です。ここでは、ウェブサイトモジュール編集の基本原則を説明します。この基本原則はすべてのモジュールで類似しています。

ページにモジュールを追加する際は、現在のページのみに表示するか（ページ固有のモジュール）サイトの全ページに表示するか（サイト全体のモジュール）を選択することができます。ただし、**検索、広告、サイトロゴ、ナビゲーション、ブレイドクラム**の各モジュールは例外となります。これらのモジュールを追加すると、ウェブサイトの全ページに表示されます。

現在のページのみモジュールを表示するには、**[モジュール]** タブの下でモジュールを選択し、「**ページ固有のエリア**」というテキストでマークされた任意のエリアにドラッグします。このようなエリアは、メインのコンテンツブロック内および各サイドバーの上部付近にあります。

ウェブサイトのすべてのページにモジュールを表示するには、**[モジュール]** タブの下でモジュールを選択し、「**サイト共通エリア**」というテキストでマークされた任意のエリアにドラッグします。このようなエリアは、メインのコンテンツブロックの上と下、サイドバー内、ヘッダ、フッタにあります。

ウェブサイトモジュールを配置または編集するには、ウェブサイト内の変更したい場所の上にカーソルを動かします。モジュールの周囲に、点線のフレームが表示されます。モジュールの移動、編集、または削除を確認するパネルが、このフレームの横に表示されます。

ページ固有のモジュールの周囲にある点線フレームは緑色、サイト共通モジュールの点線フレームは青色です。

エディタのメインメニューでは、ウェブサイト編集オプションが次の 5 つのタブの下にまとめられています。

- **モジュール**：ここでは、必要なモジュールを選択してページ内の任意の場所にドラッグすることによって、ウェブサイトにコンテンツを追加できます。
- **デザイン**：ここでは、ウェブサイトのレイアウトと一般的なカラースキームの選択、各種要素の色変更、フォントや境界スタイルの選択などが可能です。
- **ページ**：ここでは、ページの追加や削除、名前変更、ページのメタ情報（検索エンジンに利用される説明やキーワードなど）の編集、ページの非表示化（訪問者がサイトメニューからアクセスできなくなる）などが可能です。

- **ドキュメント**：ここでは、ドキュメント、画像、その他のファイルを各種フォーマットでホスティングアカウントにアップロードできます。アップロード後は、ウェブサイトのページにこれらのドキュメントへのリンクを簡単に挿入できます。あるいは、独自のニーズのために、ホスティングアカウントにファイルを保存だけすることも可能です。
- **設定**：ここでは、検索エンジンに使用されるウェブサイト名、説明、およびキーワードの編集、サイトアイコン（ファビコン）のアップロード、検索エンジンの検索結果におけるウェブサイトランキングの最適化、Google Analytics へのサイトの登録、Facebook ページへのサイトコピーの追加を実行できます。

メインメニューでは、以下の作業も実行できます。

- **ダッシュボード**にアクセスして以下を実行できます。
 - ウェブサイトの訪問統計を参照する。統計情報は Google Analytics が提供するものです。
 - ウェブサイトのページに訪問者が残した新しいコメントを参照する。コメント機能は Disqus が提供するものです。
 - オンラインストアを訪問した顧客からの新しい注文を参照する。オンラインストア機能は Ecwid が提供するものです。
- ウェブサイトのコピーを保存または読み込むには、**【保存】**または**【元に戻す】**オプションを使用します。
- Web Presence Builder ビデオチュートリアルにアクセス、**ユーザガイド**を閲覧、またはフィードバックを送る。**【ヘルプ】**メニューで該当するオプションを選択します。
- **【公開】** ボタンを使用してウェブサイトを公開する。
- **【その他】** > **【やり直す】** で、サイトに加えた変更を取り消し、サイトを新たに作成する。この操作を行っても、既に公開済みのサイトコピーは削除されません。
- **【その他】** > **【サイトを削除する】** を選択して、現在のウェブサイトのドラフトをエディタから削除する。この操作を行っても、既に公開済みのサイトコピーは削除されません。

必要に応じてメインメニューをページ内の任意の場所にドラッグしたり、最小化することができます。

また、ページ内の任意の場所でコンテキストメニューを使用して、メインメニューのすべてのオプションにアクセスすることができます。コンテキストメニューは、右クリックで表示されます。

ウェブサイトを作成する

ウェブサイトの作成を簡単にするために、Web Presence Builder には事前定義されたウェブサイトトピックのセットが用意されています。ウェブサイトの作成を開始するには、最も適したトピックを選択すると、Web Presence Builder によってこのトピックに関連するコンテンツを含むウェブサイトが生成されます。例えば、小売店のウェブサイトには価格表テンプレート、アーティストのサイトには画像ギャラリーなどが含まれます。該当するトピックが見当たらない場合は、サービスプロバイダに対し、適切なテンプレートを作成してトピックのリストに加えるように依頼することができます。

また、ウェブサイトの作成を開始すると、必要な情報を入力するよう Web Presence Builder から要求されます。Web Presence Builder は必要に応じてこの情報を特定のページ（例えば会社情報ページやお問い合わせページ）に自動的に追加します。

注： Web Presence Builder は、顧客のウェブサイトページを除くいかなる場所でも、これらの情報を保存または使用しません。この情報は後で変更または削除ができます。

➤ *Web Presence Builder* でウェブサイトの作成を開始するには：

1. 該当するリンクをクリックして Web Presence Builder を起動します。
 - 契約にドメイン名が1つだけ存在する場合は、[ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブで [Web Presence Builder を起動する] をクリックします。
 - 複数のドメイン名がある場合、利用可能なドメイン名のリストで、該当する [Web Presence Builder で編集する] リンクをクリックしてください。
2. ウェブサイトのトピックを選択します。
3. ウェブサイト名を入力し、ウェブサイトの言語を選択します。
4. [サイトを作成する] をクリックし、ウェブサイトに含まれる情報を指定します。

SiteBuilder 4.5 からサイトをインポートする

SiteBuilder 4.5 で作成したサイトを、Web Presence Builder にインポートすることができます。

注： 4.5 より古いバージョンの SiteBuilder や別のコンテンツ管理システムからのサイトのインポートはサポートされません。

バージョン 4.4 以前の SiteBuilder で作成したサイトを移管するには、以下の手順に従ってください。

- ホスティングプロバイダに対し、アカウントを最新バージョンの Web Presence Builder にアップグレードするよう依頼します。
- コンテンツのコピー&ペーストによって、サイトを手動で移管します。

サイトのインポートを行うと、サイトの構造およびコンテンツの大部分は正常に移管されますが、すべてのコンテンツが移管されることは保証されません。

以下の要素は、ほとんどの場合正常にインポートされます。

- サイトマップ
- 静的ページ（テキストモジュール内のリンクや画像を含む）。30 KB を超えるテキストブロックは、一部のテキストが削除される可能性があります。
- バナー（カスタム画像ではない場合）
- スローガン、サイトタイトル
- ロゴ（カスタム画像ではない場合）
- フッタのテキスト
- メタ情報（キーワード、説明）

これら以外のモジュールは、静的コンテンツ、リンク、画像を含むテキストウィジェットとしてのみインポート可能です。ボタンは機能しません。画像ギャラリーの構造は、画像なしでインポート可能です。

➤ SiteBuilder 4.5 からサイトをインポートするには：

1. Web Presence Builder エディタを開き、トピック選択画面で [SiteBuilder 4.5 からサイトをインポート] をクリックします。
2. インポートするサイトのインターネットアドレス（ドメイン名）を入力します。例えば「<http://example.com>」のように入力します。

3. チェックボックスをオンにして、インポートで発生する可能性がある問題について同意して **【サイトをインポート】** をクリックします。
4. サイトをインポートしてから、必要に応じてレビューおよび編集（166ページ）します。インポートされたサイトバージョンをオリジナルサイトと比較し、不足している情報を手動で追加できます。
5. 編集が終了したら、顧客アカウントでサイトを公開します（199ページ）。

SiteBuilder 4.5で作成したサイトをホストしているウェブスペースで新しいサイトを公開すると、古い方のサイトが上書きされます。

ウェブサイトを編集する

Web Presence Builder で、ウェブサイトのほとんどの要素を変更することができます。大部分の要素はその場で変更可能です。つまり、その要素が使用されるページを開き、要素を編集して、すぐに変更結果を確認することができます。サイト全体で共通の要素（検索ブロックや広告ブロック）は、一箇所で変更するとすべてのページに変更が適用されます。

注： Internet Explorer を使用している場合、ブラウザウィンドウに表示されるテキストのサイズを変更するためにブラウザの拡大機能を使用することは避けてください。Web Presence Builder で作成されるウェブサイトの機能と外観は、標準の拡大率（100%）に合わせて最適化されています。

構造： ページおよびナビゲーション

ここでは、ページをサイトに追加する方法、サイト構造内でページの場所を設定する方法、およびナビゲーションリンクの追加方法を説明します。

ページを追加および削除する

サイトには、2レベルのページ階層を設定できます。

➤ ウェブサイトに新しいページを追加するには：

1. [ページ] タブに進みます。
2. [ページを追加する] をクリックします。新しいページが、緑色にハイライトされて表示されます。
3. 新しいページを適切な場所にドラッグするか、矢印を使用して配置します。
4. ページのタイトルを指定します。
5. 検索エンジンの結果ページに表示されるページコンテンツの概要と、検索エンジンでページの検索に使用される可能性があるキーワードを指定します。

注： [ページ名] と [ページリンク名] は入力必須フィールドです。 [説明] と [キーワード] はオプションフィールドです。1 ページに複数のキーワードを指定する場合は、スペースを使用せずにコンマでキーワードを区切ります。

6. ウェブサイトの訪問者に対してページを表示しない場合、 [ページを表示しない] チェックボックスをオンにします。
7. パスワード認証でページへのアクセスに制限を加えるには、 [ページを保護する] チェックボックスをオンにして、ユーザ名とパスワードを指定します。
8. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ ページの場所またはプロパティを変更するには：

1. [ページ] タブを開きます。
2. 編集するページを選択します。
3. ページを適切な場所にドラッグするか矢印を使用してページを配置します。
4. ページのタイトルを編集します。
5. 検索エンジンの結果ページに表示されるページコンテンツの概要と、検索エンジンでページの検索に使用される可能性があるキーワードを編集または削除します。

注： [ページ名] と [ページリンク名] は入力必須フィールドです。 [説明] と [キーワード] はオプションフィールドです。 1 ページに複数のキーワードを指定する場合は、スペースを使用せずにコンマでキーワードを区切ります。

6. ウェブサイトの訪問者に対してページを表示しない場合、 [ページを表示しない] チェックボックスをオンにします。
7. パスワード認証でページへのアクセスに制限を加えるには、 [ページを保護する] チェックボックスをオンにして、ユーザ名とパスワードを指定します。
8. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **ウェブサイトからページを削除するには：**

1. [ページ] タブを開きます。
2. 削除するページを選択します。
3. [ページを削除する] をクリックします。
4. [OK] をクリックして変更を保存します。

ナビゲーションリンクを追加および削除する

デフォルトで、サイトページへのリンク付きの水平ナビゲーションバーはサイトのヘッダの下または上に挿入されます。サイトにページを追加、サイトでページを変更または移動、サイトからページを削除すると、自動的に更新されます。

サイトでサイドバーを使用する場合、ヘッダの下の水平バーには第 1 階層のページへのリンクのみが含まれ、第 2 階層と第 3 階層のリンクはサイドバーに表示されます。

ナビゲーションブロックは、サイト内の他のエリアにドラッグして移動することができます。

それぞれのナビゲーションブロックに対して、メニューに含めるページ階層を指定したり、メニューの配列を変更したり（例：デフォルトの左揃えから中央揃えに変更）、リンクで使用するフォントの色、スタイル、サイズを変更することができます。これらの任意の設定を変更するには、ナビゲーションブロックの上にカーソルを置いて **[編集]** をクリックします。

ナビゲーションブロックを削除した場合は、再び挿入することができます。これを行うには、**[モジュール]** タブで **[ナビゲーション]** を選択し、ページ内の追加したい場所にブロックをドラッグします。ナビゲーションブロックはウェブサイトのすべてのページに挿入されます。

サイト訪問者のナビゲーションを向上するために、ブレッドクラムナビゲーションブロックを追加することもできます。ブレッドクラムナビゲーションとは、サイトのメインページから現在のページまでユーザが辿るパスを示すリンクです。ブレッドクラムナビゲーションブロックを追加するには、**[モジュール]** タブで **[ブレッドクラム]** を選択し、ページ内の追加したいエリアにモジュールをドラッグします。ナビゲーションブロックはウェブサイトのすべてのページに挿入されます。

デザイン：レイアウト、スタイル、カラースキーム、ヘッダ

ここでは、サイトのレイアウト、カラースキーム、ヘッダ要素を変更する方法を説明します。

ウェブサイトのレイアウトを変更する

サイトのレイアウトは、以下の要素から構成されています。

- **ヘッダ**：これは、バナー画像や会社ロゴを配置する最上部のエリアです。ヘッダでは、以下の操作を実行できます。
 - バナー画像とロゴをヘッダエリアからページ内の任意の場所に移動する。
 - ヘッダからすべての要素を削除して、ヘッダの高さを 25 ピクセルまで縮小する。
 - ヘッダの幅をデフォルトサイズから 100% から変更して、ページの幅に合わせて伸縮するようにする。
- **コンテンツエリア**：大部分のコンテンツが配置される、ウェブページのメインエリアです。コンテンツエリアでは、以下の操作を実行できます。
 - コンテンツエリアの高さを調整する。
 - コンテンツエリアを複数カラムに分割する。これには、新しいモジュールをコンテンツエリアの左端または右端にドラッグして挿入します。
 - コンテンツを左または右に移動して、コンテンツエリアのカラムの場所を変更する。
- **サイドバー**：これらは、任意のモジュール（サイト共通またはページ固有）を配置するために使用できる垂直カラムです。サイドバーでは、以下の操作を実行できます。
 - サイドバーを 1 つ追加して、コンテンツエリアの左または右に配置する。
 - サイドバーを 2 つ追加する。2 つのサイドバーは、コンテンツエリアの左と右に配置されます。
 - サイドバーの高さと幅を調整する。
 - サイドバーをページの上部に移動して、ヘッダエリアの左または右に配置する。
 - サイドバーの位置を入れ替える。
- **フッタ**：これは、一般に会社名、連絡先、著作権表示などが記載されている最下部のエリアです。フッタでは、以下の操作を実行できます。
 - フッタからすべての要素を削除して、ヘッダの高さを 25 ピクセルまで縮小する。
 - フッタの幅をデフォルトサイズから 100% から変更して、ページの幅に合わせて伸縮するようにする。

➤ サイトのレイアウトを変更するには：

1. [デザイン] タブで [レイアウト] タブを開きます。
2. サイドバーの数を選択します。[サイドバー] の下で、なし、1、2のいずれかを選択します。
3. サイドバーの位置を選択します。

- ウェブサイトの別サイドにサイドバーを移動するか、サイドバーの位置を入れ替える（サイト内でサイドバーを2つ使用している場合）には、[サイドバーをスイッチ] をクリックします。
- ページの上部にサイドバーを移動するには、レイアウトモデルでサイドバーをクリックします。

4. ページ要素のサイズを設定する：

- ウェブサイトの合計幅を設定するには、[ウェブサイトの幅] の下で以下のいずれかを選択します。
 - **固定レイアウト**： ウェブサイトは、ページを表示しているブラウザウィンドウのサイズを問わず、決まったサイズとなります。この場合、ウェブサイトの幅をピクセル単位で指定してください。
 - **可変レイアウト**： 現在のブラウザウィンドウのサイズに対する割合で表示されます。この場合、ブラウザウィンドウのサイズに対する割合をパーセントで指定してください。
- ページの幅に合わせてヘッダエリアとフッタエリアの幅を変更するには、レイアウトモデルで該当する要素をクリックしてください。
- [列の最小高 (ピクセル)] で、メインコンテンツエリアと各サイドバー（使用する場合）の高さを指定します。

この値は、コンテンツなしでのウェブサイト要素の高さを示します。メインコンテンツエリアとサイドバーにコンテンツを追加すると、コンテンツに合わせて高さが拡張します。
- サイドバーを1つまたは2つ使用する場合、[サイドバーの幅] で各サイドバーの幅を指定します。メインコンテンツエリアのサイズは、自動的に決まります。
- [余白のサイズ (ピクセル)] で、縦横の余白のサイズを指定します。余白とは、隣り合う要素の境界と境界の間のスペースです。

5. [OK] をクリックして変更を保存します。

ウェブサイトの色、フォント、および境界とコーナーのスタイルを選択する

ウェブサイトの一般的なカラースキームまたはスタイルセットは、4色で構成されています。それぞれの色は複数のウェブサイト要素で共有されます。個々の要素の色は、[デザイン] タブ > [色] タブで変更できます。

➤ ウェブサイトの基本的なカラースキームを選択するには：

1. [デザイン] タブで [スキーム] タブを開きます。
2. メニューで、ウェブサイトのカラースキームまたはスタイルセットを選択します。
ウェブサイトのカラースキームに使用される4色が表示されます。
3. ウェブサイトのカラースキームのいずれかの色を変更するには、該当する色フィールドをクリックし、16進の色コード値を変更するか、カラーピッカーで色を選択します。

注：これらの変更は、[色] タブで以前に変更した個々の要素の色より優先されません。

4. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ 個々のウェブサイト要素の色を選択する：

1. [デザイン] タブで [色] タブを開きます。
2. メニューでウェブサイト要素を選択します。
3. 要素の背景色を変更するには、背景色のフィールドをクリックし、16進の色コード値を変更するか、カラーピッカーで色を選択します。
4. グラデーションで塗りつぶすには、[グラデーション] オプションを選択し、メニューからパターンを選択します。
5. テキスト付きの要素のフォント色を変更するには、該当する色フィールドをクリックし、16進の色コード値を変更するか、カラーピッカーで色を選択します。

注：[スキーム] タブでスタイルセットを変更すると、[色] タブでの変更より優先されます。

6. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ ウェブサイトのヘッダと本文のフォントを選択する：

1. [デザイン] タブで [フォント] タブを開きます。

2. 各フォントタイプに対して、メニューでフォント名とサイズを選択します。
3. ヘッダに対して、フォントの書式を選択します。太字 (Bアイコン) と斜体 (Iアイコン) を選択できます。

注：ここで行う設定は、ウェブサイトのフォントの基本的なルールのみを定義します。個々の要素のフォントは、それぞれの場所でいつでも変更することが可能です。

4. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **ウェブサイト要素のコーナーの形状を選択します(角または丸) :**

1. [デザイン] タブで [コーナー] タブを開きます。
2. [ページエリア] メニューで、形状を変更するコーナーを選択します。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - 角丸コーナーにするには、該当するチェックボックスをオンにしてください。
 - 四角コーナーにするには、該当するチェックボックスをオフにしてください。
4. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **ウェブサイト要素の枠線を選択する :**

1. [デザイン] タブで [枠線] タブを開きます。
2. ウェブサイト内の要素の枠線タイプを、[内部コンテナの枠線] メニューから選択します。
3. 枠線を設定する要素を選択します。

注：ウェブサイトのすべての要素に対して内部枠線のタイプを1つだけ選択できませんが、この枠線を使用するか否かは、個々の要素に対して設定可能です。

4. ウェブサイトの外枠を、[サイト外部の枠線] メニューから選択します。
5. [OK] をクリックして変更を保存します。

ウェブサイトのヘッダ要素を変更する

サイトヘッダは、次の要素から構成されています。

- **バナー**：バナーでは、以下の操作を実行できます。
 - 独自のバナー画像をアップロードする。
 - Web Presence Builder ライブラリからバナーを選択して適用する。
 - バナーを削除して、背景に色または画像を表示する。
 - ヘッダエリアからバナーとすべての要素を削除して、バナーの高さを 25 ピクセルに縮小する。
 - バナーをコンテンツエリアに移動し、特定のページまたはウェブサイトの全ページに挿入する。

注：1つのサイトで使用できるバナーは1つだけです。特定のページに挿入することを選択すると、ウェブサイト内の他のページに追加することはできません。このため、サイト共通エリアに配置することをお勧めします。

- **ロゴ画像**：ロゴでは、以下の操作を実行できます。
 - 独自のロゴ画像をアップロードする。
 - ヘッダエリアからウェブページ内の他の部分（サイドバーやコンテンツエリアなど）にロゴを移動する。
 - サイト共通エリアに、任意の数のロゴ画像を挿入する。
 - ロゴを削除する。
- **サイト名**：通常ここには、会社名またはサイトに関する短い説明（「John Doe のレシピ」など）が含まれます。
- **サイトスローガン**：通常ここには、サイトの説明または会社スローガンが含まれます。

➤ **バナーの画像またはヘッダのその他の要素（ロゴ、サイト名、スローガン）を変更するには：**

1. バナー画像をクリックします。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - Web Presence Builder ライブラリ内の画像を使用するには、**【以下から選択する：ライブラリ】** オプションを選択してから、**【画像リスト】** メニューで画像を選択します。適切な画像を探すには、**【推奨】** オプションを選択するか、入力ボックスにキーワードを入力してください。
 - 独自の画像を使用するには、**【以下から選択する：自分のファイル】** オプションを選択してから、**【参照】** をクリックし、使用したい画像を選択してください。GIF、JPEG、PNG 形式の画像ファイルのみを使用できます。幅は 900 ピクセル以内を推奨します。

- 画像を削除するには、[画像なし] オプションを選択し、ヘッダブロックの高さをピクセル単位で指定してください。
- 3. バナーのサイズをヘッダエリアに合わせるには、[画像サイズを合わせる] チェックボックスをオンにします。
- 4. [バナー要素を表示]の下で、ヘッダに表示する要素のチェックボックスをオンにします。
- 5. ロゴ画像を削除するか、独自のロゴをアップロードするには、ロゴ画像をクリックします。
- 6. サイト名またはスローガンを変更するには、ヘッダで該当フィールドをクリックし、必要に応じて変更を加えます。
ヘッダエリア内で、ウェブサイト名、説明、ロゴのブロックを自由に移動することができます。

バナーを削除した場合は、再び挿入することができます。

➤ バナーを挿入するには：

[モジュール] タブで [バナー] を選択し、サイト共通エリアにモジュールをドラッグします。

➤ ロゴ画像を挿入するには：

[モジュール] タブで [サイトロゴ] を選択し、サイト共通エリアにモジュールをドラッグします。新しいロゴ画像をアップロードし、左揃え、中央揃え、または右揃えに並べることができます。

コンテンツ：テキスト、表、画像、動画、フォーム、およびスクリプト

このセクションでは、サイトにコンテンツを追加したり、エディタのモジュールで提供される便利な機能を追加して拡張することができます。

ページにモジュールを追加する際は、現在のページのみに表示するか（ページ固有のモジュール）サイトの全ページに表示するか（サイト共通モジュール）を選択することができます。ただし、**検索、広告、サイトロゴ、ナビゲーション、ブレイドクラムの各モジュール**は例外となります。これらのモジュールを追加すると、ウェブサイトの全ページに表示されます。

- 現在のページのみに表示するには、[モジュール] タブの下でモジュールを選択し、「**ページ固有のエリア**」というテキストでマークされた任意のエリアにドラッグします。このようなエリアは、メインのコンテンツブロック内および各サイドバーの上部付近にあります。

コンテンツエリアを複数のカラムに分割していずれかのカラムにモジュールを挿入するには、コンテンツエリアの左端または右端にモジュールをドラッグするとモジュールが挿入されます。

- ウェブサイトのすべてのページにモジュールを表示するには、【モジュール】タブの下でモジュールを選択し、「サイト共通エリア」というテキストでマークされた任意のエリアにドラッグします。このようなエリアは、メインのコンテンツブロックの上と下、サイドバー内、ヘッダ、フッタにあります。

テキスト、表、ハイパーリンク、および画像

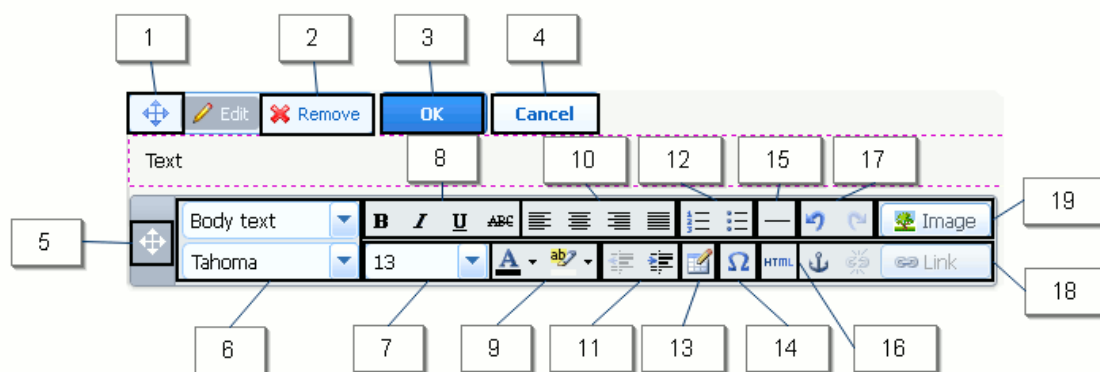
▶ ページにテキスト、リスト、表、または画像を追加するには：

1. 【モジュール】タブで【テキストと画像】を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
 - 現在のページにテキストと画像付きのブロックを追加するには、「ページ固有のエリア」というテキストでマークされた任意のエリアにモジュールをドラッグします。このようなエリアは、メインのコンテンツブロック内および各サイドバーの上部付近にあります。

コンテンツエリアを複数のカラムに分割していずれかのカラムにブロックを挿入するには、コンテンツエリアの左端または右端にモジュールをドラッグするとモジュールが挿入されます。

 - サイト内の全ページにテキストと画像付きのブロックを追加するには、「サイト共通エリア」というテキストでマークされた任意のエリアにモジュールをドラッグします。このようなエリアは、メインのコンテンツブロックの上と下、サイドバー内、ヘッダ、フッタにあります。
2. 画面にテキストを入力し、モジュールのツールバーにあるアイコンを使用して、テキストの書式設定や表、ハイパーリンク、画像の追加を実行します。

【テキストと画像】モジュールのツールバーから、以下のツールと機能を利用することができます。



1. ウェブページ内でテキストと画像のブロックを移動します。
2. ブロックをコンテンツごと削除します。
3. 変更を保存します。
4. 変更をキャンセルします。
5. ツールバーを移動します。
6. 段落スタイルとフォントを選択します。
7. フォントサイズを選択します。
8. フォントスタイルを選択します（太字、斜体、下線、取り消し線）。
9. テキストおよび背景の色を選択します。
10. テキストの並び方を、左揃え、中央揃え、右揃え、両端揃え（文字間にスペースを追加してテキストを左余白と右余白の両方に揃える）から選択します。
11. 段落のインデントレベルを増減します。
12. 番号または行頭文字を付けて箇条書きします。
13. 表を挿入し、行数と列数を指定します。

表を挿入すると、ツールバーにアイコンが追加されます。これらを使用して、表の行と列のプロパティを変更したり、行と列を挿入または削除したり、表内のセルを分割または結合することができます。
14. キーボードにない記号（著作権、商標など）やその他の Unicode 記号を挿入します。
15. 水平線を挿入します。
16. ページの HTML ソースコードを編集します。
17. 変更を元に戻すか、やり直します。
18. ウェブサイトまたは外部リソースのページにハイパーリンクを追加（または削除）します。ウェブページの特定のセクションに HTML アンカーを挿入し、サイトの他のページからリンクを張ることができます。
19. 画像の挿入、サイズの調整、代替テキストやテキストラッピングの指定ができます。ブラウザで画像の表示がサポートされない場合や、画像を表示しないように設定されている場合は、画像の代わりに代替テキストが表示されます。

1 ページに多数の画像を挿入する場合は、[テキストと画像] モジュールの代わりに [画像ギャラリー] モジュールの使用を検討してください。画像ギャラリーを使用すると、ローカルコンピュータから画像をアップロードしたり、Picasa ウェブアルバムの写真共有サービスで公開されている画像を使用することができます。

➤ **サイトに画像ギャラリーを追加し、画像をアップロードするには：**

1. [モジュール]タブで[画像ギャラリー]を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. モジュール設定の[画像ストレージ]タブで、画像を保存する場所を選択します。
 - 使用できる Picasa ウェブアルバムのアカウントがない場合は、Web Presence Builder オプションをオンにしておいてください。サイトで使用するすべての画像は、顧客アカウントに保存されます。
 - Picasa ウェブアルバムにアカウントがなく、Picasa に保存する画像をサイトで使用したい場合は、以下の手順に従ってください。
 - a. Picasa オプションを選択し、[画像ストレージ] タブのリンクをクリックして Google にサインインし、Web Presence Builder からアルバムへのアクセスを付与します。
 - b. 使用したい画像が含まれるアルバムを選択し、[アルバムを作成] をクリックして新しいアルバムを作成します。
 - c. ギャラリーから画像を削除したときに、Picasa ウェブアルバムからもこの画像が削除されるように Web Presence Builder を設定するには、[ギャラリーから削除するときに画像自体も削除する] チェックボックスをオンにしてください。

Web Presence Builder エディタを使用して画像ギャラリーに画像をアップロードすると、これらの画像は Picasa ウェブアルバムのアカウントに自動的にコピーされます。ギャラリーから画像を削除すると、[ギャラリーから削除するときに画像自体も削除する] オプションがオンの場合に限り、画像は Picasa ウェブアルバムから削除されます。

3. (オプションのステップ) 画像ギャラリーに表示される画像サムネイルのサイズを選択するには、[ギャラリーのプロパティ] タブをクリックしてサムネイルのサイズを選択します。
 - 小 (95 x 75 ピクセル)
 - 標準 (140 x 130 ピクセル) : これはデフォルト設定です。
 - 大 (170 x 170 ピクセル)
4. ギャラリーに画像を追加するには、[ここをクリックして画像をアップロードします] というテキストをクリックし、アップロードする画像を選択して、[OK] をクリックします。

複数の画像を選択して一括アップロードできます。サポートされる画像フォーマットは GIF、JPEG、PNG のみです。

1024 x 768 ピクセル以内に画像をサイズ変更することをお勧めします。
5. 画像のタイトルと説明を変更するには、対応するサムネイルをクリック、タイトルまたは説明をクリックして、テキストを編集します。

デフォルトテキスト全体を削除すると、公開後のサイトにこのテキストは表示されませんが、Web Presence Builder エディタでサイトを編集するには引き続き表示されます。


➤ ギャラリーから画像を削除するには：

画像サムネイル上にカーソルを置いて、[x] アイコンをクリックします。

画像ギャラリーをすべての画像ごと削除するには：画像ギャラリーブロックの上にカーソルを置いて、[削除] をクリックします。

➤ テキストにハイパーリンクまたはメールアドレスへのリンクを挿入するには：

1. リンクを設定するテキストを選択します。

2. [テキストと画像] モジュールのツールバーで、 アイコンをクリックします。

3. 以下のいずれかを実行します。

- サイト内の他のウェブページへのリンクを追加するには、[このサイトのページへのリンク] オプションを選択してください。[ページを選択する] メニューで、リンク先のウェブページを選択します。
- ウェブページへのリンクや他のサイト内のファイルへのリンクを追加するには、[他のサイトへのリンク] オプションをオンにして、アドレスを指定します。例えば「<http://example.com>」のように入力します。
- ドキュメントマネージャを使用して以前にアップロードしたドキュメントまたは他のダウンロード可能なファイル（「ドキュメントおよびその他のダウンロード可能なファイル（187ページ）」で説明）へのリンクを追加するには、[このサイト上のドキュメント] オプションをオンにして、ターゲットファイルを選択します。
- 送信先メールアドレスが事前設定された新しいメールメッセージを開くリンクを追加するには、[インターネット上のウェブページまたはファイルへのリンク] オプションを選択し、「mailto:<address>」と入力します。例えば「mailto:postmaster@example.com」のように入力します。

以下が可能です。

- メッセージの件名を事前定義します。例えば「mailto:postmaster@example.com?subject=My%20Subject」のように入力します。
- CC および BCC に受信者を追加します。例えば「mailto:postmaster@example.com?subject=My%20Subject&cc=address1@example.com&bcc=address2@example.com」のように入力します。

- メッセージ本文のテキストを事前定義します。例えば
「mailto:postmaster@example.com?subject=My%20Subject&body
=This%20is%20sent%20from%20your%20site!」のように入力します。

注：スペースは「%20」に置き換えてください。

4. [リンクの開き方:]メニューで、ターゲットページをどこで開くかを選択します。同じブラウザウィンドウまたはタブで開くか、新しいブラウザウィンドウまたはタブで開くかを選択できます。
5. [件名] ボックスに、リンク上にカーソルを置くと表示される説明を入力します。
6. [OK] をクリックします。

埋め込み動画

ウェブサイトのページに、YouTube (youtube.com)、Vimeo (vimeo.com)、MySpace (myspace.com)、Dailymotion (dailymotion.com) などの一般的な動画共有サイトにある動画クリップを埋め込むことができます。

➤ ウェブページに動画を挿入するには：

1. [モジュール]タブで[埋め込み動画]を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. 動画へのリンクを挿入するか、ファイル共有サイトでコードを取得した場合には[コード埋め込み]オプションを選択してコードを貼り付けてください。
3. [OK] をクリックします。

➤ 動画を削除するには：

動画の上にカーソルを置いて、[削除] をクリックします。

お問い合わせフォーム

サイト訪問者がサイトからメッセージを送信できるようにするには、お問い合わせフォームを追加することができます。

➤ コンタクトフォームを追加するには：

1. [モジュール]タブで[お問い合わせフォーム]を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. [設定] タブで、以下を指定してください。
 - 受信者のメールアドレス： メールアドレスは1つだけ指定できます。
 - メッセージの件名：
 - メッセージ送信ボタンに表示するテキストです。
3. フォームのフィールドを追加、移動、または削除するか、フィールドのラベルを変更するには、[フィールド] タブをクリックし、必要な変更を加えてください。
4. メッセージ送信時に表示される「メッセージが送信されました。ありがとうございました。」というデフォルトメッセージを変更するには、[返信] タブをクリックして新しいテキストを入力してください。
5. [OK] をクリックします。

➤ **コンタクトフォームを削除するには：**

フォームの上にカーソルを置いて、**[削除]** をクリックします。

ブログ

サイトでオンライン日記を更新するか、特定のテーマの記事を定期的に更新して日付順に表示するには、ブログを使用します。

ブログモジュールは、サブページを持たないファーストレベルのページのみに追加できます。ブログ記事には、テキスト、画像、埋め込みビデオ、およびスクリプトを使用できます。ブログ記事ごとに、検索エンジンに使用されるページ説明やメタ情報を別々に設定することができます。ブログ記事は **[ページ]** タブ (167ページ) には表示されません。

サイト訪問者がブログ記事にコメントできるようにするには、サイトへのコメント機能を提供する無料サードパーティサービスである Disqus に登録する必要があります。コメントは Disqus に保存されます。

➤ **ウェブページにブログを追加するには：**

1. **[モジュール]** タブで **[ブログ]** を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. モジュールプロパティで以下を指定します。
 - ページに表示する記事数
 - サイト訪問者がコメントを残すことが可能かどうか
3. **[OK]** をクリックします。
4. コメント機能を有効化するには、**[新しいブログ記事を投稿するにはここをクリックします]** リンクをクリックします。
5. 空白のブログ記事の一番下にあるグレーの情報ボックス内をクリックします。
6. Disqus に登録するには、**[登録]** ボタンをクリックします。登録フォームが、新しいブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
7. 以下を指定します。
 - サイトの URL、必要な名前、略称 (一意の ID) : このサイト ID (略称) は、ブログモジュールの設定でコメントを有効化するとき指定する必要があります。
 - コメントモデレータのユーザ名、パスワード、メールアドレスとパスワード: このメールアドレス宛に確認メッセージが送信されるので、有効なアドレスを指定するようにしてください。

8. **【続行】** をクリックします。
9. 言語やその他の設定を指定するには、**【続行】** をクリックします。
10. 登録フォームの最終ステップでは、アクションは不要です。Disqusサイトからログアウトします。
11. Disqusからの確認メッセージを受信メールボックスで確認します。このメッセージで、アドレス確認用のリンクをクリックします。
12. ブラウザウィンドウに戻ると、Web Presence Builderエディタでブログモジュールのプロパティが開きます。
13. **【登録時に受け取ったウェブサイトIDをこちらに入力してください】** というボックスに、Disqus登録のステップ7で指定したサイトIDを入力するか貼り付けます。
14. **【適用】** をクリックします。
15. **【OK】** をクリックします。

これで、ブログで訪問者からのコメントを受け付けることや、最初の記事を投稿することが可能になります。

➤ **ブログ記事を追加するには：**

1. ブログモジュールが含まれるウェブサイトページに進みます。
2. **【新しいブログ記事を投稿するにはここをクリックします】** リンク（**【新しい投稿のタイトル】** と表示される場合もあり）をクリックします。
3. 記事のタイトルとコンテンツを入力します。
記事の日付を変更するには、**【投稿 dd.mm.yy】** フィールド内をクリックし、カレンダーで日付を選択します。
記事が長く、多数のテキストブロック、画像、埋め込み動画が含まれている場合、ブログのメインページで、サイト訪問者に対してその一部（記事の冒頭）のみが表示されるように設定できます。これを設定するには、ブログ記事の編集時に、必要なエリアに区切り要素（「----- リストから除外するモジュールの上にドラッグしてください -----」という行を含む）を移動します。
4. **【OK】** をクリックします。
5. 検索エンジンの結果ページに表示されるページの詳細と検索エンジンでページの検索に使用される可能性があるキーワードを表示、編集、または削除するには、記事タイトルの右側の空白エリアをクリックし、**【SEO設定】** タブをクリックします。

注： **【記事リンク名】** は必須入力フィールドです。 **【メタ説明】** と **【メタキーワード】** はオプションフィールドです。1 ページに複数のキーワードを指定する場合は、スペースを使用せずにコンマでキーワードを区切ります。

6. ブログのメインページに戻るには、作成した記事の下の [戻る] リンクをクリックします。

➤ **ブログ記事を削除するには :**

1. ブログモジュールが含まれるウェブサイトページに進みます。
2. 記事タイトルの上にカーソルを置いて、[削除] をクリックします。
3. [はい] をクリックして削除を承認します。

➤ **ブログ記事を編集するには :**

1. ブログモジュールが含まれるウェブサイトページに進みます。
2. 記事タイトルをクリックします。
3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **ブログをすべての投稿コンテンツごと削除するには :**

1. ブログモジュールが含まれるウェブサイトページに進みます。
2. [新しいブログ記事を投稿するにはここをクリックします]リンクにカーソルを置き、[削除] をクリックします。
3. [はい] をクリックして削除を承認します。

コメント機能

サイト訪問者がウェブページにコメントを残せるようにするには、コメントモジュールを該当ウェブページに挿入する必要があります。

コメント機能には、すべてのコメントを保存および処理するサードパーティサービスである Disqus を利用します。訪問者がコメントを残せるようにするには、Disqus にアカウント登録し、コメントモジュールの設定にサイト ID を指定します。

複数のコメントモジュールを 1 つのウェブサイトには挿入することができます。このサイト上のすべてのコメントモジュールで同じサイト ID が使用されるため、1 つ目のコメントモジュールを挿入するときだけに、モジュール設定にサイト ID を指定してください。

➤ ウェブページにコメント機能を追加するには：

1. [モジュール] タブで [コメント機能] を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. Disqus でまだアカウントを登録していない場合は、[登録] ボタンをクリックします。登録フォームが、新しいブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
3. 以下を指定します。
 - サイトの URL、必要な名前、略称（一意の ID）：このサイト ID（略称）は、コメントモジュールの設定でコメントを有効化するとき指定する必要があります。
 - コメントモデレータのユーザ名、パスワード、メールアドレスとパスワード：このメールアドレス宛に確認メッセージが送信されるので、有効なアドレスを指定するようにしてください。
4. [続行] をクリックします。
5. 言語やその他の設定を指定するには、[続行] をクリックします。
6. 登録フォームの最終ステップでは、アクションは不要です。Disqus サイトからログアウトします。
7. Disqus からの確認メッセージを受信メールボックスで確認します。このメッセージで、アドレス確認用のリンクをクリックします。
8. ブラウザウィンドウに戻ると、Web Presence Builder エディタでコメントモジュールのプロパティが開きます。
9. [登録時に受け取ったウェブサイト ID をこちらに入力してください] というボックスに、Disqus 登録のステップ 3 で指定したサイト ID を入力するか貼り付けます。

10. [適用] をクリックします。

11. [OK] をクリックします。

顧客アカウントにウェブサイトを公開して訪問者からコメントを受け付けられるようになります。

コメントの追加と表示に加え、以下を実行することができます。

- コメントの編集
- コメントの削除
- コメントをスパムとしてマーク
- 特定ユーザのメールアドレスまたは IP アドレスを指定して、サイトへのコメント投稿を禁止する
- 設定の変更（コメントの外観、トラックバック用 URL の削除など）。これを行うには、www.disqus.com でアカウントにログインし、[Settings] タブに進みます。

➤ コメントを管理するには：

1. Disqusにサイト管理者としてログインします。これは、次のいずれかの方法で実行できます。
 - Disqus サイト (www.disqus.com) にアクセスしてログインする。
 - Web Presence Builder エディタで、コメントモジュールを設定したページを開き、[Add New Comment] フィールド内をクリックします。[Post as] ボタンをクリックし、左ナビゲーションパネルで [Disqus] リンクをクリックして、ユーザ名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。
2. Disqusにログイン後、以下のいずれかの方法でコメントを管理することができます。
 - Disqus サイトで、[Dashboard] エリアおよび [Admin] エリア内のアイテムを使用する。
 - Web Presence Builder エディタまたは公開済みのサイトで、コメントモジュールを設定したページに進み、管理したいコメントの上にカーソルを置き、コメントの横に表示される [Moderate] リンクを使用します。

あるいは、サイトへのコメントが投稿されたときに Disqus から送信される通知メッセージ内のリンクを使用して、コメントを管理することができます。

➤ ウェブページからコメント機能を削除するには：

1. Web Presence Builder エディタで、コメントモジュールが含まれるウェブページに進みます。
2. [Add New Comment] フィールドの上にカーソルを置いて、[Remove] をクリックします。

3. [Yes] をクリックして削除を確認します。

ドキュメントおよびその他のダウンロード可能なファイル


エディタに、顧客アカウントの下でファイルの操作を実行できる便利なコントロールパネルが用意されています。ドキュメント、画像、その他のファイルを各種形式でエディタにアップロードし（[ドキュメント] タブ）、ウェブサイトのページにこれらへのリンクを挿入することができます。あるいは、独自のニーズのために、顧客アカウントに保存だけすることも可能です

➤ 顧客アカウントにファイルをアップロードするには：

1. [ドキュメント] タブに進みます。
2. [アップロード] をクリックします。
3. ファイルを選択して [開く] をクリックします。

これで、サイト訪問者がこのファイルをダウンロードできるように、ウェブページにリンクを挿入できます。

➤ ファイルにリンクを挿入するには：

1. リンクを設定するテキストを選択します。
2. テキストと画像モジュールのツールバーで、 アイコンをクリックします。
3. [このサイト上のドキュメント] オプションを選択します。
4. ファイルを選択して [OK] をクリックします。

➤ 顧客アカウントからファイルを削除するには：

1. [ドキュメント] タブに進みます。
2. ファイルを選択して、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

ソーシャルネットワークでの共有用のボタン

訪問者がソーシャルネットワークまたはオンラインブックマークサービスでコンテンツを簡単に共有できるように、Facebook、Twitter、Myspace などの人気サービスの共有ボタンが含まれるツールバーをサイトに挿入することができます。

➤ ウェブページに「ソーシャルメディアで共有」ツールバーを追加するには：

1. [モジュール]タブで、[Social Sharing]を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. ツールバーの外観を選択します。
3. ツールバーに含まれるソーシャルネットワークと共有サービスを変更するには、[+] アイコンの上にカーソルを置いて [設定] リンクをクリックします。
サービスのリストに加えた変更は、サイトの公開後に表示されるようになります。
4. [OK] をクリックします。

ソーシャルメディアツールバーを削除するには： ツールバーの上にカーソルを置いて、[削除] をクリックします。

Site Search

訪問者がウェブサイト内の情報を検索できるように、サイトに検索バーを追加することができます。ウェブページに検索バーを挿入すると、サイト内の全ページに自動的に追加されます。

デフォルトで、検索バーは Google 検索エンジンを使用するように構成されています。他の検索エンジンを使用したい場合、検索スクリプトコードを入手して、**検索**モジュールに挿入することができます。

➤ サイトに検索バーを追加するには：

1. [モジュール]タブで[検索]を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - Google の検索サービスを使用する場合、[Google] オプションをオンのまま残してください。
 - 他の検索エンジンを使用したい場合、[その他]を選択し、使用するサービスから入手したコードを貼り付けます。
正しいコードを挿入するように注意してください。Web Presence Builder による検証は行われません。
3. [OK] をクリックします。

公開後、サイトに検索バーが表示されます

➤ 検索バーを削除するには：

検索バーの上にカーソルを置いて、[削除] をクリックします。

オンラインストア

サイトで製品またはサービスを販売したい場合、**オンラインストア**および**ショッピングカート**モジュールを使用して、完全な機能が用意されたオンラインストアをサイトに追加することができます。1つのサイトに追加できるストアは1つだけです。

ストア機能は、サードパーティ SaaS ソリューションプロバイダである Ecwid が提供するものです。製品カタログ、画像、注文、顧客の支払いなど、すべてのデータが安全に保存および処理されます。

➤ サイトにオンラインストアを追加するには：

1. [モジュール]タブで[オンラインストア]を選択し、ページにモジュールをドラッグします。

2. Ecwidのアカウントがない場合はアカウントを新規作成し、Web Presence BuilderでEcwidのストアを作成済みでありサイトに表示したい場合は、既存のストアのIDを指定してください。

Ecwidのアカウントがない場合は、以下を実行してください。

- a. モジュール設定の【一般】タブで、【Ecwidに登録】オプションを選択します。
- b. 名前、メールアドレス、パスワードを入力します。メールアドレスとパスワードは、Ecwidへのサインインとストアの管理に使用します。
- c. 【送信】をクリックします。指定メールアドレスに、Ecwidから確認メッセージが送信されます。このメールアドレスの所有者であることを3日以内に確認しなければ、オンラインストアは無効化されます。

Ecwidアカウントが既にある場合、【既存のショップのIDを入力してください】オプションを選択し、アカウント登録時に入力したストアIDとメールアドレスを指定して、【適用】をクリックしてください。

3. (オプションのステップ) 顧客がショッピングバッグアイコンにアイテムをドラッグすることによってカートにアイテムを追加できるようにするには、【モジュール】タブでショッピングカートモジュールを選択し、ページにドラッグします。

ショッピングバッグアイコンはサイト内の全ページに挿入されます。全ページに挿入したくない場合は、ショッピングカートモジュールを使用しないでください。このモジュールを使用しなくても、顧客はカートにアイテムを追加し、製品カタログエリアの上部に表示される【ショッピングバッグ】リンクを使用してチェックアウトすることができます。

4. (オプションのステップ) 製品カタログの外観を変更するには、モジュール設定で【表示】タブに進みます。

5. ストアをセットアップするには、製品カタログにアイテムを入力し、Ecwidによってデフォルトで追加されている野菜と果物のアイテムを削除して、モジュールのツールバーで【管理】リンクをクリックします。新しいブラウザウィンドウまたはタブで、Ecwidコントロールパネルが開きます。

6. Ecwidコントロールパネルでストアのセットアップが完了したら、Web Presence Builderエディタに戻り、オンラインストアモジュールのツールバーで【再読み込み】リンクをクリックします。

オンラインストアのコンテンツをEcwidのオンラインストアと同期化するためには、【再読み込み】リンクを使用する必要があります。

7. 【OK】をクリックして、ストアのセットアップを終了します。

➤ **ストアを管理するには：**

製品カタログの上にカーソルを置いて、**【管理】** をクリックします。新しいブラウザウインドウまたはタブで、Ecwid コントロールパネルが開きます。

注： サイトの公開後は、新しい注文についての情報をダッシュボード（202ページ）でも参照できます。

➤ **ストアを削除するには：**

製品カタログの上にカーソルを置いて、**【削除】** をクリックします。

カスタムスクリプト

PHP、JavaScript、または VBScript で記述したカスタムスクリプトを、ウェブサイトの任意のページに挿入することができます。

➤ **ウェブページにスクリプトを挿入するには：**

1. **【モジュール】** タブで **【スクリプト】** を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. 入力フィールドにコードを貼り付けます。

PHP の場合、開始タグ「`<?php`」を使用します。このフィールドに正しいコードを挿入するように注意してください。Web Presence Builder による検証は行われません。

3. **【OK】** をクリックします。

コードは、公開したウェブサイトのみで有効です。

➤ **スクリプトを削除するには：**

スクリプトブロックの上にカーソルを置いて、**【削除】** をクリックします。

広告

バナーエクスチェンジやその他のオンライン広告プログラムに参加している場合、サイトに広告ブロックを追加することができます。ウェブページに広告ブロックを挿入すると、サイト内の全ページに自動的に追加されます。

➤ **広告ブロックを追加するには：**

1. **【モジュール】** タブで **【広告】** を選択し、ページにモジュールをドラッグします。
2. 入力フィールドに広告ベンダーから入手したコードを貼り付けます。

このフィールドに正しいコードを挿入するように注意してください。Web Presence Builder による検証は行われません。一部の広告ベンダーの場合、最初にアカウント認証を行う必要があります。

3. [OK] をクリックします。

公開するとウェブサイトに広告が表示されます。

➤ 広告ブロックを削除するには：

ブロックの上にカーソルを置いて、**[削除]** をクリックします。

第 9 章

ウェブマスター用の設定とツール

このセクションでは、以下を実行する方法を説明します。

- ウェブサイトの名前、説明、キーワードを変更する。
- ウェブサイトのサイトアイコン（ファビコン）をアップロードする。
- 検索結果でウェブサイトがより上位にランクされるようにし、各種検索エンジンサービスを埋め込む。
- ウェブサイト内の特定のページやエリアが検索エンジンによってインデックスされ、検索結果に表示されないようにする。

➤ ウェブサイトの名前、説明、キーワードを編集するには：

1. [設定] タブ > [ベーシック] タブの順に進みます。
2. ウェブサイト訪問者のブラウザウィンドウでタイトルとして表示されるウェブサイト名を指定します。
3. ブラウザのタイトル部分に、ウェブサイト名と現在のページの名前を両方表示し、検索エンジンの検索結果でウェブサイトのランクを上げるためには、[ページタイトルにウェブサイト名を追加する] チェックボックスをオンにしてください。
4. ウェブサイトの簡単な説明（最大255文字）を追加します。
これは、新しいページのデフォルトの説明として使用されます。検索エンジンの検索結果にウェブサイトが表示される際は、この説明が表示されます。
5. ウェブサイトについて説明するキーワードのリストを入力してください（10～15個のキーワードを指定することを推奨します）。
これらのキーワードは、新しいページのデフォルトキーワードとして使用されます。検索エンジンはキーワードを解析することにより、これらのキーワードで検索した人に対して該当するウェブサイトを表示します。
6. [OK] をクリックして変更を保存します。

ファビコンとは、ウェブサイトを訪れるとブラウザのアドレスバーに表示される小さなアイコンであり、お気に入りブックマークのリストでもウェブサイト名の横に表示されます。各種オンラインツールを使用してファビコンを作成し、Web Presence Builder エディタにアップロードすることができます。このファビコンは、すべてのウェブサイト訪問者に対して表示されます。

➤ ウェブサイトのファビコンをアップロードするには：

1. [設定] タブ > [ベーシック] タブの順に進みます。

2. **[参照]** をクリックして、アップロードするファビコンの場所を選択します。ファビコンがアップロードされます。
3. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

➤ **ウェブサイトからファビコンを削除するには：**

1. **[設定]** タブ > **[ベーシック]** タブの順に進みます。
2. **[ファビコン]** セクションで **[削除]** をクリックします。ファビコンが削除されます。
3. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

大部分の検索エンジンでは、ウェブサイト登録時やウェブマスター支援サービスのサインアップ時に、ウェブサイトの所有者であることを証明することが要求されます。通常は、特定のファイル名のファイルをアップロードまたは作成すれば証明が完了します。

➤ **ウェブサイトの所有者であることを証明するには：**

1. **[設定]** タブ > **[拡張]** タブに進みます。
2. 証明ファイルを提示します。
 - 検索エンジンが要求する証明ファイルの名前を知っている場合は、**[証明ファイルを作成する]** フィールドに証明ファイル名を入力し、**[OK]** をクリックします。Web Presence Builder によって、適切な場所にファイルが作成されます。
 - 証明ファイルを検索エンジンからダウンロード済みであれば、証明ファイルを **[証明ファイルをアップロードする]** フィールドにアップロードし、**[OK]** をクリックします。
3. 証明ファイルの作成またはアップロードが完了し、ウェブサイトが公開済みであれば、検索エンジンのウェブサイトですべて所有者であることを確認します。
4. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

➤ **ウェブサイトの HTML <head> セクションを編集するには（例えば、所有者認証用メタコードの追加）：**

1. Web Presence Builder のメインメニューで **[設定]** タブに進み、**[拡張]** サブタブに進みます。
2. **[メタデータを変更]** をクリックします。
3. フィールドにコードを入力し、**[追加]** をクリックします。

注： HTML 規格で <head> セクションに許可されている有効な HTML タグのみがサポートされています。メタデータの変更は、ウェブサイトを公開しなければ実行できません。

4. [OK] をクリックして変更を保存します。

Google Analytics とは、訪問者に関する情報を収集するためのツールです。Google Analytics に登録して必要コードを取得すると、ウェブサイトに Google Analytics を埋め込むことができます。

➤ **Google Analytics を埋め込むには：**

1. Google Analytics サービスに登録し、コードを入手します。
2. [設定] タブ> [拡張] タブに進みます。
3. [Google Analytics を組み込む] をクリックします。
4. Google Analytics から提供されたコードをフィールドに入力し、[追加] をクリックします。

注： Google Analytics はウェブサイトを公開しなければ機能しません。

5. [OK] をクリックして変更を保存します。

一部の検索エンジンでは、解析と最適化のためにサイトマップを提供する必要があります。Web Presence Builder エディタからサイトマップをダウンロードすることができます。

➤ **ウェブサイトのサイトマップをダウンロードするには：**

1. [設定] タブ> [拡張] タブに進みます。
2. [サイトマップをダウンロードする] をクリックします。
3. [OK] をクリックして、sitemap.xml ファイルのダウンロードを開始します。

ウェブサイトの特定のページが検索エンジンにインデックスされないようにするには、robots.txt ファイルに適切なディレクティブを追加します。このファイルは、サイトの公開先である顧客アカウントに保存されています。

➤ **ウェブサイト内の特定のエリアが検索エンジンにインデックスされないようにするには：**

1. [設定] タブ> [拡張] タブに進みます。
2. [robots.txt を編集] リンクをクリックします。

3. 入力フィールドにディレクティブを入力します。各ディレクトリは1行ずつ入力します。

例えば、顧客アカウントの `/private` ディレクトリと `/my_secret.html` ファイルのコンテンツが、すべての検索エンジンロボットおよびクローラによってインデックスされないようにするには、次の行を追加します。

```
User-agent:*  
Disallow:/private/  
Disallow:/my_secret.html
```

robots.txt ファイルの詳細および使用できるディレクティブについては、<http://www.robotstxt.org/robotstxt.html>を参照してください。


ウェブサイトのコピーの保存および読み込み

ウェブサイトのコンテンツとデザインに関する作業時に、各サイトの複数のコピーをサーバに保存し、保存したコピー（別名「スナップショット」からサイトを復元することができます。サイトコピーの保存は、以下の場合に便利です。

- 同じウェブサイトを複数バージョン用意して、後でレビュー用に読み込み、最も優れたデザインや最も適切なバージョンを選んでインターネットに公開する。
- サイトデザインまたはコンテンツに大幅な変更を加えるか実験を行う際に、問題発生時に安全に元に戻せるようにする。

注： [画像ギャラリー] モジュール内の写真は、スナップショットには保存されません。画像は顧客アカウントまたは Picasa ウェブアルバム（このオプションを使用する場合）に保存されます。


➤ サイトの現在のデザインおよびコンテンツを保存するには：

1. Web Presence Builder エディタのメインメニューで [保存] オプションの横の  アイコンをクリックします。

注： [保存] をクリックすると、簡易保存サイトコピーが「自動保存されたスナップショット」という名前で保存されます。メインメニューで [元に戻す] をクリックすることにより、後でこのコピーからサイトを復元することができます。

2. 表示されるリストから、空き保存スロットを選び、バックアップコピーの名前を入力し、[保存] をクリックします。



➤ 保存したコピーからサイトを復元するには：

1. Web Presence Builder エディタのメインメニューで [元に戻す] オプションの横の  アイコンをクリックします。



注： [元に戻す] をクリックすると、前回 [保存] をクリックして作成した簡易保存コピーからサイトが復元されます。

2. 表示されるリストで、サイトコピーを選択し、[読み込み] をクリックします。
3. [はい] をクリックして復元を確認します。



➤ サイトコピーをダウンロードするには：

1. Web Presence Builderエディタのメインメニューで [保存] オプションの横の  アイコンをクリックします。
2. ダウンロードするコピーを探し、 (ダウンロード) アイコンをクリックします。
3. ファイルの保存先としてコンピュータ上のディレクトリを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **サイトコピーをアップロードするには :**

1. Web Presence Builderエディタのメインメニューで [元に戻す] オプションの横の  アイコンをクリックします。
2. コピーのアップロード先とするスロットの横の  (アップロード) アイコンをクリックします。
3. サイトスナップショットファイル (SSB形式) をブラウズし、選択します。
4. アップロードしたスナップショットからサイトを復元するには、これを選択して [読み込み] をクリックします。

➤ **サイトコピーを削除するには :**

1. Web Presence Builderエディタのメインメニューで [保存] オプションの横の  アイコンをクリックします。
2. 削除するサイトコピーを探して、対応する  (削除) アイコンをクリックします。

インターネット上にウェブサイトを公開する

ウェブサイトのデザインとコンテンツをインターネットに公開する準備ができたなら、メインメニューの右上隅にある【公開】をクリックします。Web Presence Builder によって、ホスティングプロバイダに指定された場所にウェブサイトが自動的に公開されます。

Facebook にウェブサイトのコピーを公開する

インターネット上にサイトを公開してから、Facebook (www.facebook.com) などの主要ソーシャルネットワークサイトにサイトのコピーを公開して訪問者を増やすことができます。

Facebook 上のサイトコピーには、サイトのほとんどのコンテンツが表示されますが、デザインとレイアウトには次のような変更が適用されます。

- ヘッダ、サイドバー、およびフッタは表示されません。
- ナビゲーションメニューはサイトページの上部のみに表示されます。
- ページの幅は 520 ピクセル以内に制限されます。これより広いページの場合、水平スクロールバーが表示されます。
- フォントの種類、サイズ、および色は、サイト所有者がこれらのフォントプロパティを Web Presence Builder エディタで明示的に選択していない限り、Facebook デザインに従って変更されます。
- 画像ギャラリー、オンラインストア、ソーシャルメディアサイトでの共有用リンクは表示されません。

➤ Facebook にサイトコピーを追加するには :

1. メインメニューで、**【設定】** タブ > **【ソーシャルメディア】** タブの順にクリックします。
2. **【Facebook にサイトのコピーを表示する】** チェックボックスをオンにしておきます。
3. **【Facebook にサイトのコピーを追加する】** リンクをクリックします。Facebook ホームページが新しいブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
4. Facebook アカウントにログインするには、メールアドレスおよびパスワードを入力し、**【ログイン】** をクリックします。
5. サイトコピーを表示する Facebook ページがない場合は、これを作成してください。作成するには、**【Create It Now】** をクリックして、画面の指示に従います。ページが作成されたら、別のブラウザウィンドウまたはタブに表示される **【Parallels Web Presence Builder at Facebook】** ページに戻ります。

6. [Add Parallels Web Presence Builder Application] をクリックします。このアプリケーションは、ホスティングアカウント上のウェブサイトと Facebook上のサイトコピーの間の同期を行います。
7. ページへのアプリケーション追加を確認するには、[Add Parallels Web Presence Builder] をクリックしてください。

サイトコピーが追加されます。これを表示するには、左側の Facebook のナビゲーションペインで [ウェブサイト] リンクをクリックしてください。

サイトに変更を加え、Web Presence Builder エディタで再公開すると、Facebook 上のサイトコピーがこれに従って更新されます。

➤ **Facebook からサイトコピーを削除するには :**


1. Web Presence Builder エディタのメインメニューで、[設定] タブ > [ソーシャルメディア] タブの順にクリックします。
2. [Facebook にサイトのコピーを表示する] チェックボックスをクリアします。
3. 確認のため [はい] をクリックします。
4. Facebook ページで、Web Presence Builder アプリケーションを削除します。

ダッシュボードでサイトの訪問統計、コメント、新規注文を確認する

サイトの公開後、Web Presence Builder のメインメニューからダッシュボードにアクセスし、以下の作業を実行できます。

- ウェブサイトの訪問統計を参照する。統計は、Google Analytics によって提供され、ウェブサイト設定で Google Analytics のコードを指定すると利用可能になります。詳しくは「ウェブマスター用の設定とツール (193 ページ)」を参照してください。
- ウェブサイトのページに訪問者が残した新しいコメントを参照する。コメントは、コメント機能をセットアップするとダッシュボードに表示されます。詳しくは「ブログ (182 ページ)」および「コメント機能 (185 ページ)」のセクションを参照してください。
- オンラインストアを訪問した顧客からの新しい注文を参照する。新しい注文は、オンラインストアをセットアップするとダッシュボードに表示されます。詳しくは「オンラインストア (189 ページ)」のセクションを参照してください。

➤ ウェブサイト訪問統計を表示するには：

1. メインメニューで [ダッシュボード] をクリックします。
2. ダッシュボードへの初回アクセス時に、Google Account とサイトの関連付けを確認してください。
 - a. [Google Analytics へのログイン] をクリックします。
 - b. Google Account にログインします。
 - c. アカウントへのアクセスを許可することを確認します。
3. [ウェブサイト訪問の統計] チャートの下で、[チャートをもっと見る] リンクまたは  アイコンをクリックします。

[概要] セクションに、過去 30 日間の以下の統計が表示されます。


 - [プロファイルレポート] の下で現在選択されている指標についての詳細なチャート。
 - 過去 30 日間の合計訪問数。
 - 新規訪問数。
 - ユーザの平均サイト滞在時間。
 - ページビューの合計数。
 - 訪問ごとの平均ページビュー数。

- 新規訪問率。


【トラフィックソースの概要】のセクションには、過去 30 日間の訪問者の訪問元ウェブサイトアドレスが表示されます。（直接）アイテムは、ブラウザでアドレスを直接指定してサイトにアクセスした訪問者の割合を示します。

【訪問者のロケーション】セクションには、過去 30 日間の訪問者の地理的ロケーションが表示されます。

➤ **サイト訪問者によるコメントを表示するには：**

1. メインメニューで [ダッシュボード] をクリックします。
2. [コメント] の下で、[ここで見える] リンクまたは  アイコンをクリックします。
3. コメントが残されたウェブページを開くには、[コメントへのリンク] をクリックします。
4. Disqusサイトでコメントを管理するには、[コメント管理] をクリックします。

➤ **オンラインストアを訪問した顧客からの注文を表示するには：**

1. メインメニューで [ダッシュボード] をクリックします。
2. [注文] の下で、[ここで見える] リンクまたは  アイコンをクリックしてから、[注文] タブをクリックします。
3. Ecwidサイトで注文を処理するには、[注文管理] をクリックします。

ウェブサイトを削除する

Web Presence Builder エディタからサイトを削除すると、エディタで開いている最新のサイトドラフトと保存済みのサイトコピー（スナップショット）のみが削除されます。ホスティングアカウントに公開されたサイトコピーは削除されません。

➤ **最新のサイトコピーをエディタから削除するには：**

Web Presence Builder エディタのメインメニューで、[その他] > [サイトを削除する] の順に選択します。

ウェブサイトへの FTP アクセス

ウェブサイトコンテンツ更新の最も簡単な方法は、FTP 経由でのアップロードです。FTP（ファイル転送プロトコル）とは、2つのホスト（たとえば自分のコンピュータと Panel サーバ）間でファイルを転送するための標準ネットワークプロトコルです。Panel が FTP サーバとなり、ユーザは任意の FTP クライアントを使用してサーバ上のディレクトリにアクセスします。Panel は、次のようにあらゆる FTP 機能を備えています。

- **サーバへの認証付きのアクセス**：詳しくは、「**FTP アクセスクレデンシアルを変更する**（205ページ）」のセクションを参照してください。
- **複数ユーザアカウントによるコラボレーション**：詳しくは、「**FTP アカウントを追加する**（206ページ）」のセクションを参照してください。
- **匿名 FTP アクセス**：ソフトウェアアップデートを共有するためなどに使用できる、認証なしのアクセスです。詳しくは、「**匿名 FTP アクセスをセットアップする**（208ページ）」のセクションを参照してください。

FTP アクセスクレデンシアルを変更する

➤ **FTP アカウントのユーザ名またはパスワードを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースにアクセスできる場合、画面上部にある **[契約]** メニューで、ウェブサイトがホスティングされているウェブスペースを選択してください。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. **[ウェブホスティング設定]** をクリックします。
4. 新しいユーザ名またはパスワードを入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

FTP アカウントを追加する

自社のウェブサイトで他のユーザと共同作業したり、他のユーザにサブドメインをホスティングする場合、他のユーザのために個別のFTPアカウントを作成すると便利です。

➤ **追加のFTPアカウントを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. **【FTPアクセス】** をクリックします。
4. **【追加FTPアカウント】** タブで **【追加FTPアカウントを作成する】** をクリックします。
5. 以下を指定します。
 - **FTPアカウント名**：任意の名前を入力します。
 - **ホームディレクトリ**：ユーザがFTPアカウントに接続すると表示されるディレクトリを選択します。
 - **FTPパスワード**：
 - **ハードディスククォータ**（Windows ホスティング）：サーバ上でFTPユーザが占有できるディスク容量を制限するには、**【ハードディスククォータ】** ボックスの横の **【無制限】** チェックボックスをオフにして、ディスク容量をメガバイトで入力します。
 - **読み取りパーミッション**（Windows ホスティング）。ホームディレクトリのコンテンツを参照し、そこからファイルをダウンロードする権限をFTPユーザに与えるには、**【読み取りパーミッション】** チェックボックスをオンにします。
 - **書き込みパーミッション**（Windows ホスティング）。ホームディレクトリでディレクトリの作成/表示/名前変更/削除を行う権限をFTPユーザに与えるには、**【書き込みパーミッション】** チェックボックスをオンにします。

Windows ホスティングでは、パーミッションを付与しないと、FTPアカウントへの接続が確立されても、ユーザにホームディレクトリのコンテンツが表示されません。
6. **【OK】** をクリックします。

➤ **追加FTPアカウントのプロパティを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [FTPアクセス] をクリックします。
4. [追加FTPアカウント] タブのリストで、必要なFTPアカウント名をクリックします。
5. 必要な変更を行い、 [OK] をクリックします。

➤ **追加FTPアカウントを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [FTPアクセス] をクリックします。
4. [追加FTPアカウント] タブで削除するアカウントのチェックボックスをオンにし、 [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。

匿名 FTP アクセスをセットアップする

他のユーザやサイトと IP アドレスを共有せず、専用 IP アドレスでサイトをホスティングしている場合、他のユーザが FTP 経由でファイルを匿名でダウンロードまたはアップロードできるディレクトリをサイト内にセットアップすることができます。匿名 FTP をオンにすると、ユーザは「ftp://ftp.your-domain.com」などのアドレスを持つディレクトリに「anonymous」というユーザ名と任意のパスワードを使用してログインできるようになります。

➤ 匿名 FTP アクセスを許可するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [FTPアクセス] をクリックします。
4. [匿名FTP] タブをクリックします。
5. 以下を実行してください。
 - a. 匿名FTPサービスを有効にするには、[スイッチオン] をクリックします。
 - b. ユーザがFTPサイトにログインすると表示されるウェルカムメッセージを設定するには、[ログインメッセージを表示する] チェックボックスをオンにして、入力フィールドに任意のメッセージテキストを入力します。

すべての FTP クライアントでウェルカムメッセージが表示されるわけではありません。
 - c. サイトの訪問者に /incoming ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、[受信ディレクトリへのアップロードを許可する] チェックボックスを選択します。
 - d. ユーザに /incoming ディレクトリでのサブディレクトリの作成を許可するには、[受信ディレクトリでのディレクトリ作成を許可する] チェックボックスをオンにします。
 - e. /incoming ディレクトリからのファイルのダウンロードを許可するには、[受信ディレクトリからのダウンロードを許可する] チェックボックスをオンにします。

- f. アップロードするファイルが占有できるディスク容量を制限するには、**【受信ディレクトリのディスク容量を制限する】**オプションに対して**【無制限】**チェックボックスをクリアし、容量をキロバイトで指定します。

これがハードクォータです。この制限に達すると、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。
 - g. 匿名FTPサーバに同時接続できる数を制限するには、**【同時接続の数を制限する】**オプションに対して**【無制限】**チェックボックスをオフにし、許可される接続数を指定します。
 - h. 匿名FTP接続の帯域幅を制限するには、**【この仮想FTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する】**オプションに対して**【無制限】**チェックボックスをクリアし、最大帯域幅をキロバイト毎秒で入力します。
6. **【OK】** をクリックします。

➤ **匿名FTPサービスを設定変更するか、無効にするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. **【FTPアクセス】** をクリックします。
4. **【匿名FTP】** タブをクリックします。
5. 必要な操作を実行します。
 - 必要に応じて設定を調整し **【OK】** をクリックします。
 - 匿名FTPサービスを無効にするには、**【スイッチオフ】** をクリックします。

メール

コントロールパネルでメールアカウントを作成または削除したり、メール転送をセットアップしたり、スパムやウイルスからの防御を設定することなどができます。メールサービスの構成について詳しくは、「**メールを構成する**（211ページ）」のセクションを参照してください。

複数のメールアドレスをニュースやプロモーションの配信に使用したり、グループディスカッションをセットアップするには、メーリングリストのセットアップを検討してください。これは、複数のユーザが登録されているメールアドレスです。詳しくは、「**メーリングリストを使用する**（220ページ）」のセクションを参照してください。

メールアドレスを追加する

➤ **メールアドレスを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[メール]** タブをクリックします。
3. **[メールアドレスの作成]** をクリックします。
4. メールアドレスの @ 記号の左側部分を入力し、（アカウントに複数のドメイン名がある場合は）メールアドレスを作成するドメイン名を選択します。
5. **[メールボックス]** チェックボックスはオンにしておきます。
このチェックボックスは、受信メールを他のアドレスに転送するメールフォワーダとしてこのアドレスを使用する場合に限ってオフにしてください。
6. メールボックスのサイズを指定するか、プロバイダのポリシーまたはサービスプランに定義されているデフォルトサイズを使用します。
7. 半角アルファベット5文字以上のパスワードを入力します。
8. **[OK]** をクリックします。

➤ **メールアドレスを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブをクリックします。
3. 削除するメールアドレスに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
4. 削除を確認して、[はい] をクリックします。

メールを構成する

Panel では、次の 2 つのレベルでメールサービスを構成できます。

- **メールアカウント設定の構成:** これらの設定は、メールアカウントのみに影響します。たとえば、受信メッセージの転送先や、スパムの可能性があるメールの処理方法などです。メールアカウントに対して可能なオペレーションについては、「**メールアカウントを構成する (212 ページ)**」のセクションを参照してください。
- **グローバルなメール設定の構成:** これらは、契約内のすべてのメールボックスに影響する契約全体の設定です。たとえば、Panel で使用するウェブメールシステムや、存在しないユーザに送信されたメールの処理方法などです。ただし、ホスティングプランによっては、これらの設定を使用できない場合があります。グローバルなメール設定を変更する方法は、「**(高度)メールのグローバル設定を構成する (219 ページ)**」のセクションを参照してください。

メールアカウントを構成する

プロバイダのポリシーで、コントロールパネルでのメールアカウントとサービスのセットアップが許可されている場合、次のメールサービスをセットアップして使用できます。

- 顧客のドメイン名に関連付けられたメールボックス。
- メールエイリアス： ユーザのプライマリ（メイン）メールアドレスに関連付けられている追加のメールアドレス。メールエイリアスは、インターネット上で公開できる一時的なアドレスとして使用できます。メールエイリアスとして設定しているアドレスにスパムが届くようになった場合は、エイリアスを削除して別のエイリアスを作成できます。
- メール転送： 各メールアカウントに対して、すべての受信メールのコピーを別のメールアドレスに送信するメール転送サービスをセットアップできます。
- 自動返信： 各メールアカウントに対して、あらかじめ定義したメッセージをすべての受信メールに返信する自動返信機能をセットアップできます。これは、不在時に「外出中」や「休暇中」などの通知を送信する場合に便利です。
- スпамからの保護： 各メールアカウントに対し、アンチスパムフィルタによるすべての受信メッセージのチェックをセットアップすることができます。さらに、スパムと見なされたメッセージの処理方法（削除、特別なフォルダに移動、またはメッセージ件名にテキストを追加）を指定できます。
- ウイルス保護： Panel では、すべての送受信メールに対してウイルスチェックを実行できます。

メール転送をセットアップする

➤ メールアドレスにメール転送をセットアップするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メールアドレス] > [転送] タブに進みます。
3. [メール転送を有効にする] チェックボックスをオンにします。
4. メールの転送先とするメールアドレスを1つ以上指定します。複数のメールアドレスを指定する場合は、スペース、コンマ、セミコロンで区切るか、改行してください。
5. [OK] をクリックします。
6. 転送したメッセージのコピーをメールボックスに残したくない場合は、[メール] タブで [メールアドレス] に進み、[メールボックス] チェックボックスをオフにして、[OK] をクリックしてください。

➤ メール転送を無効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メールアドレス] > [転送] タブに進みます。
3. [メール転送を有効にする] チェックボックスをオフにして、[OK] をクリックします。

メールエイリアスを作成する

- **メールアカウントの追加メールアドレス（メールエイリアス）を追加または削除するには：**
1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
 2. 【メール】タブで **[メールアドレス]** > **[メールエイリアス]** タブに進みます。
 3. 以下のいずれかを実行します。
 - アドレスを追加するには、**[メールエイリアス]** ボックスに入力し、**[OK]** をクリックします。
 - アドレスを削除するには、削除するアドレスの右側の**[削除]** リンクをクリックします。

自動返信をセットアップする

➤ メールアドレスに自動返信をセットアップするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【メール】** タブで **【メールアドレス】** > **【自動返信】** タブに進みます。
3. **【自動返信を有効にする】** チェックボックスをオンにして、次の設定を指定します。
 - **自動返信メールの件名。**
 - **メッセージフォーマット。** 受信者によっては、HTML 形式のテキストを表示できないため、**【テキスト形式】** オプションを選択しておくことをお勧めします。
 - **エンコード。** メッセージ内の文字が正しく表示されるようにするためには、UTF-8 を選択しておくことをお勧めします。
 - **メッセージテキスト。**
 - **転送先アドレス。** 受信メッセージを他のメールアドレスに転送する場合、このボックス内に転送先のメールアドレスを入力してください。
 - **添付ファイル。** メッセージにファイルを添付するには、**【参照】** をクリックしてファイルを選択します。
4. **【OK】** をクリックします。

➤ メールアドレスに設定した自動返信をオフにするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【メール】** タブで **【メールアドレス】** > **【自動返信】** タブに進みます。
3. 自動返信をオフにするには、**【自動返信を有効にする】** チェックボックスをオフにして、**【OK】** をクリックします。

スパムから防御する

➤ メールボックスのスパムフィルタを有効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メールアドレス】>【スパムフィルタ】タブに進みます。
3. 【このメールアドレスに対してスパムフィルタを有効にする】チェックボックスをオンにします。
4. スパムに分類されたメッセージをどのように処理するかを指定します。
 - ローカルコンピュータのソフトウェアを使用してメールをフィルタする場合は、【スパムメッセージの件名に指定テキストを追加してマーキングする】オプションを選択し、スパムフィルタがスパムとして認識したメッセージをマーキングする方法を指定します。デフォルトでは、「X-Spam-Flag: YES」ヘッダおよび「X-Spam-Status: Yes」ヘッダがメッセージソースに付加され、必要に応じて件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。
 - スパムフィルタの精度を信頼できる場合、スパムと認識されたすべての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。この場合、【スパムメッセージをすべて削除する】オプションを選択します。
 - IMAP プロトコル経由でメールボックスにアクセスしており、スパムと見なされたすべてのメッセージをスパムフィルタによって「Spam」という名前の IMAP フォルダに移動させたい場合は、【スパムをスパムフォルダに移動する】オプションをオンにしてください。

すべてのメッセージは 30 日後に「Spam」フォルダから自動的に削除されるため、重要なメッセージを見落とさないように「Spam」フォルダのコンテンツは定期的に確認し、スパムではないすべてのメッセージを受信フォルダに戻す必要があります。

【スパムをスパムフォルダに移動する】オプションをオンにすると、スパムフィルタを学習させ、受信ボックスから「Spam」へ、あるいは「Spam」から受信ボックスへスパムメッセージを移動して精度を上げることができます。
5. スパムフィルタの感度を調節したい場合は、【高度な設定を表示する】をクリックして、メッセージがスパムとみなされるスコアを示すポイント数を入力してください。

SpamAssassin は、各メッセージの本文と件名に対して複数のテストを実行します。そのため、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高いほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名と本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」が含まれるメッセージのスコアは、8.3 ポイントになります。デフォルトで、スコアが 7 ポイント以上のメッセージをスパムと分類するようにフィルタ感度が設定されています。

- 現在の設定であまりに多くのスパムメッセージが届くため、スパムフィルタの感度を上げるには、[スパムフィルタの感度] ボックスの値を6などに下げて設定してみてください。
- スпамフィルタでジャンクとみなされて必要なメールを受信できないため、スパムフィルタの感度を下げるには、[スパムフィルタの感度] ボックスの値を上げて設定してみてください。

注：スパムフィルタの精度を向上するには、このセクションの説明に従い、受信メールメッセージのスパムフィルタに学習させることができます。

6. 特定の送信者からのメールを常に受信したい場合は、メールアドレスまたはドメイン名を[ホワイトリスト] フィールドに追加してください。
複数のアドレスが存在する場合は、アドレスごとに改行するか、コンマ、コロン、スペースでアドレスを区切ってください。アスタリスク(*)は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符(?)は任意の一文字を意味します。例えば「address@mycompany.com」、
「user?@mycompany.com」、「*@mycompany.com」のように入力します。
「*@mycompany.com」を指定すると、「mycompany.net」というドメインを持つすべてのメールアドレスがホワイトリストに追加されます。
7. 特定のドメインや特定の送信者からのメールを受信したくない場合は、メールアドレスまたはドメイン名を[ブラックリスト] フィールドに追加してください。
複数のアドレスが存在する場合は、アドレスごとに改行するか、コンマ、コロン、スペースでアドレスを区切ってください。アスタリスク(*)は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符(?)は任意の一文字を意味します。例えば「address@spammers.net」、
「user?@spammers.net」、「*@spammers.net」のように入力します。
「*@spammers.net」を指定すると、「spammers.net」ドメインを持つすべてのメールがブロックされます。
8. Windowsベースの顧客アカウントを使用している場合、信頼できる言語と文字セットも指定できます。指定された言語と定義された文字セットで記述されているメールメッセージは、スパムフィルタを通過し、スパムとマーキングされません。
9. Windowsベースの顧客アカウントでは、メールの送信元のコンピュータまたはネットワークのIPアドレスを指定することもできます。ネットワークアドレスを指定する場合、アドレスを入力して、スラッシュの後にネットワークマスクを追加します。例えば「192.168.10.10/24」のようにします。
10. [OK] をクリックします。

サーバの SpamAssassin スпамフィルタがアカウントに対してオンになっており、IMAP プロトコル経由でメールボックスにアクセスしている場合、スパムの検出精度を改善することができます。

➤ **スパム検出の精度を改善するには：**

1. メールボックスに、ウェブメールまたはメールクライアントプログラムでアクセスします。
2. 受信フォルダ内のメッセージを確認します。すべてのスパムメッセージを「Spam」フォルダに移動します。これにより、SpamAssassinスパムフィルタでのスパムの認識率が上がります。

ウイルスから保護する

システムをウイルスから防御するには、疑わしい添付ファイルは開かず、ホスティング事業者がアンチウイルスサービスを提供していればこれを有効にし、ファイアウォールおよびアンチウイルスソフトウェアがPCにインストールされていることを確認してください。また、オペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスとパッチをインストールします。

➤ メールボックスのアンチウイルスを有効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メールアドレス] > [アンチウイルス] タブに進みます。
3. [このメールアドレスに対してアンチウイルス防御を有効にする] チェックボックスをオンにします。
4. 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンを有効にできます。
5. [OK] をクリックします。

ウイルス感染したメッセージが届くと、メールで通知されます。プロバイダが Kaspersky Antivirus を使用している場合、[メール] タブの [メールアドレス] > [アンチウイルス] タブで構成することができます。

➤ メールボックスのアンチウイルスを無効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メールアドレス] > [アンチウイルス] タブに進みます。
3. [このメールアドレスに対してアンチウイルス防御を有効にする] チェックボックスをオフにします。
4. [OK] をクリックします。

(高度) メールグローバル設定を構成する

次のようなメールサービス設定を構成し、契約内で作成されたすべてのドメインに適用することができます。

- メールサービスのステータス。メールサービスのオン/オフを切り替えることができます。メールサービスがオフになっている場合は、メールメッセージを送受信できません。
- メールバウンス設定。デフォルトでは、貴社のドメインに存在しないメールアドレス宛でのメールメッセージを受け取ったメールサーバは、メールを受信し、処理して、該当する受信者がドメイン内に存在しないと認識してから、エラーメッセージ付きで送信者にメールを返します。以下のいずれかを選択できます。
 - 今後も、このようなメールは送信者に返す（[メッセージ付きでバウンスする] オプション）
 - 指定メールアドレスに転送する（[キャッチ転送] オプション）
 - 指定した IP アドレスを持つ外部メールサーバに転送する（[指定した IP アドレスの外部メールサーバに転送する] オプション）（※Windows ホスティングのみ）
 - メールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する（[拒否] オプション）
- ウェブメール。サービスプランに、アカウントで使用するウェブメールプログラムを選択するオプションが含まれている場合、グローバルメール設定でプログラムを選択できます。

➤ メールサービス設定を構成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [設定の変更] をクリックします。
3. 必要なオプションを選択し [OK] をクリックします。

メーリングリストを使用する

メーリングリストとは、多数のユーザが登録されているグループメールアドレスです。メーリングリストを使用して、複数の受信者宛てにメールメッセージを一括送信できます。メーリングリストに登録されたユーザ宛てに送信されるメールメッセージには、テキスト形式のメースからカラフルなニュースレターまで、さらには画像やリンクが組み込まれたプロモーション、マルチメディアや発表資料の添付など、あらゆるものを含めることができます。

メーリングリストのメカニズム：Parallels Panelにメーリングリストのメールアドレスを作成し、そこにユーザを登録します。メーリングリストのアドレス宛てにメッセージを送信すると、登録されたすべてのユーザがこのメッセージを受信します。

➤ **メーリングリストをセットアップしてユーザを登録するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メーリングリスト】タブに進みます。
3. 【メーリングリストの作成】をクリックします。
4. メーリングリストのアドレスを入力します。複数のウェブサイトを使用している場合は、メーリングリストを作成するウェブサイトを選択してください。
5. メーリングリストにユーザを登録するには、ユーザのメールアドレスを1行に1件ずつ入力します。
6. メーリングリストが作成されたことをメーリングリスト管理者に通知するためには、【メーリングリストの作成を管理者に通知する】チェックボックスをオンにします。
7. 【OK】をクリックします。

➤ **ユーザを登録または登録解除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メーリングリスト】タブに進みます。
3. メーリングリストのアドレスをクリックします。
4. 以下のいずれかを実行します。

- メーリングリストにユーザを登録するには、[登録者] フィールドにユーザのメールアドレスを1行に1件ずつ入力します。
 - ユーザの登録を解除するには、[登録者] フィールドから該当アドレスを削除します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **メーリングリストを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メーリングリスト] タブに進みます。
3. 削除するメーリングリストに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
4. 削除を確認して、[はい] をクリックします。

➤ **メーリングリストサービスと、現在選択されている契約で作成されたすべてのメーリングリストを無効にするには：**

1. [メール] タブで [メーリングリスト] タブに進みます。
2. [サービスを無効にする] をクリックします。

➤ **現在選択している契約のメーリングリストサービスを有効にするには：**

1. [メール] タブで [メーリングリスト] タブに進みます。
2. [サービスを有効にする] をクリックします。

タスクをスケジュールリングする

決まった時間にホスティングアカウントでスクリプトを実行する必要がある場合は、Panel のタスクスケジューラを使用して、スクリプトを自動実行することができます。

タスクをスケジューリングする (Linux ホスティング)

決まった時間にホスティングアカウントでスクリプトを実行する必要がある場合は、Panel のタスクスケジューラを使用して、スクリプトを自動実行することができます。

Panel のインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- `autoreport.php` - ドメインに関するレポートを毎日、毎週、毎月配信します (3 つの別々のタスク)。
- `backupmng` - スケジュールされたドメインバックアップを 30 分ごとに開始します。
- `statistics` - ドメイン別のリソース使用率の統計を生成します。
- `mysqldump.sh` - 3 つの MySQL データベース (`psadump`、MySQL、Horde データベース) のバックアップコピーを作成します。

これらのタスクは統計、データベース、レポートに関連しているため、変更または削除しないことをお勧めします。

➤ タスクをスケジューリングするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. [新しいタスクをスケジュールする] をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスはオンのままにします。
5. コマンドを実行する時間を指定します。
 - 分： 0~59 の値を指定します。
 - 時： 0~23 の値を指定します。
 - 日： 1~31 の値を指定します。
 - 月： 1~12 の値を指定するか、ドロップダウンボックスから月を選択します。
 - 曜日： 0~6 (日曜日が 0) の値を入力するか、メニューから曜日を選択します。

UNIX `crontab` エントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、以下の操作が可能です。

- 複数の値をコンマ区切りで入力する。2つの数字をハイフンでつなげると、包含範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
 - そのフィールドで許可されるすべての値を指定するには、アスタリスクを使用します。例えば、タスクを毎日実行する場合、[日] テキストボックスに「*」と入力します。「N」ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」という組み合わせを入力します（「N」はフィールドの値で、単位は分、時、日、月）。例えば、[分] フィールドに「*/15」と入力すると、15分ごとに起動するタスクがスケジュールされます。月と曜日は省略名で入力できます（Aug、Jul、Mon、Satなど、英単語の最初の3文字）。ただし、省略名をコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することはできません。
6. 実行するコマンドを指定します。[コマンド] 入力ボックスにコマンドを入力します。
- 例えば、バックアップ作成タスクを指定の時間に実行し、バックアップファイルを自分のメールアドレスに送信するには、次のコマンドを[コマンド]入力ボックスに指定します。
- ```
/usr/local/psa/admin/sbin/backupmng
```
7. [OK] をクリックします。

➤ **タスク開始時に通知を受け取るには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
2. [設定] をクリックし、通知ポリシーを指定します。

➤ **スケジュールリングされたタスクの実行を一時停止するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. 一時停止するタスクのリンクを、[コマンド] 列でクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ **スケジュールリングされたタスクの実行を再開するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。

3. 実行を再開するタスクのリンクを、[コマンド] 列でクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ **タスクをキャンセルするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. キャンセルするタスクの左側にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。



---

# タスクをスケジューリングする (Windows)

決まった時間にホスティングアカウントでスクリプトを実行する必要がある場合は、Panelのタスクスケジューラを使用して、スクリプトを自動実行することができます。

Panelのインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- Update antivirus database : Parallels Premium Antivirus データベースを更新します。
- Statistics calculation : トラフィックやディスク容量といったリソース使用量の統計を生成します。

これらのタスクはサイト統計、データベース、レポートに関連しているため、変更または削除しないことをお勧めします。

## ➤ タスクをスケジューリングするには :

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで **【高度なオペレーション】** グループにある **【スケジュール済みタスク】** に進みます。
3. **【新しいタスクをスケジュールする】** をクリックします。
4. スケジュールタスクを作成後すぐに有効化したい場合、**【スイッチオン】** チェックボックスはオンのまま残します。
5. **【説明】** フィールドにタスクの名前を入力します。
6. **【スケジューラからの通知】** で、スケジューラによるタスク実行時に通知するかどうかを指定します。使用可能なオプションは次のとおりです。
  - **スイッチオフ** : 通知しません。
  - **デフォルトメールに送信** : デフォルトメールアドレスに通知を送信します。
  - **指定するメールアドレスに送信** : 該当フィールドで指定したメールアドレスに通知を送信します。このオプションの選択後、右側のフィールドにメールアドレスを入力する必要があります。
7. 実行するコマンドまたは実行可能ファイルを指定します。**【実行可能ファイルのパス】** 入力ボックスに入力します。オプションを指定してコマンドを実行する必要がある場合は、オプションを **【引数】** フィールドに入力します。

- 例えば、ディスク容量を計算する統計計算タスクを実行し、example.com および example.net ドメインの詳細を表示するには、**【実行可能ファイルのパス】** 入力ボックスに次のパスを指定します。

```
C:\Program Files\Parallels\Parallels
Panel\admin\bin\statistics.exe
```

次に、以下のオプションを**【引数】** フィールドに入力します。

```
--disk-usage --process-domains=example.com, example.net -verbose
```

- 独自の php スクリプトをタスクスケジューラを使用して実行するには、次のパスを**【実行可能ファイルのパス】** 入力ボックスに指定します。

```
C:\Program Files (x86)\Parallels\Parallels
Panel\Additional\PleskPHP5\php.exe
```

次に、以下のスクリプトの場所を**【引数】** フィールドに入力します。

```
C:\Inetpub\vhosts\mydomain.tld\httpdocs\myscript.php
```

8. **【タスクの優先度】** フィールドで、適切な優先度を選択します。タスクの優先度は**【低】**、**【中】**、**【高】** から選択できます。
9. **【時】**、**【日】**、**【月】**、**【曜日】** フィールドで適切なチェックボックスをオンにして、コマンドをいつ実行するかを指定します。
10. **【OK】** をクリックしてタスクをスケジューリングするか、**【今すぐ実行する】** をクリックしてスケジュールしたタスクを今すぐ実行します。

#### ➤ **スケジューリングされたタスクの実行を一時停止するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで**【高度なオペレーション】** グループにある**【スケジュール済みタスク】** に進みます。
3. 一時停止するタスクを選択し、該当するリンクを**【説明】** 列でクリックします。
4. **【スイッチオン】** チェックボックスをオフにします。
5. **【OK】** をクリックします。

#### ➤ **スケジューリングされたタスクを再開するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで**【高度なオペレーション】** グループにある**【スケジュール済みタスク】** に進みます。

3. 実行を再開するタスクを選択し、該当するリンクを [説明] 列でクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

➤ **タスクをキャンセルするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. キャンセルするタスクの左側にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## (高度) データベースを使用する

ウェブサイト独自のデータ処理アプリケーションを組み込んだり、ウェブページをダイナミックに生成する場合は、データの保存や取得のためにデータベースが必要になります。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前に MySQL、PostgreSQL、または Microsoft SQL データベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。アプリケーションカタログからアプリケーションをインストールすると、必要なデータベースとデータベースユーザアカウントはすべて自動的に作成されます。

---

### データベースを管理する

Panel では、様々なデータベース管理オペレーションを実行できます。

- データベースの作成と削除
- 既存のデータベースのインポート
- コラボレーション用の追加データベースユーザアカウントの作成。

これらのオペレーションについて詳しくは、この章の各セクションを参照してください。

### データベースを作成する

➤ **顧客アカウントに新しいデータベースを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [高度なオペレーション] グループの [データベース] をクリックします。
4. [新しいデータベースの追加] をクリックします。
5. データベースの名前を入力します。  
名前は、先頭をラテン文字にし、英数字とアンダースコアだけを使用することをお勧めします (64 文字以内)。
6. 使用するデータベースタイプを、MySQL、PostgreSQL、Microsoft SQL Server から選択します。 [OK] をクリックします。

7. データベース管理者のクレデンシャルをセットアップするには、**【新しいデータベースユーザを追加する】** をクリックします。
8. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
9. **【OK】** をクリックします。

➤ **データベースとそのコンテンツを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで **【データベース】** に進みます。
3. 削除するデータベースのチェックボックスをオンにします。  
チェックボックスが灰色で表示された場合、このデータベースはウェブアプリケーションで使用されており、該当アプリケーションを削除しなければ削除することはできません。
4. **【削除】** をクリックします。
5. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。

## データベースをインポートする

➤ **既存のデータベースをインポートするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[データベース]** ( **[高度なオペレーション]** グループ) > **[新しいデータベースユーザを追加する]** の順に進みます。
3. データベースの名前を入力します。名前は、先頭をラテン文字にし、英数字とアンダースコアだけを使用することをお勧めします (64文字以内)。
4. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、またはMicrosoft SQLサーバです。 **[OK]** をクリックします。
5. データベース管理者のクレデンシャルをセットアップするには、 **[新しいデータベースユーザを追加する]** をクリックします。
6. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **[OK]** をクリックします。
7. **[ツール]** グループの **[Webadmin]** アイコンをクリックします。  
phpMyAdmin、phpPgAdmin、またはASPEnterpriseManagerデータベース管理ツールのインターフェースが別のブラウザウィンドウで開きます。データベース管理ツールにより、ウェブブラウザでデータベースユーザアカウントを操作したり、SQLクエリを実行できます。

MySQL データベースを使用している場合：

- a. 左フレームの **[クエリウィンドウ]** をクリックして、 **[ファイルのインポート]** タブをクリックします。
- b. データが含まれているテキストファイルを選択し、 **[Go]** をクリックします。
- c. **[テキストファイルよりデータを挿入する]** リンクをクリックします。

MS SQL データベースを使用している場合：

- a. 左フレームでデータベース名をクリックします。
- b. **[クエリ]** (虫メガネボタン) をクリックします。

- c. テキストエリアにスクリプトのテキストをコピーして [クエリの実行] をクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL、PostgreSQL、Microsoft SQL サーバクライアントや、Panel からアクセスできるウェブベースのデータベース管理ツール（ [ウェブサイトとドメイン] タブ > [データベース] > [データベース名] > [WebAdmin] ）を使用してください。

## データベースユーザアカウントを作成する

他のユーザと協力してウェブサイトを管理しており、これらすべてのユーザがデータベースにアクセスできるようにするには、別のユーザアカウントを作成する必要があります。

### ➤ データベースユーザアカウントを作成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] > [データベース名] の順に進み、 [新しいデータベースユーザを追加する] をクリックします。
3. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 [OK] をクリックします。

### ➤ データベースユーザのパスワードを変更するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、 [データベース名] > [データベースのユーザ名] をクリックします。
3. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

### ➤ Webadmin ツールでのデータベース管理にデフォルトで使用するユーザアカウントクレデンシャルを指定するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、データベース名をクリックします。

3. 必要なユーザアカウントに該当するチェックボックスをオンにします。
4. [DB Webadminのデフォルトに指定する] をクリックします。

➤ **データベースユーザアカウントを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、**データベース名**をクリックします。
3. 削除するユーザアカウントのチェックボックスをオンにします。
4. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。



---

## 外部データベースにアクセスする (Windows)

アプリケーションで外部データベースにアクセスしてデータを保存する必要がある場合、Panel 経由の ODBC 接続を確立する必要があります。

➤ **外部データベースへの ODBC 接続を確立するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ODBCデータソース] に進みます。
3. [新しいODBC DSNを追加する] をクリックします。
4. ODBC接続名およびその説明を、該当するフィールドに指定します。
5. [ドライバ] フィールドに必要なドライバを指定します。
6. [OK] をクリックします。
7. ドライバの構成画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパス、ユーザクレデンシャル、その他の接続オプションを、選択したドライバに応じて指定します。
8. [テスト接続] をクリックして、この設定で正しく接続できることを確認します。[終了] をクリックして作成を完了します。

➤ **ODBC 接続の設定を変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ODBCデータソース] に進みます。
2. リストから、必要な接続名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更します。
4. [テスト接続] をクリックして、新規設定で接続できることを確認します。[完了] をクリックして変更を保存します。

➤ **ODBC 接続を削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ODBCデータソース] に進みます。

2. 削除する接続のチェックボックスをオンにします。
3. [削除する] をクリックして削除を確認し、 [OK] をクリックします。

# （高度）データをバックアップおよび復元する

データの損失は、現在で一般的に発生する問題です。ハードウェアの故障、ハッカーの攻撃など、その原因は様々です。データの損失による影響を最小限に抑えるために、Panelにはバックアップ/復元機能が用意されています。バックアップ時に、Panelはアカウント構成とすべてのウェブサイトコンテンツを複数のファイルに保存します。いつでも自由にバックアップを復元し、破損したデータを復旧させたり、Panelを安定した状態に戻すことができます。

この章では、Panelで次のオペレーションを実行する方法を説明します。

- アカウントおよびサイトに関連するすべてのデータをバックアップする。詳しくは、「[アカウントとウェブサイトをバックアップする（238ページ）](#)」のセクションを参照してください。
- データベースをバックアップする（Windows）。詳しくは、「[データベースをバックアップする（Windows）（240ページ）](#)」のセクションを参照してください。
- バックアップをスケジュールする。詳しくは、「[バックアップをスケジュールリングする（241ページ）](#)」のセクションを参照してください。
- バックアップアーカイブからデータを復元する。詳しくは、「[データを復元する（246ページ）](#)」のセクションを参照してください。

---

## データをバックアップする

必要に応じて、Panel では次の 2 種類のバックアップを実行できます。

- **顧客アカウント設定**: このバックアップはサイズが小さく、構成に問題がある場合にアカウント設定を復元するのに便利です。
- **顧客アカウントの設定とコンテンツ**: このタイプのバックアップでは、Panel がすべてのウェブサイトのコンテンツも保存するため、ディスク領域とシステムリソースが余分に必要となります。このようなフルバックアップは、データの損失を防ぐ最適な方法です。

バックアップはいつでも手動で実行できますが、時間を指定してスケジュールすることも可能です。例えば、フルバックアップを 1 日に一度、サイト訪問者数が少ない夜間に行うように設定できます。バックアップのスケジュールについては、「バックアップをスケジュールする (241 ページ)」のセクションを参照してください。

### バックアップを保存する

Panel にバックアップを保存する方法は 2 つあります。

- **Panel で管理されているホスティングサーバ上に保存**: すべてのバックアップファイルは Panel サーバに他のアカウントコンテンツとともに保存されます。この場合、バックアップファイルは契約で提供されているディスク領域を消費します。
- **リモート FTP サーバ上に保存**: すべてのバックアップファイルはリモート FTP リポジトリに保存されます。この場合、バックアップファイルは契約で提供されているディスク領域を消費しません。バックアップを FTP アカウントに保存するように Panel を構成する方法は、このセクションで後述します。

- -
- 
-

## パスワード保護されたバックアップを作成する

Panel 11.0 から、バックアップ内の機密データをパスワードで暗号化し、保護できるようになりました。暗号化を施すことによって、たとえ外部バックアップストレージにセキュリティ侵害が発生しても、攻撃者はバックアップデータを搾取できなくなります。

バックアップのパスワードは、以下の方法で指定できます。

- FTP リポジトリ設定（ [ウェブサイトとドメイン] > [バックアップマネージャ] > [個人用 FTP リポジトリの設定] ）。
- Panel 内部リポジトリから任意の外部ロケーションへのバックアップファイルのダウンロード時。

これらのバックアップを Panel にアップロードして戻し、復元するときに、暗号化に使用したパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。

### 重要：

1. バックアップの暗号化に使用したパスワードを忘れた場合、パスワードの問い合わせはできません。そのため、バックアップファイル名とパスワードのリストを安全な場所に保管しておくことをお勧めします。
2. パスワード保護されたバックアップをアップロードまたは復元する際は、正しい暗号化パスワードを指定してください。Panel によるパスワードチェックはできません。正しくないパスワードを入力してもバックアップの復元は成功しますが、誤ったパスワードで復号化したことにより、バックアップ内のデータがオリジナルと一致しなくなり、破損する可能性もあります。

## FTP リポジトリを使用するように Panel を構成する

バックアップファイルの保存に FTP サーバを使用する場合、 [アカウント] タブ > [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [個人用 FTP リポジトリの設定] に FTP サーバの設定を指定する必要があります。

- FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
- バックアップファイルの保存先サーバのディレクトリ。
- FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード。
- バックアップ暗号化に Panel が使用するパスワード。

## アカウントとウェブサイトをバックアップする

➤ **アカウントおよびすべての契約に関連するすべてのデータをバックアップするには：**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [バックアップ] の順に選択してください。

2. 以下を指定します。

- バックアップファイル名のプレフィックスおよび説明。任意のファイル名を指定することはできませんが、バックアップファイル名にプレフィックスを付けるように Panel を設定することはできます。バックアップファイル名には、Panel により、バックアップファイルの作成日時（グリニッジ標準時間）が自動的に追加されます。
- バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、該当するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。
- バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- バックアップ完了時のメール通知。バックアップ完了時に通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
- バックアップするデータの種類。アカウント設定のみをバックアップすることも、アカウント設定とすべてのデータをバックアップすることもできます。
- バックアップが完了するまでドメインを一時停止する - このオプションを選択して、ウェブサイトのバックアップ中にユーザがコンテンツや設定を変更できないようにします。

---

注： このオプションをオンにする場合、このバックアップファイルからデータを復元した後で、ドメインエイリアスを必要とするすべてのサイトに対して手動でドメインエイリアスを有効にする必要があります。これを行うには、[ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループの [ドメインエイリアス] に進み、[ドメインエイリアス名] > [スイッチオン] を選択します。

---

3. [バックアップ] をクリックします。

バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

➤ **契約に関連するすべてのウェブサイトをバックアップするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [アカウント] タブで [ウェブサイトのバックアップ] > [バックアップ] の順に選択します。
3. 以下を指定します。
  - バックアップファイル名のプレフィックスおよび説明。任意のファイル名を指定することはできませんが、バックアップファイル名にプレフィックスを付けるように Panel を設定することはできます。バックアップファイル名には、Panel により、バックアップファイルの作成日時（グリニッジ標準時間）が自動的に追加されます。
  - バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、該当するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。
  - バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
  - バックアップ完了時のメール通知。バックアップ完了時に通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
  - バックアップするデータの種類。以下のバックアップを選択できます。
    - ウェブサイトの設定のみ
    - すべての設定とデータ（メールアカウントおよびメールボックス内のメッセージの有無を問わず）。
    - メッセージのあるメールアカウントのみ
  - **バックアップが完了するまでドメインを一時停止する** - このオプションを選択して、ウェブサイトのバックアップ中にユーザがコンテンツや設定を変更できないようにします。

---

**注：** このオプションをオンにする場合、このバックアップファイルからデータを復元した後で、ドメインエイリアスを必要とするすべてのサイトに対して手動でドメインエイリアスを有効にする必要があります。これを行うには、[ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループの [ドメインエイリアス] に進み、[ドメインエイリアス名] > [スイッチオン] を選択します。

---

4. [バックアップ] をクリックします。

バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

## データベースをバックアップおよび復元する (Windows)

Windows ベースの顧客アカウントを使用している場合、データベース、データベースユーザアカウント、ウェブサイトで使用されるデータをバックアップし、後で復元することができます。

以下が可能です。

- ドメインデータベースをすべてのデータとユーザアカウントごとバックアップする。
- データベースをバックアップファイルから復元する。
- データベースのバックアップファイルをダウンロード、アップロード、削除する。
- 復元後に孤立したユーザを復元する。

---

**重要：** Panel では、ストアドプロシージャ、ビュー、およびトリガーのバックアップは行われません。これらのオブジェクトはバックアップユーティリティで無視され、復元は不可能です。

---

### ➤ データベースをバックアップするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューで、バックアップしたいデータベースを選択します。
3. [バックアップ] をクリックします。
4. バックアップファイル名を指定して [OK] をクリックします。
5. 作成したバックアップファイルをダウンロードするには、バックアップ処理の終了後に、次のページでファイル名をクリックします。ファイルの保存場所を選択し、[保存] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

### ➤ データベースを復元するには：

1. コントロールパネルにログインします
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] の順に選択し、復元するバックアップファイルのチェックボックスをオンにして、[復元] をクリックします。



サーバにバックアップファイルがなければ、ローカルマシンからサーバリポジトリにバックアップファイルをアップロードできます。

該当するチェックボックスをオンにして復元を確認し、[OK] をクリックします。

➤ **バックアップリポジトリにバックアップファイルをアップロードするには：**

1. コントロールパネルの [ウェブサイトとドメイン] で、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] の順に選択し、[バックアップファイルのアップロード] をクリックします。
2. [データベース名]メニューで、バックアップファイルのアップロード先リポジトリのデータベースを選択します。
3. [参照...] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. バックアップファイルがアップロードされたらすぐにデータベースの内容を復元したい場合は、[アップロード後すぐにデータベースバックアップを復元する] チェックボックスをオンにしておきます。
5. [OK] をクリックします。

データベースバックアップファイルが、指定したデータベースのバックアップリポジトリにアップロードされます。

## バックアップをスケジューリングする

➤ **データのバックアップをスケジューリングするには：**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [スケジュール済みバックアップの設定] の順に選択してください。
2. [このバックアップタスクを有効化する] チェックボックスをオンにして、以下を指定します。
  - バックアップを実行する時間と頻度。
  - バックアップファイル名に追加するプレフィックス。
  - バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、対応するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。ボリュームサイズを 4095 メガバイト以上にすることはできません。
  - バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
  - リポジトリに保存されるバックアップファイルの最大数。バックアップファイルをリサイクルする場合は、数字を入力します。この上限に達すると、最も古いバックアップファイルが削除されます。

- バックアップでエラーが発生したときのメール通知。バックアップでエラーが発生した場合にメール通知を送信するには、メールアドレスを入力します。
  - バックアップするデータの種類。アカウント設定のみをバックアップすることも、アカウント設定とすべての関連データをバックアップすることもできます。
  - ウェブサイトのバックアップ中に、ユーザがウェブサイトのコンテンツや設定を変更できないようにするには、[バックアップが完了するまでドメインを一時停止する] をオンにします。
3. [OK] をクリックします。

---

# バックアップファイルを管理する

## バックアップファイルをアップロード/ダウンロードする

### Panel からバックアップファイルをダウンロードする

Panel リポジトリからバックアップファイルをダウンロードするには、[アカウント] タブ> [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] で該当するバックアップファイル名を選択して、ファイルの保存場所を指定します。Panel はダウンロード開始前に、バックアップパスワードの入力を求めます。このパスワードは、Panel がバックアップデータに対して使用する一意の暗号鍵のベースとなります。

### バックアップファイルを Panel にアップロードする

Panel リポジトリにバックアップファイルをアップロードするには、[アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] から [サーバリポジトリにファイルをアップロードする] ウィザードを実行します。アップロード開始前に、以下のバックアップパラメータの入力が Panel から要求されます。

- バックアップファイルの保存場所。
- 暗号化パスワード。  
これはバックアップデータの暗号化に使用したパスワードです。暗号化を使用しなかった場合は、該当するフィールドを空白のまま残してください。

---

**注：** パスワードの入力が正しくないと、Panel は警告を發しますが、サーバへのバックアップのアップロードは実行されます。バックアップの復元中に、このパスワードを再入力することを求められます。

---

### バックアップファイルを削除する

Panel リポジトリからバックアップファイルを削除するには、[アカウント] タブ> [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] で削除対象のバックアップファイルのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。


## データベースバックアップファイルをアップロード/ダウンロードする (Windows)

### ➤ バックアップリポジトリにバックアップファイルをアップロードするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進み、[バックアップファイルのアップロード] をクリックします。
2. [データベース名]メニューで、バックアップファイルのアップロード先リポジトリのデータベースを選択します。
3. [参照...] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. バックアップファイルのアップロード後すぐにデータベースの内容を復元する場合は、[アップロード後すぐにデータベースバックアップを復元する] チェックボックスをオンにしておきます。
5. [OK] をクリックします。

データベースバックアップファイルが、指定したデータベースのバックアップリポジトリにアップロードされます。

### ➤ バックアップリポジトリからバックアップファイルをダウンロードするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューで、バックアップファイルを参照したいデータベースを選択します。ドメイン上のすべてのデータベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択しておきます。
3. ダウンロードするデータベースバックアップファイルの  アイコンをクリックします。
4. バックアップファイルの保存場所を選択し、[保存] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

### ➤ バックアップリポジトリからバックアップファイルをダウンロードするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューで、バックアップファイルを削除するデータベースを選択します。ドメイン上のすべてのデータベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択しておきます。
3. 削除するデータベースバックアップファイルのチェックボックスをオンにします。[削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

# データを復元する

## バックアップを復元する

次の場所に保存されたバックアップファイルからデータを復元できます。

- **Panel の内部リポジトリ。**  
Panel リポジトリからバックアップファイルを復元するには、[アカウント] タブ > [バックアップ] [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [サーバーリポジトリ] タブで、復元対象のバックアップファイル名を選択します。
- **外部 FTP リポジトリ。**  
Panel リポジトリからバックアップファイルを復元するには、[アカウント] タブ > [バックアップ] > [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [個人用 FTP リポジトリ] タブで、復元対象のバックアップファイル名を選択します。

バックアップファイルを選択すると、復元ウィザードが起動します。以下の復元パラメータを指定することが求められます。

- **復元するデータのタイプ。**
- **復元タスクが完了するまでウェブサイトを一時停止する：** これを選択することにより、サイトのコンテンツや設定の復元中にユーザがコンテンツや設定を変更すると発生する可能性がある競合を回避することができます。
- **復元タスクが完了したときにメール通知を送信する：** 復元タスクが完了したときにコントロールパネルから通知が欲しい場合は、メールアドレスを入力します。
- **競合解決ポリシー：** 復元中に競合が発生した場合に実行する処理を指定します。
- **[バックアップセキュリティ設定]：** バックアップがパスワード保護されている場合、[パスワード] フィールドにパスワードを入力してください。Panel では、パスワードの正否をチェックできません。バックアップの復元は完了しますが、データが破損される可能性があります。  
ユーザパスワードをリセットする場合は、[ユーザパスワードを復号化します] オプションをクリアしてください。

データの復元中にエラーまたは競合が発生した場合は、適切な解決策を選択するためのウィザードが起動します。画面の指示に従ってウィザードを完了してください。

## データベースを復元する (Windows)

➤ データベースが既に存在しており、内容だけを復元したい場合は、以下を実行してください。

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. リストから必要なバックアップファイルを選択し、[選択したデータベースをバックアップから復元する] をクリックします。

サーバにバックアップファイルがなければ、ローカルマシンからサーバリポジトリにバックアップファイルをアップロードできます。詳しくは、「データベースバックアップファイルをアップロード、ダウンロード、削除する」のセクションを参照してください。

3. 該当するチェックボックスをオンにして復元を確認し、[OK] をクリックします。

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるように、ユーザを修復する必要があります。詳しくは「孤立したデータベースユーザを修復する」のセクションを参照してください。

### 復元後にデータベースを修復する

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立してしまう場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるように、ユーザを修復する必要があります。

➤ **孤立したユーザがデータベースに存在しないか確認するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブの [高度なオペレーション] グループで [データベース] に進み、[データベース名] を選択します。
2. 修復しなければ正しく機能しない孤立ユーザが複数存在するという警告が表示された場合、孤立ユーザを修復する必要があります。
3. 孤立したユーザを修復するには、修復したいユーザに対して [修復する] ボタンをクリックします。
4. このユーザのパスワードを入力して [修復] をクリックします。

パスワードのないシステムユーザである場合は、パスワードフィールドを空にして修復を実行してください。